

独立行政法人 国立病院機構

東京医療センター

National Hospital Organization Tokyo Medical Center

業 績 集

2023 年 4 月



2024 年 3 月

【 第 34 集 業 績 】

2023 年 4 月 ▶ 2024 年 3 月

目 次

◆ 総合内科	2
◆ 腎臓・内分泌・代謝内科	8
◆ リウマチ膠原病内科	9
◆ 血液内科	11
◆ 消化器内科	12
◆ 循環器内科	15
◆ 呼吸器内科・アレルギー科	18
◆ 脳神経内科	20
◆ メンタルケア科	21
◆ 小児科	23
◆ 一般・消化器外科	25
◆ 乳腺外科	28
◆ 整形外科	31
◆ 形成外科	38
◆ 脳神経外科	40
◆ 呼吸器外科	42
◆ 心臓血管外科	43
◆ 皮膚科	44
◆ 泌尿器科	45
◆ 産婦人科	47
◆ 眼科	48
◆ 耳鼻咽喉科	57
◆ 放射線治療科	67
◆ 放射線診断科	70
◆ 歯科口腔外科	71
◆ 麻酔科	72
◆ 救急科（救命救急センター）	73
◆ リハビリテーション科	75
◆ 緩和ケア内科	76
◆ 臨床検査科（病理）	78
◆ 臨床腫瘍科	79
◆ 薬剤部	80
◆ 看護部	82
◆ 放射線科（技師）	84
◆ 臨床検査科（技師）	85
◆ 医療機器中央管理室	87
◆ 栄養管理室	88
◆ 院内感染対策室（ICT/AST）	89
◆ クリティカルケア支援室	91
◆ 医療福祉相談室	93
◆ 臨床研究センター 分子細胞生物学研究部	94

【論 文】

1. Iwamoto M, Nakazawa A, Honda M, Yoshikawa S, Kato T, Gineste Y. Behavioural changes in the interaction between child with autism spectrum disorder and mother through the Comprehensive Care Humanity™ intervention. In Proceedings of the Annual Meeting of the Cognitive Science Society 2023; 45: 3070-3077.
2. Tanaka M, Matsumura S, Bito S. Roles and competencies of doctors in artificial intelligence implementation: qualitative analysis through physician interviews. JMIR Form Res 2023; 7: e46020.
3. Sato W, Nakazawa A, Yoshikawa S, Kochiyama T, Honda M, Gineste Y. Behavioral and neural underpinnings of empathic characteristics in a humanity-care expert. Front Med (Lausanne) 2023; 10: 1059203.
4. Bito S. Effect of handing a written document to share concerns and values with physicians when making decisions about starting drug treatment among patients: A pre-post quasi-experimental study with propensity score matching. J Biotechnol Biomed 05 June 2023.
5. Nakazawa A, Iwamoto M, Kurazume R, Nunoi M, Kobayashi M, Honda M. Augmented reality-based affective training for improving care communication skill and empathy. PLoS One 2023; 18: e0288175.
6. Bito S. Ethical, legal, and social issues related to the retrieval of personal information through digital contact tracing apps: Lessons from Japan. International Journal of Health Sciences 2023 Aug 8.
7. Ichihara YK, Shiraishi Y, Kohsaka S, Nakano S, Nagatomo Y, Ono T, Takei M, Sakamoto M, Mizuno A, Kitamura M, Niimi N, Kohno T, Yoshikawa T; West Tokyo Heart Failure Registry. Association of pre-hospital precipitating factors with short- and long-term outcomes of acute heart failure patients: A report from the WET-HF2 registry. Int J Cardiol 2023; 389: 131161.
8. Ikemura N, Spertus JA, Nguyen DD, Kimura T, Katsumata Y, Fu Z, Jones PG, Niimi N, Shoji S, Ueda I, Tanimoto K, Suzuki M, Fukuda K, Takatsuki S, Kohsaka S. Baseline health status and its association with subsequent cardiovascular events in patients with atrial fibrillation. JACC Clin Electrophysiol 2023; 9: 1934-1944.
9. Ohata T, Niimi N, Shiraishi Y, Nakatsu F, Umemura I, Kohno T, Nagatomo Y, Takei M, Ono T, Sakamoto M, Nakano S, Fukuda K, Kohsaka S, Yoshikawa T. Initiation and up-titration of guideline-based medications in hospitalized acute heart failure patients: A report from the West Tokyo Heart Failure Registry. Circ J 2023; 88: 22-30
10. 本田美和子, Yves Gineste. 空間と人間：関係性の哲学・ユマニチュードと人間を取り巻く空間についての論考. 日本エンドオブライフケア学会誌 2024; 8: 1-4

【著 書】

1. 太良史郎, 山田康博. 高齢者診療ステップアップ 入院リスクの説明と同意: 入院関連合併症の予防・対策. *Medicina* 2023; 60: 1500-1503.
2. 尾藤誠司. 患者の意思決定にどう関わるか? ロジックの統合と実践のための技法. 医学書院 2023. 9.
3. 新美望. 心不全診療 Controversy: 29 章『貧血合併心不全患者はどのようにマネージメントすればよいのか?』 医学社 2023; 10: 165-171.
4. 太良史郎. 患者さんの質問にどう答えますか? Q30 尿検査では何をみているのですか? *Medicina* 2023; 60: 1848-1849
5. 太良史郎. 患者さんの質問にどう答えますか? Q31 血液検査でわかるものをすべて調べてください. 詳しく血液検査をすれば健康かどうかわかりますよね? *Medicina* 2023; 60: 1850-1851
6. 本田美和子. ユマニチュード: 自律と自立を支えるための優しさを伝えるマルチモーダル・コミュニケーションケア技法. 総合リハビリテーション 2023; 51 巻 12 号

【学会・研究会発表】

1. Katayama M. Clinical reasoning -for senior doctors. APSARA and Philippine Medical Association Conference, Lecturer. 2023.11.10.
2. Katayama M. Internal medicine quiz competition. APSARA conference in Cambodia, Lecturer. 2023.11.11.
3. 本田美和子. プライマリケア専門職チームが支える「HIV と共に生きる人々の暮らしと未来」. 第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 名古屋, 2023. 4. 12.
4. 林智史. 医師主導によるユマニチュード活動の報告. 第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 2023. 5. 14.
5. 林智史. 当院と複数の地域包括支援センターとの連携強化の報告. 第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2023. 5. 14.
6. 松井貴裕, 林智史. 両下腿浮腫, 紅斑の原因が好酸球性蜂窩織炎であった 1 例. 第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 2023. 5. 14.
7. 本田美和子, Yves Gineste. 拡張現実デバイスを用いて医療コミュニケーションを学ぶシミュレーション教育システム実践ワークショップ. 第 55 回日本医学教育学会大会. 長崎, 2023. 7. 29.
8. 本田美和子. 最期まで安心して過ごしていただくためのケア技法: ユマニチュード. 日本エンドオブライフケア学会第 6 回学術集会. 2023. 9. 16. オンデマンド配信
9. 本田美和子. 優しさを伝える看護の技術: ユマニチュード. 第 20 回日本循環器看護学会学術集会. 2023. 9. 17. online
10. 片山充哉. 医師がユマニチュード®を学ぶ意義. 第 5 回日本ユマニチュード学会総会シンポジウム. 富山, 2023. 9. 23.
11. 林智史. 総合病院の医師としての実践. 第 5 回日本ユマニチュード学会総会シンポジウム. 富山, 2023. 9. 23.
12. 林智史, 本田美和子, 片山充哉, 小林正樹, 藤岡菜穂子. 急性期老年医療に携わる医師を対象とした人工知能によるビデオ解析を用いたマルチモーダル包括的コミュニケーションスキルトレーニングの効果. 第 5 回日本ユマニチュード学会総会. 富山, 2023. 9. 23.

13. 本田美和子, Yves Gineste. 日本のユマニチュード認証制度のこれから. 第5回日本ユマニチュード学会. 富山, 2023. 9. 24.
14. 尾藤誠司. 人工知能が実装された診察現場における共同意思決定のコミュニケーション:「期待に対する応召」部分の概念整理. ヘルスコミュニケーションウィーク 2023. 福島, 2023. 9. 30.
15. 本田美和子. ユマニチュード:共感と信頼ってなんだろう? 第51回日本歯科麻酔学会総会・学術大会及び第14回アジア歯科麻酔学連合学術大会. 長崎, 2023. 10. 8.
16. 尾藤誠司. AI普及が医療に及ぼす影響やその倫理的問題. 第42回日本医学哲学・倫理学会大会「医哲カフェ」. 東京, 2023. 10. 14.
17. 中瀬大, 尾田正仁, 新美望, 小林昌弘, 森伸晃, 三嶋廣繁, 片山充哉. カルバペネム投与中に耐性が誘導され抗菌薬変更によって治療しえた *Aeromonas veronii* 菌血症の一例. 第72回東日本感染症学会. 2023. 10. 25.
18. 湯川堅也, 尾田正仁, 森伸晃. 血液培養から酵母様真菌が分離 その後 *Exophiala dermatitidis* と質量分析で同定された1例. 第72回東日本感染症学会. 2023. 10. 25.
19. 武内偲乃, 小川千晶, 新保一, 氷渡かおり, 稲葉悠, 渡慶次里佳, 小田実季, 筒浦萌子, 片山充哉, 駒ヶ嶺順平, 栗原智宏, 大塚知信. 当院における救急科患者でのバンコマイシン採血ポイントの違いによる腎機能障害の出現率の比較. 第72回東日本感染症学会. 2023. 10. 25.
20. 須江悠人, 小林昌弘, 湯川堅也, 尾田正仁, 片山充哉, 森伸晃. 免疫機能正常者の入院早期の血液培養から分離された *Candida kefyr* の1例. 第72回東日本感染症学会. 2023. 10. 25.
21. 豊田奨, 太良史郎. ジアフェニルスルホン酸による薬剤性 HbA1c 偽性低値の1例. 第691回内科学会関東地方会. 東京, 2023. 11. 18.
22. 米村滋人, 奥村貴史, 尾藤誠司, 溝端俊介. 携帯電話関連技術を用いた感染症対策に関する包括的検討: 社会対話班からの活動報告: 2つの市民調査を中心に. 第43回医療情報学連合大会. 神戸, 2023. 11. 24.
23. 本田美和子. 急性期で活用できるユマニチュード～高齢者の栄養管理を考える. 第27回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都, 2024. 1. 28.
24. 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術. 医療マネジメント学会東京支部. 東京, 2024. 2. 18.

【講演】

1. 片山充哉. 臨床現場におけるコミュニケーションと行動変容. 奈良県立医科大学. 2023. 4. 7.
2. 片山充哉. 症例を通じた臨床推論. 亀田総合病院. 2023. 4. 14.
3. 尾藤誠司. インフォームド・コンセントから共同意思決定へ. 江戸川区医師会医療倫理講習会. 東京, 2023. 6. 1.
4. 片山充哉. 症例を通じた臨床推論. 厚生連富山高岡病院. 2023. 6. 2.
5. 宗大輔, 林智史. 認知症と人生会議. 目黒区認知症カフェ (Dカフェ) 2023. 6. 14.
6. 新美望. 救急外来での循環器疾患における病歴・身体所見の有効活用法. ACP Japan 年次総会・講演会 2023. Core Clinical Theater. 2023. 6. 25.
7. 片山充哉. 優しさを伝えるケア技術ユマニチュード. 北海道厚生連病院, 2023. 7. 1. online
8. 片山充哉. 優しさを伝えるケア技術ユマニチュード. 長野県大町総合病院, 2023. 7. 7.
9. 林智史. 大分大学新家庭医専攻医勉強会. 大分大学, 2023. 7. 27. online
10. 片山充哉. 症例を通じた臨床推論. 埼玉協同病院, 2023. 7. 28.

11. 尾藤誠司. 医療の質とその評価について. 令和5年度都道府県指導者養成研修(がん化学療法チーム研修企画) 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所. 2023. 8. online
12. 片山充哉. 優しさを伝えるケア技術ユマニチュード. 安房地域医療センター, 2023. 8. 2.
13. 松井貴裕, 林智史. 誰がなってもおかしくない認知症シリーズ 認知症予防について. 目黒区民向け講座. 常圓寺, 2023. 8. 3.
14. 片山充哉. NPに必要な抗菌薬の知識. 第1回日本NP学会関東地方会学術集会総会, 2023. 8. 19.
15. 尾藤誠司. 患者の意思決定にどうかかわるか? 令和5年度総合診療指導医セミナー. 国立病院機構長崎医療センター, 2023. 9. 16.
16. 本田美和子. 国内におけるユマニチュード. 福岡市認知症フレンドリーセンターオープニング記念ミニセミナー 2023. 9. 18.
17. 片山充哉. 症例を通じた臨床推論. 亀田総合病院, 2023. 9. 22.
18. 本田美和子. やさしさを伝えるケア技法 ユマニチュードを創業者から学ぶ. 第56地域医療連携談話会. 市立大町総合病院, 2023. 10. 2.
19. 片山充哉. 症例を通じた臨床推論. 厚生連富山高岡病院, 2023. 10. 6.
20. 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術・ユマニチュード. 郡山市医療介護病院, 2023. 10. 14.
21. 林智史. ACPを絡めて在宅療養について. 令和5年野毛地区出張相談・在宅医療ミニ講座. 野毛区民集会場, 2023. 10. 18.
22. 片山充哉. 臨床推論の進め方. 亀田総合病院, 2023. 10. 20.
23. 片山充哉. Humanitude 優しさを伝えるケア技術. 埼玉協同病院, 2023. 10. 26.
24. 林智史. 医師主導による院内ユマニチュード〜フランスでのユマニチュードの経験も含めて. 埼玉協同病院, 2023. 10. 26.
25. 本田美和子. Humanitude au Japon. Société Internationale de Médecine Informative, Paris, 2023. 11. 4.
26. 本田美和子. Humanitude au Japon. Congres des approches non medicamenteuses, Paris, 2023. 11. 7.
27. 林智史. そうだったのか! 会議〜認知症対応について. 令和5年度第2回深沢地域多職種連携会議. 2023. 11. 8. online
28. 本田美和子. Humanitude au Japon. et IT 18ème journées des Formateurs Humanitude, Paris, 2023. 11. 9.
29. 尾藤誠司. 对患者コミュニケーションの苦手をどう乗り越えるか. 医師向けwebセミナー. 株式会社メディカルリソース, 2023. 11. 21. online
30. 片山充哉. 症例を通じた臨床推論. 埼玉協同病院, 2023. 11. 22.
31. 本田美和子. やさしさを伝えるケア技法:ユマニチュード. 北里大学看護部講演会, 東京, 2023. 11. 30.
32. 片山充哉. 症例を通じた臨床推論. 厚生連富山高岡病院, 2023. 12. 1.
33. 林智史. 院内ユマニチュードのススメ〜急性期病院での認証制度の取得に向けた取り組みについて. 富山県立中央病院, 2023. 12. 1.
34. 片山充哉. ポストコロナ時代のAMR. 世田谷医師会医学会. 2023. 12. 2.
35. 仲田太郎, 林智史. 誰がなってもおかしくない認知症: シリーズ 認知症になった時、診断や治療について. 目黒区民向け講座. 常圓寺, 2023. 12. 7.
36. 尾藤誠司. 患者の意思決定にどう関わるか? 日本プライマリ・ケア学会東京都支部拡大交流会. 2023. 12. 13. online

37. 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術・ユマニチュード. 目黒区介護者のつどい. 東京, 2024. 1. 18.
38. 本田美和子. すべてのひとに優しさを伝えるコミュニケーションケア技法: ユマニチュード. 奈良公私立幼稚園協会講演会. 奈良, 2024. 1. 26.
39. 本田美和子. 優しさを伝える介護技術・ユマニチュード. 世田谷区第 150 回区民のための健康教室. 東京, 2024. 1. 26.
40. 本田美和子. プライマリケアに役立つ優しさを伝えるケア技術. ユマニチュード総合診療を広く応援する会. 東京, 2024. 1. 28.
41. 片山充哉. 症例を通じた臨床推論. 厚生連富山高岡病院, 2024. 2. 2.
42. 尾藤誠司. 意思決定コミュニケーションと患者医療者関係. 東京ほくと医療生活協同組合王子生協病院, 2024. 2. 3. online
43. 尾藤誠司. 患者力. World Cancer Week 2024. 一般社団法人 CancerX. 2024. 2. 3. online
44. 本田美和子. 認知症ケア技法について. 全日本病院協会講演会. 2024. 2. 20. online
45. 本田美和子. 優しさを伝え合うケア技術・ユマニチュード®. 慶應義塾大学病院シンポジウム. 2024. 3. 8.
46. 豊田奨, 林哲朗, 林智史. 誰がなってもおかしくない認知症: シリーズ 認知症のかたの ACP について. 目黒区民向け講座. 常圓寺, 2023. 3. 8.
47. 本田美和子. Long-term care environment in Japan; Launch of the market study elderly care Japan. オランダ経済省/在日オランダ大使館, 2024. 3. 27. online

【その他】

1. 本田美和子. 第 22 回ケアの実践・返事がなく意思の疎通がとれないと感じる相手とのコミュニケーション 1: オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2023. 4. 27.
2. 本田美和子. 第 23 回ケアの実践・返事がなく意思の疎通がとれないと感じる相手とのコミュニケーション 2: オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2023. 5. 27.
3. 尾藤誠司. AI 時代に診療室での患者と医師の会話はどうか変わる? Medicina 2023 年 10 月増大号座談会. 2023. 6. 7. online
4. 本田美和子. 第 24 回ケアの実践・入浴: オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2023. 6. 28.
5. 本田美和子. 認知症のケア技法「ユマニチュード」. 福岡市人権啓発ラジオ番組「こころのオルゴール」2023. 7. 13. online
6. 本田美和子. 第 25 回ケアの実践・暑いとき: オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2023. 7. 26.
7. 林智史. 高齢者の食思不振: 臨床推論しながらユマニチュードも学ぶ. 大分大学, 2023. 7. 27. online
8. 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術: ユマニチュード(前編)「HEART nursing」未来派 Topic 2023; 35 メディカ出版
9. 本田美和子. 第 26 回福岡市とユマニチュード: オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2023. 8. 29.

10. 本田美和子. 優しさを伝えるケア技術：ユマニチュード（後編）「HEART nursing」未来派 Topic 2023; 36 メディカ出版
11. 本田美和子. 第 27 回 ユマニチュードの理念が実現する場を作るために：ユマニチュード認証制度と富山県立大学の取り組み：オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2023. 9. 28.
12. 片山充哉. アドバンスドセミナーファシリテーター. 第 29 回日本臨床微生物学会. 2023. 10. 14.
13. 片山充哉. Uptodate kickoff meeting. Uptodate Board member. 東京, 2023. 10. 19.
14. 林智史. 世田谷区 ACP 講習会ファシリテーター. 梅丘パークホール, 2023. 11. 9.
15. 本田美和子. 第 28 回ノックはなぜ必要か：オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2023. 10. 30.
16. 本田美和子. 第 29 回ユマニチュードの 5 原則と生活労働憲章：オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2023. 11. 29.
17. 尾藤誠司. HITE 研究者フラッシュトーク HITE2023 カンファレンス. 東京, 2023. 12. 3.
18. 林智史, 片山充哉, 本田美和子. 医師とユマニチュード. 雨宿りの木, 2023. 12. 9. online
19. 本田美和子. 第 30 回救急隊が実践するユマニチュード：オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2023. 12. 26.
20. 本田美和子. 第 11 回ユマニチュード市民公開講座「生存科学研究ニュース」Vol. 38 No. 4 公益財団法人 生存科学研究所 2024. 1.
21. 本田美和子. ユマニチュードで笑顔に. 第 20128 号 3 面. 公明新聞, 2024. 1. 13
22. 本田美和子. 第 31 回 コミュニケーションを定量する：オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン, 2024. 1. 26.
23. 本田美和子. 第 32 回 働く人の体を守るために生まれた技術：オンライン連載『雨宿りの木』生活者のための医療と介護のはなし. ミシマ社のウェブ雑誌みんなのミシマガジン 2024. 2. 28.

【論文】

1. Sankoda A, Suzuki H, Imaizumi M, Yoshihara A, Kobayashi S, Katai M, Hamada K, Hidaka Y, Yoshihara A, Nakamura H, Kubota S, Kakita-Kobayashi M, Iwase A, Sugiyama T, Ota E, Arata N. Effects of levothyroxine treatment on fertility and pregnancy outcomes in subclinical hypothyroidism: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. Thyroid 2024; 34: 519-530.

【学会・研究会発表】

1. 小林佐紀子. 妊娠前の潜在性甲状腺機能低下症に対するレボチロキシン治療は妊孕性や流産などを改善させるか? 第96回日本内分泌学会学術総会. 名古屋, 2023. 6. 2.
2. 橋元麻里子, 織部峻太郎, 藤村慶子, 門松賢, 松浦友一. IgAの係蹄壁への沈着を伴う半月体形成性糸球体腎炎の一例. 第53回日本腎臓学会東部学術学会. 仙台, 2023. 9. 16.
3. 織部峻太郎, 橋元麻里子, 藤村慶子, 門松賢, 松浦友一. 常染色体優性尿細管間質性腎疾患(ADTKD)により透析導入となった一例. 第53回日本腎臓学会東部学術学会. 仙台, 2023. 9. 17.
4. 小林佐紀子. バセドウ病治療におけるBlock and Replace療法の是非: Consの立場より. 第66回日本甲状腺学会学術集会. 金沢, 2023. 12. 8.
5. 小林佐紀子, 小菅由果, 渡邊奈津子, 吉村弘, 小谷依里奈, 岩瀬恭子, 伊藤公一, 松浦友一. PD-1阻害薬投与後連続して2回発熱疼痛を伴う破壊性甲状腺炎を生じた一例. 第66回日本甲状腺学会学術集会. 金沢, 2023. 12. 8.

【講演】

1. 松浦友一. HIF-PH阻害薬の新展開: FGF23について. 透析期のHIF-PH阻害薬の立ち位置を考える. 東京, 2023. 4. 20.
2. 門松賢. HIF-PH阻害薬を使用する為に知っておくべきこと: エキスパートから学ぶ! 心不全 x 腎性貧血. 東京, 2023. 4. 24.
3. 小林佐紀子. 妊娠前の潜在性甲状腺機能低下症に対するレボチロキシン治療は妊孕性や流産などを改善させるか? 第50回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会ランチョンセミナー. 東京, 2023. 5. 13.
4. 松浦友一. UpToDateから考える: 高尿酸血症の現状. ユリスWEBチャンネル. 東京, 2023. 7. 10.
5. 松浦友一. CKDを伴う心不全患者に対する鉄補充の意義: FGF23の関与を含め. Anemia Expert Web Seminar. 東京, 2023. 7. 20.
6. 松浦友一. 腎臓内科医からみたSGLT2阻害薬の使い方. SGLT2阻害薬のこれからを考える会. 東京, 2023, 12, 4.
7. 松浦友一. HIF-PH阻害薬の新展開: FGF23について. 腎性貧血 x CKD-MBD. 東京, 2023. 12. 7.
8. 小林佐紀子. 妊娠前の潜在性甲状腺機能低下症. 第66回日本甲状腺学会学術集会ランチョンセミナー. 金沢, 2023. 12. 9.
9. 松浦友一. HIF-PH阻害薬の現在地. 地域で考える腎・CKD Web Seminar. 東京, 2023. 12. 12.

【その他(学会座長)】

1. 小林佐紀子. 眼症その他(座長) 第66回日本甲状腺学会学術集会. 金沢, 2023. 12. 9.
2. 岩瀬恭子. メディカルスタッフセッション(座長) 第61回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 横浜, 2024. 1. 20.

【論文】

1. Higashida-Konishi M, Akiyama M, Hama S, Oshige T, Izumi K, Oshima H, Okano Y. Successful treatment of PR3-ANCA-positive interstitial pneumonia with a moderate dose of glucocorticoid and rituximab. Mod Rheumatol Case Rep 2023; 8: 137-140.
2. Higashida-Konishi M, Akiyama M, Shimada T, Hama S, Oshige T, Izumi K, Oshima H, Okano Y. Aseptic meningitis as an initial manifestation of primary Sjögren's syndrome. Mod Rheumatol Case Rep 2023; 7: 388-393.

【学会・研究会発表】

1. Higashida-Konishi M, Izumi K, Hama S, Oshige T, Oshima H, Okano Y. Characteristics of hydroxychloroquine allergy. World Allergy Symposium. Hawaii, 2023. 5. 18.
2. Higashida-Konishi M, Izumi K, Hama S, Oshige T, Oshima H, Okano Y, Suzuki K. Underlying diseases and chief complaints of patients positive for anti-centromere antibodies. 25th Asia-Pacific League of Associations for Rheumatology Congress. Chiang Mai, 2023. 12. 7.
3. Suzuki K. Multi-omic molecular profiling of immune-mediated inflammatory diseases. FOCIS 2023 Member Society Symposium Japanese Society of Clinical Immunology (JSCI), Boston, 2023. 6. 20.
4. 小西美沙子, 秋山光浩, 羽磨智史, 大重達寛, 泉啓介, 大島久二, 岡野裕. リツキシマブが奏功した PR3-ANCA 陽性の間質性肺炎の一例. 第 67 回日本リウマチ学会学術集会. 福岡, 2023. 4. 21.
5. 田畑広樹, 大重達寛, 羽磨智史, 小西美沙子, 泉啓介, 大島久二, 岡野裕. メボリズマブで寛解が得られた心筋炎合併好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)の一例. 第 67 回日本リウマチ学会学術集会. 福岡, 2023. 4. 22.
6. Hama S, Izumi K, Tabata H, Konishi M, Oshige T, Oshima H, Okano Y. Clinical features of motor neuropathy associated with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis. 第 67 回日本リウマチ学会学術集会. 福岡, 2023. 4. 23.
7. 鈴木勝也. 教育講演 1 関節リウマチ治療における分子的寛解. 第 44 回日本炎症・再生医学会. 大阪, 2023. 7. 12.
8. 泉啓介. SaMD 開発におけるデータ活用の課題とデジタルバイオマーカーの開発の実践的取り組み. 第 14 回日本製薬医学会年次大会. 東京, 2023. 7. 28.
9. 田畑広樹, 大重達寛, 東條誠也, 松永崇宏, 羽磨智史, 小西美沙子, 泉啓介, 大島久二, 岡野裕, 鈴木勝也. 好酸球増多症にステロイド不応性の血小板減少を合併し診断、治療に難渋した 1 例. 第 689 回日本内科学会関東地方会. 東京, 2023. 9. 16.
10. 鈴木勝也. シンポジウム 1 マルチオミックスからみるプレシジョンメディシン—患者層別化の現状と課題. 第 38 回日本臨床リウマチ学会. 北九州, 2023. 11. 18.
11. 大重達寛, 田畑広樹, 羽磨智史, 小西美沙子, 泉啓介, 岡野裕, 大島久二, 鈴木勝也. 当院における関節リウマチ患者の高齢化とリウマチ治療の実践. 第 38 回日本臨床リウマチ学会. 北九州, 2023. 11. 18.

12. 鈴木勝也. シンポジウム 17 早期リウマチにおける血清学的変化～早期診断に向けた血清マーカーへの期待. 第 38 回日本臨床リウマチ学会. 北九州, 2023. 11. 19.
13. 中嶋慧悟, 小西美沙子, 田畑広樹, 羽磨智史, 大重達寛, 泉啓介, 岡野裕, 大島久二, 鈴木勝也. COVID-19 感染後に抗 MDA5 抗体陽性間質性肺炎と自己免疫性溶血性貧血を発症した 1 例. 第 38 回臨床リウマチ学会. 北九州, 2023. 11. 19.
14. 泉啓介. ウェアラブル・IoT 機器を用いたデジタルバイオマーカー開発の実践的取組み: 関節リウマチ AMED 研究等の実際. 第 43 回日本医療情報学連合大会. 第 24 回日本医療情報学会学術大会. 神戸, 2023. 11. 25.
15. Suzuki K. Symposium 8 Autoimmune Disease and Systems Immunology: Multi-omic molecular profiling of immune-mediated inflammatory diseases JSI-JCR Joint Session. 第 52 回日本免疫学会学術集会. 千葉, 2024. 1. 28.
16. 織部峻太郎, 大重達寛, 田畑広樹, 羽磨智史, 小西美沙子, 泉啓介, 岡野裕, 大島久二, 鈴木勝也. IgG4 関連疾患様の肝障害を呈したシェーグレン症候群の一例. 第 693 回日本内科学会関東地方会. 東京, 2024. 2. 10.

【講演】

1. 鈴木勝也. マルチオミックス解析法による RA 病態解析. JAK Frontier in Nagasaki. 長崎, 2023. 4. 6.
2. 鈴木勝也. 関節リウマチマネージメントとバイオシミラーの今後を見据えて. ヴィアトリス Web 講演会. 東京, 2023. 6. 14.
3. 鈴木勝也. 当センターにおける関節リウマチ診療について: フィルゴチニブへの期待を含めて. 関節リウマチセミナー in 目黒世田谷. 東京, 2023. 7. 25.
4. 鈴木勝也. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の概要. EGPA Management Webinar. 東京 2023. 7. 25.
5. 鈴木勝也. 関節リウマチマネージメントとバイオシミラーの今後を見据えて. 第 490 回八戸地区病院薬剤師会薬学例会. 八戸 2023. 8. 21.
6. 鈴木勝也. 病院の立場から考えるリウマチ性疾患における病診連携の重要性. リウマチ膠原病連携セミナー～病診連携について考える. 東京, 2023. 9. 12.
7. 鈴木勝也. 関節リウマチの病因・病態と基礎研究のトピックス. Rheumatoid Arthritis Linker Meeting. 東京, 2023. 9. 21.
8. 鈴木勝也. リウマチ治療の UP TO DATE. Orthopedic Festa 2023, 東京, 2023. 12. 5.
9. 鈴木勝也. IL-6 シグナル阻害療法の理論と実践. 世田谷・玉川リウマチ膠原病病診連携の会. 東京, 2023. 12. 12.
10. 鈴木勝也. Opening Remarks. 城南 CTD 講演会. 東京, 2023. 2. 2.

【その他】

座長

1. Suzuki K. International Concurrent Workshop 6 Biologics JAK-2. 第 67 回日本リウマチ学会学術集会. 福岡, 2023. 4. 21.
2. 鈴木勝也, 松下雅和. ワークショップ 61 自己免疫疾患の検査・自己抗体. 第 67 回日本リウマチ学会学術集会. 福岡, 2023. 4. 22.
3. 泉啓介. プログラム医療機器開発におけるウェアラブル・デバイスデータ活用の課題とデジタルバイオマーカー開発の実践的取組み. 第 82 回日本公衆衛生学会総会. つくば, 2023. 10. 31.

【論文】

1. Miyazaki K, Sakai R, Iwaki N, Yamamoto G, Murayama K, Nishikori M, Sunami K, Yoshida I, Yano H, Takahashi N, Okamoto A, Munemoto S, Sawazaki A, Suehiro Y, Fukuhara N, Wake A, Arai A, Masaki Y, Toyama K, Yokoyama A, Tsunemine H, Hasegawa Y, Matsumoto K, Yamada T, Nishimura Y, Tamaru S, Asano N, Miyawaki K, Izutsu K, Kinoshita T, Suzuki R, Ohshima K, Kato K, Katayama N, Yamaguchi M. Five-year follow-up of a phase II study of DA-EPOCH-R with high-dose MTX in CD5-positive DLBCL. Cancer Sci 2023; 114: 2689-2691.

【学会・研究会発表】

1. 西山理沙, 柴山貴宏, 籠尾壽哉, 上野博則, 横山明弘. 初発移植適応骨髄腫における Bortezomib 併用大量 Melphalan 療法を用いた自家末梢血幹細胞移植後の長期予後の検討. 第 48 回日本骨髄腫学会. 東京, 2023. 5. 27
2. 西山理沙, 柴山貴宏, 籠尾壽哉, 上野博則, 横山明弘. 高齢者限局期 DLBCL における R-miniCHOP 療法と R-miniCHOP+IFRT 併用療法の後方視的解析. 第 85 回日本血液学会. 東京, 2023. 10. 14
3. 戸塚紀帆, 西山理沙, 柴山貴宏, 籠尾壽哉, 上野博則, 白石淳一, 中村直哉, 横山明弘. Dasatinib 関連リンパ増殖性疾患を発症した慢性骨髄性白血病. 第 20 回日本血液学会関東甲信越地方会. 東京, 2024. 3. 9

【講演】

1. 上野博則. 貧血患者診療のポイント. 玉川医師会. 東京, 2023. 11. 29.

【座長】

1. 横山明弘. 第 48 回日本骨髄腫学会. ポスターセッション 2. 東京, 2023. 5. 27

【英文論文】

1. Matsunaga T, Fukuhara S, Sasaki M, Kato M. Successful resection of a sessile serrated lesion completely involving a colonic diverticulum by endoscopic submucosal dissection with water pressure method. Endoscopy 2024; 56: E10-E12.

【和文論文】

1. 鈴木麻耶, 玉川空樹, 山本晴二郎, 笠原美沙, 関彩千子, 石田慎, 荒金直美, 東條誠也, 松永崇宏, 吉田康祐, 宮永亮一, 渡邊多代, 加藤元彦, 福原誠一郎. ラズベリー様腺窩型胃腫瘍を EMR-L と ESD により治療した 3 例. Progress of Digestive Endoscopy 2023; 103: 83-85.
2. 笠原美沙, 吉田康祐, 山本晴二郎, 鈴木麻耶, 関彩千子, 荒金直美, 石田慎, 東條誠也, 松永崇宏, 玉川空樹, 宮永亮一, 渡邊多代, 福原誠一郎. 胃癌 ESD 後の局所再発の診断に EUS-FNA が有用であった一例. Progress of Digestive Endoscopy 2023; 103: 81-82.
3. 荒金直美, 福原誠一郎, 山本晴二郎, 笠原美沙, 鈴木麻耶, 関彩千子, 石田慎, 東條誠也, 加藤元彦, 松永崇宏, 吉田康祐, 玉川空樹, 宮永亮一, 渡邊多代. 自己免疫性胃炎を背景とする胃腺腫の一例. Progress of Digestive Endoscopy 2023; 103: 71-73.

【著書】

1. 福原誠一郎, 加藤元彦, 矢作直久. 表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍 (SNADET) の内視鏡診断と治療: 偶発症の予防と対策. 偶発症マネージメントとしての ENBD. 消化器内視鏡 2023; 35: 837-839.
2. 福原誠一郎, 矢作直久. マネジメントのコツ: 縫縮困難時の対応-ENBD と ENPD. 小山恒男, 矢作直久 監修. 十二指腸腫瘍の内視鏡治療とマネージメント. 医学書院
3. 福原誠一郎, 矢作直久. ケースで学ぶ治療とマネージメントのコツ: 部分縫縮後に ENBD を挿入した症例. 小山恒男, 矢作直久監修. 十二指腸腫瘍の内視鏡治療とマネージメント. 医学書院
4. 福原誠一郎, 矢作直久. ハッとした症例. 遅発性穿孔に対して ENBD と ENPD を挿入し改善が得られた症例. 小山恒男, 矢作直久監修. 十二指腸腫瘍の内視鏡治療とマネージメント. 医学書院

【学会発表】

1. 高取祐作, 福原誠一郎, 牟田口真. 各種データベースを用いた内視鏡関連研究の利点と問題点 共通データベース運用にもとづいた内視鏡治療に関する多施設前向きレジストリ研究. JDDW 2023. Kobe, 2023. 11. 2.
2. 吉村梨沙, 東條誠也, 山本晴二郎, 鈴木麻耶, 笠原美沙, 関彩千子, 石田慎, 荒金直美, 松永崇宏, 吉田康祐, 玉川空樹, 宮永亮一, 渡邊多代, 下田啓文, 福原誠一郎. 脾酵素上昇を契機に診断された絞扼性小腸閉塞による急性輸入脚症候群の一例. 日本消化器病学会関東支部第 374 回例会. 2023. 4. 22.
3. 山本晴二郎, 石田慎, 東條誠也, 松永崇宏, 吉田康祐, 玉川空樹, 宮永亮一, 渡邊多代, 加藤元彦, 福原誠一郎. ピロリ菌除菌後に増大した過形成性ポリープの一例. 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東地方会. 2023. 6. 11.

4. 東條誠也, 渡邊多代, 山本晴二郎, 鈴木麻耶, 笠原美沙, 関彩千子, 石田慎, 荒金直美, 松永崇宏, 玉川空樹, 吉田康祐, 宮永亮一, 村田有也, 加藤元彦, 福原誠一郎. 胃粘膜下異所性胃腺を背景に発生し, EUS が深達度診断に有用だった早期胃癌の一例. 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東地方会. 2023. 6. 11.
5. 鈴木麻耶, 玉川空樹, 山本晴二郎, 笠原美沙, 関彩千子, 石田慎, 荒金直美, 東條誠也, 松永崇宏, 吉田康祐, 宮永亮一, 渡邊多代, 加藤元彦, 福原誠一郎. ラズベリー様腺窩型胃腫瘍を EMR-L と ESD により治療した 3 例. 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東地方会. 2023. 6. 10.
6. 笠原美沙, 吉田康祐, 山本晴二郎, 鈴木麻耶, 関彩千子, 荒金直美, 石田慎, 東條誠也, 松永崇宏, 玉川空樹, 宮永亮一, 渡邊多代, 福原誠一郎. 胃癌 ESD 後の局所再発の診断に EUS-FNA が有用であった一例. 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東地方会. 2023. 6. 10.
7. 荒金直美, 福原誠一郎, 山本晴二郎, 笠原美沙, 鈴木麻耶, 関彩千子, 石田慎, 東條誠也, 加藤元彦, 松永崇宏, 吉田康祐, 玉川空樹, 宮永亮一, 渡邊多代. 自己免疫性胃炎を背景とする胃腺腫の一例. 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東地方会. 2023. 6. 11.
8. 玉川空樹, 松永崇宏, 福原誠一郎. 当院における総胆管結石の治療機器選択の戦略. 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東地方会. 2023. 6. 11.
9. 山本晴二郎, 宮永亮一, 福原誠一郎. 想定外の経過を辿った食道異物の一例. 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東地方会 (内視鏡ヒヤリハット症例集) 2023. 6. 11.
10. 田畑広樹, 大重達寛, 東條誠也, 松永崇宏, 羽磨智史, 小西美沙子, 泉啓介, 岡野裕, 大島久二, 鈴木勝也. 好酸球増多症にステロイド不応の血小板減少を合併し診断, 治療に難渋した 1 例. 日本内科学会第 689 回関東地方会. 2023. 9. 16.
11. Tojo M, Fukuhara S, Kurata S, Ito E, Anai T, Ide T, Yamamoto H, Noda K, Arakane N, Matsunaga T, Tamagawa H, Yoshida K, Watanabe K, Kato M. Outcome of water pressure method in esophageal endoscopic submucosal dissection with external continuous aspiration catheter. APDW 2023. Bangkok, 2023.12. 7.
12. Arakane N, Yoshida K, Kurata S, Ito E, Anai T, Ide T, Yamamoto H, Noda K, Matsunaga T, Tamagawa H, Watanabe K, Fukuhara S. Endoscopic management and outcomes of colonic diverticular bleeding. APDW 2023. Bangkok, 2023.12. 8.

【研究会講演】

1. 福原誠一郎. 胆膵疾患に対する超音波内視鏡の役割. 城南消化器カンファレンス. 2023. 7. 14.
2. 福原誠一郎. 基幹病院としての潰瘍性大腸炎に対する診療と治療. IBD WEB チャンネル. 2023. 9. 15.
3. 藏田隼也. SKY を駆け巡る医師からみた内視鏡研修. 第 10 回 SKY 研究会. 2023. 9. 23.
4. 吉田康祐. 潰瘍性大腸炎 最近の治療選択. 第 14 回東が丘消化器ネットワーク. 2023. 9. 25.
5. 松永崇宏. 大腸憩室内伸展病変に対し内視鏡的に憩室合併一括切除を行った 1 例. 第 14 回東が丘消化器ネットワーク. 2023. 9. 25.
6. 吉田康祐. 当院の UC 治療について. UC treatment Seminar in 城南. 2023. 11. 22.
7. 福原誠一郎. 多様な手法を駆使した内視鏡診療の実際. 第 15 回東が丘消化器ネットワーク. 2024. 3. 11.
8. 松本康平. 抜去困難な胆管ステント交換を行わざるを得なかった一例. 第 15 回東が丘消化器ネットワーク. 2024.3.11.

【学会・研究会における座長】

1. 松永崇宏 (座長). 日本消化器病学会関東支部第 374 回例会. 2022. 4. 22.
2. 松永崇宏 (座長). 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 2023. 6. 10.
3. 福原誠一郎 (座長). 第 116 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 2023. 6. 11.
4. 福原誠一郎 (座長). 城南消化器カンファレンス. 2023. 7. 14.
5. 福原誠一郎 (座長), 吉田康祐. 第 10 回 SKY 研究会. 2023. 9. 23.
6. 福原誠一郎 (座長). 第 14 回東が丘消化器ネットワーク. 2023. 9. 25.
7. 福原誠一郎 (座長). 東が丘 Clinical Conference Seminar. 2023. 10. 18.
8. 福原誠一郎 (座長). UC treatment Seminar in 城南. 2023. 11. 22.
9. 福原誠一郎 (座長). Voice of the Ulcerative Colitis Patients. 2024. 2. 28.
10. 福原誠一郎 (座長). 第 15 回東が丘消化器ネットワーク. 2024. 3. 11.

【その他】

1. 福原誠一郎 (世話人). 日本消化器病学会関東支部第 127 回市民公開講座. 東京医療センター大会議室, 2023. 9. 16.

【論文】

1. Ikemura N, Kohsaka S, Kimura T, Jones PG, Katsumata Y, Tanimoto K, Ueda I, Takatsuki S, Ieda M, Chan PS, Spertus JA. Physician estimates and patient-reported health status in atrial fibrillation. *JAMA Netw Open* 2024; 154: 139-147.
2. Momiyama Y, Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Kondo K. Association between high plasma levels of legumain and cardiovascular events in patients undergoing coronary angiography. *Heart Vessels* 2024; 39: 909-915.
3. Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y. High plasma levels of endosialin and cardiovascular events in patients undergoing coronary angiography. *Heart Vessels* 2024; 39: 837-841.
4. Saita E, Kishimoto Y, Aoyama M, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y. Low plasma levels of soluble endoglin and cardiovascular events in patients undergoing coronary angiography. *Biomedicines* 2023;11:2975.
5. Momiyama Y, Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Kondo K. High plasma levels of angiopoietin-like protein 8 and cardiovascular events in patients undergoing coronary angiography. *Atherosclerosis* 2023; 386: 117309.
6. Miyazaki S, Kobori A, Jo H, Keida T, Yoshitani K, Mukai M, Sagawa Y, Asakawa A, Sato E, Yamao K, Horie T, Manita M, Fukaya H, Hayashi H, Tanimoto K, Iwayama T, Chiba S, Sato A, Sekiguchi Y, Sugiura K, Iwai S, Isonaga Y, Miwa N, Kato N, Inaga O, Hirota T, Nagata Y, Ono Y, Hachiya H, Yamauchi Y, Goya M, Nitta J, Tada H, Sasano T. Symptomatic periesophageal vagal nerve injury by different energy sources during atrial fibrillation ablation. *Front Cardiovasc Med* 2023; 10: 1278603.
7. Ikemura N, Spertus JA, Nguyen DD, Kimura T, Katsumata Y, Fu Z, Jones PG, Niimi N, Shoji S, Ueda I, Tanimoto K, Suzuki M, Fukuda K, Takatsuki S, Kohsaka S. Baseline health status and its association with subsequent cardiovascular events in patients with atrial fibrillation. *JACC Clin Electrophysiol* 2023; 9: 1934-1944.
8. Kishimoto Y, Saita E, Ohmori R, Kondo K, Momiyama Y. High plasma concentrations of vanin-1 in patients with coronary artery disease. *Heart Vessels* 2024; 39: 10-17.
9. Momiyama Y, Kishimoto Y, Saita E, Aoyama M, Ohmori R, Kondo K. Association between the Japanese diet and coronary artery disease in patients undergoing coronary angiography. *Nutrients* 2023; 15: 2406.
10. Tsuda T, Kato T, Usuda K, Kusayama T, Usui S, Sakata K, Hayashi K, Kwashiri M, Yamagishi M, Takamura M, Otsuka T, Suzuki S, Hirata A, Murakami M, Takami M, Kimura M, Fukaya H, Nakahara S, Shimizu W, Iwasaki Y, Hayashi H, Harada T, Nakajima I, Okumura K, Koyama J, Tokuda M, Yamane T, Momiyama Y, Tanimoto K, Soejima K, Nonoguchi N, Ejima K, Hagiwara N, Harada M, Sonoda K, Inoue M, Kumagai K, Hayashi H, Satomi K, Yazaki Y, Watari Y, Arai M, Watanabe R, Yokoyama K, Matsumoto N, Nagashima K, Okumura Y. Effect of catheter ablation for atrial fibrillation in heart failure with mid-range or preserved ejection fraction: Pooled analysis of the AF Frontier Ablation Registry and Hokuriku-Plus AF Registry. *Cir J* 2023; 87: 939-946.

11. Niimi N, Kohsaka S, Shiraishi Y, Takei M, Kohno T, Nakano S, Nagatomo Y, Sakamoto M, Saji M, Ikemura N, Inohara T, Ueda I, Fukuda K, Yoshikawa T. Which congestion presentation pattern on the physical findings is associated with future adverse events? A cluster analysis in the multicenter acute heart failure registry. Clin Res Cardiol 2023; 112: 1108-1118.
12. Ichihara YK, Shiraishi Y, Kohsaka S, Nakano S, Nagatomo Y, Ono T, Takei M, Sakamoto M, Mizuno A, Kitamura M, Niimi N, Kohno T, Yoshikawa T. West Tokyo Heart Failure Registry. Association of pre-hospital precipitating factors with short- and long-term outcomes of acute heart failure patients. A report from the WET-HF2 registry. Int J Cardiol 2023; 389: 131161.
13. Ohata T, Niimi N, Shiraishi Y, Nakatsu F, Umemura I, Kohno T, Nagatomo Y, Takei M, Ono T, Sakamoto M, Nakano S, Fukuda K, Kohsaka S, Yoshikawa T. Initiation and up-titration of guideline-based medications in hospitalized acute heart failure patients: A Report from West Tokyo Heart Failure Registry. Circ J 2023;.88: 22-30.
14. Shiraishi Y, Ikemura N, Urashima M, Kohno T, Nakano S, Tanaka T, Nagatomo Y, Ikoma T, Ono T, Numasawa Y, Sakamoto M, Nishikawa K, Takei M, Hakuno D, Nakamaru R, Ueda I, Kohsaka S. Rationale and protocol of the LAQUA-HF trial: a factorial randomised controlled trial evaluating the effects of neurohormonal and diuretic agents on health-status reported outcomes in heart failure patients. BMJ Open 2024; 14: e076519.

【学会・研究会発表】

1. Kawashima S, Tanimoto Y, Mizuno A, Fujimura K, Hashimoto K, Sumida N, Aoyama M, Nishimura T, Miyazaki Y, Inagawa K, Tanimoto K, Sakamoto M, Momiyama Y. Wide QRS tachycardia induced by anamorelin: A new alert of cancer therapeutic-related cardiac dysfunction. JCS2024. Kobe. 2024.3.8.
2. Matsuike M, Tanimoto Y, Aoyama M, Sumida N, Miyazaki Y, Nishimura T, Shinaga K, Tanimoto K, Itabashi Y, Sakamoto M, Momiyama Y, Osako M. An example of Infective Endocarditis diagnosed by identifying a left ventricular aneurysm through transthoracic echocardiography during bacteremia examination. JCS2024. Kobe, 2024.3.8.
3. 平井智大, 谷本耕司郎, 角田那由香, 青山真之, 西村崇文, 宮崎良央, 稲川浩平, 谷本陽子, 坂本宗久, 樺山幸彦. 逆行性速伝導路アブレーションを要した incessant 型の房室結節リエントリー性頻拍. 日本内科学会関東地方会. 東京, 2023.7.
4. 川島瞬, 谷本陽子, 橋本健司, 角田那由香, 青山真之, 西村崇文, 宮崎良央, 稲川浩平, 坂本宗久, 谷本耕司郎, 樺山幸彦. がん悪液質治療薬アナモレリンによる心室頻拍および多彩な心電図変化を期待した一例. 慶應不整脈研究会. 東京, 2023.10.27.
5. 松岡勇樹, 谷本耕司郎, 橋本健司, 角田那由香, 青山真之, 宮崎良央, 西村崇文, 稲川浩平, 谷本陽子, 坂本宗久, 樺山幸彦. 心室中隔に頻拍周期の83%を満たす回路を有する非虚血性心筋症・心室頻拍の一例. カテーテルアブレーション関連秋季大会. 福岡, 2023.11.18.
6. Kohguchi T, Tanimoto Y, Arita R, Takefuji A, Matsuike M, Yamazaki Y, Aoyama M, Sumida N, Nishimura T, Miyazaki Y, Inagawa K, Sakamoto M, Momiyama Y, Kobayashi J, Mochinaga Y, Tanimoto K. Epicardial connection between the right-sided pulmonary veins and the right atrium was successfully ablated by radiofrequency ablation from the right atrium. JHRS2023. Sapporo, 2023.7.

【講演】

1. 谷本耕司郎. OCTORAY の使い方@NTMC QDOT MICRO OCTARAY Knowledge Sharing. 東京, 2023. 9. 7.

【その他】

1. 谷本耕司郎（座長）第4回日本不整脈心電学会関東甲信越支部地方会. 東京, 2024. 1. 20.
2. 谷本耕司郎（座長）第88回日本循環器学会. 神戸, 2024. 3. 9.
3. 谷本耕司郎（座長）カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023. 福岡, 2023. 11. 18.
4. 谷本耕司郎（座長）第56回ペーシング治療研究会. 東京, 2023. 9. 23.
5. 谷本陽子（座長）第269回日本循環器学会関東甲信越地方会. 東京, 2023. 9. 2.
6. 谷本耕司郎（ディスカッサー）第69回日本不整脈心電学会学術大会. 札幌, 2023. 7. 7.
7. 坂本 宗久（座長）第61回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会. 東京, 2024. 5. 13.
8. 坂本 宗久（コメンテーター）第62回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会. 東京, 2024. 10. 14.

【論文】

1. Watase M, Miyata J, Mochimaru T, Satomi R, Oyamada Y, et al. Cough and sputum in long COVID are associated with severe acute COVID-19: a Japanese cohort study. *Respir Res* 2023; 24: 283.
2. Terai H, Ishii M, Shinozaki T, Watase M, Mochimaru T, Satomi R, Oyamada Y, et al. Comprehensive analysis of long COVID in Japanese nationwide prospective cohort study. *Respir Investig* 2023; 61: 802-814.
3. Nakagawara K, Kamata H, Mochimaru T, et al. Impact of respiratory bacterial infections on mortality in Japanese patients with COVID-19: a retrospective cohort study. *BMC Pulm Med* 2023; 23: 146.
4. 持丸貴生, 福永興壱. バイオマーカーを用いた生物製剤の精密医療. *Precision Medicine* 2023; 6: 439-442.
5. Ebisudani T, Hamamoto J, Shinozaki T, et al. Genotype-phenotype mapping of a patient-derived lung cancer organoid biobank identifies NKX2-1-defined Wnt dependency in lung adenocarcinoma. *Cell Rep* 2023; 42: 112212.
6. Suzukawa M, Ohta K, Oyamada Y, et al. Characterization and cluster analysis of elderly asthma in comparison with nonelderly patients with asthma in Japan. *Ann Allergy Asthma Immunol* 2023; 130: 607-616.
7. Hanaoka M, Wada Y, Oyamada Y, et al. Referential equations for pulmonary diffusing capacity generated from the Japanese population using the Lambda, Mu or Sigma method and their comparisons with prior referential equations. *Respir Investig* 2023; 61: 687-697.

【著書】

1. 渡瀬麻友子, 正木克宣. II-2 禁煙指導（支援）の実際. 喘息・COPDと気道疾患 包括診療マニュアル. 中外医学社. 2023. 4. 30.

【学会・研究会発表】

1. 佐川偲, 持丸貴生, 篠原浩幸, 池田隼樹, 八木翔太, 山村啓之, 渡瀬麻友子, 渡辺理沙, 長谷川華子, 里見良輔, 前島新史, 白石淳一, 小山田吉孝. 気管支鏡検査における検体採取法の違いに基づく細胞診陽性率の比較検討. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 東京, 2023. 4. 29.
2. 松山笑子, 宮田純, 砂田啓英也, 佐々木寿, 持丸貴生, 正木克宣, 加畑宏樹, 福永興壱. プロテオミクス解析による短鎖脂肪酸の好酸球に対する作用の検討. 第72回日本アレルギー学会学術大会. 東京, 2023. 10. 21.
3. 篠原浩幸, 渡瀬麻友子, 熊木聡美, 篠崎太郎, 渡辺理沙, 長谷川華子, 入佐薫, 里見良輔, 持丸貴生, 小山田吉孝. サワガニの生食により肺吸虫症に至り複数回の治療を要した1例. 第691回日本内科学会関東地方会. 東京, 2023. 11. 19.

4. 渡瀬麻友子, 宮田純, 朝倉崇徳, 中鉢正太郎, 寺井秀樹, 加行淳子, 小山田吉孝, 石井誠, 福永興壱. 重症患者での COVID-19 罹患後症状における咳嗽・喀痰の遷延. 第 63 回日本呼吸器学会学術講演会. 東京, 2023. 4. 29.
5. 渡瀬麻友子, 中鉢正太郎, 南宮湖, 田中拓, 福島貴大, 中川原賢亮, 阿瀬川周平, 大竹史朗, 正木克宣, 鎌田浩史, 小山田吉孝, 前谷和毅, 白石祐介, 田辺直也, 福永興壱. 日本人 COVID-19 患者の胸部 CT における冠動脈石灰化と不良アウトカムに関連. 第 63 回日本呼吸器学会学術講演会. 東京, 2023. 4. 29.

【論文】

1. Motegi/ H, Kufukihara K, Kitagawa S, Sekiguchi K, Hata J, Fujiwara H, Jinzaki M, Okano H, Nakamura M, Iguchi Y, Nakahara J. Non-lesional white matter changes depicted by qspace diffusional MRI correlate with clinical disabilities in multiple sclerosis. J Neurol Sci 2024; 456: 122851.

【学会・研究会発表】

1. 鳥谷直紀, 久富木原健二, 雪野満, 安富大祐. Tumefactive demyelinating lesions を呈した抗 MOG 抗体関連疾患の 37 歳女性例. 第 245 回日本神経学会関東甲信越地方会. 2023. 6. 3.
2. 山下博美, 久富木原健二, 雪野満, 安富大祐. 座位での低酸素血症を契機に診断に至った卵円孔開存症による脳塞栓症の一例. 第 694 回日本内科学会関東地方会. 2024. 3. 11.

【学会座長】

1. 安富大祐 (座長). 第 685 回日本内科学会関東地方会. 神経 1. 2024. 3. 11.

【論文】

1. 古野毅彦. 高齢者の精神病性うつ病の診断・治療. 駒澤大学心理臨床研究 2023; 22: 46.
2. 細田満和子, 葉山靖明, 水口迅, 宿野部武志, 小林幸治, 杉原正子. 共生社会における当事者市民参画で行う研究の意味. 星槎大学紀要. 共生科学研究 2023; 19: 47-59.

【著書】

1. 野村真睦. 子どもと思春期の分析 (訳). アントニーノ・フェロ著. 吾妻壮監訳. 物語と治療としての精神分析. 東京, 金剛出版. 2023: 163-179.

【学会・研究会発表】

1. 杉原正子. 患者・当事者参画研究の可能性: ピアサポート研究から見えてくるもの Round Table Discussion(円卓会議) 当事者の声を政策につなげるには? 当事者協働研究のあり方を考える. 日本保健医療社会学会. 東京, 2023. 5. 28.
2. 杉原正子. 市販薬の過量内服が常習化していた 13 歳女子例(指定発言). 日本小児科学会東京都地方会. 東京, 2023. 6. 10.
3. 古野毅彦. 高齢者の精神病性うつ病の治療: シンポジウム高齢者のうつ病治療、次の一手. 第 119 回日本精神神経学会学術総会. 横浜, 2023. 6. 23.
4. 杉原正子. 当事者の声を政策につなげるには? 当事者協働研究のあり方を考える (教育講演) 日本地域看護学会第 26 回学術集会. オンデマンド配信, 2023. 9. 2.
5. 野村真睦, 妙木浩之, 加茂聡子, 小林陵. 作業する表層 1. 日本精神分析学会第 69 回大会教育研修セミナー. 広島, 2023. 11. 3.
6. 板東央矩, 古野毅彦, 竹熊真理, 齋藤望, 野村真睦, 新福正機. 当院における自傷行為による 10 歳代の救急搬送患者の増加について. 第 36 回日本総合病院精神医学総会. 仙台, 2023. 11. 17.
7. 用之丸紗椰佳, 新福正機, 竹熊真理, 板東央矩, 関英一, 古野毅彦. 93 歳精神病性うつ病女性に修正型電気痙攣療法を施行した際の総合病院における連携とスキサメトニウムによる高 K 血症. 第 36 回日本総合病院精神医学総会. 仙台, 2023. 11. 18.

【講演】

1. 杉原正子. 研修医のメンタルヘルス. 国立病院機構関東信越グループ指導医講習会. 東京, 2023. 7. 15.
2. 杉原正子. 現場からのアルコール依存症治療. アルコール依存症と睡眠セミナー. Web, 2023. 8. 8.
3. 新福正機. ゲートキーパーとしてできること. 世田谷区保健センター講演会. ゲートキーパー講座. 東京, 2023. 9. 25.
4. 杉原正子. ピアサポート研究会の背景と本日の目的. 東京保険医協会. 第 4 回ピアサポート研究会: 医療社会学の視点を中心に. 東京, 2023. 11. 03.
5. 新福正機. うつ病の理解を深める. 目黒区精神保健講演会. 東京, 2023. 12. 4.

6. 古野毅彦．自殺未遂者支援について．第 13 回世田谷区自殺対策協議会自殺未遂者支援部会．東京，2023. 12. 21.
7. 杉原正子．心のかかりつけ医を目指して：心療内科・精神科クリニックの役割と機能．患医ねっと．第 161 回医療と福祉を考える会．東京，2024. 1. 31.
8. 千葉ちよ，妙木浩之，加茂聡子，山崎孝明．初回面接入門．小寺記念精神分析研究財団セミナー．東京，2024. 3. 20.

【その他】

1. 杉原正子，松坂雄亮（座長）．精神科研修グレードアップ(シンポジウム 86)．第 119 回日本精神神経学会学術総会．横浜，2023. 6. 24.
2. 杉原正子，松坂雄亮（座長）．精神科研修の光と影(シンポジウム 11)．日本医学教育学会．長崎，2023. 7. 28.
3. 杉原正子，美馬達哉（座長）．患者・市民参画(PPI)という諸刃の剣(学会企画シンポジウム)．日本生命倫理学会．東京，2023. 12. 10.
4. 杉原正子，川口有美子(座長)．製薬会社と当事者・市民協働参画：現場からの報告と対話(公募シンポジウム)．日本生命倫理学会．東京，2023. 12. 10.

【論文】

1. Nakashima M, Shiroshima T, Fukaya M, Sugawara T, Sakagami H, Yamazawa K. C-terminal truncations in IQSEC2: implications for synaptic localization, guanine nucleotide exchange factor activity, and neurological manifestations. J Hum Genet 2024; 69: 119-123.
2. Hara-Isono K, Matsubara K, Nakamura A, Sano S, Inoue T, Kawashima S, Fuke T, Yamazawa K, Fukami M, Ogata T, Kagami M. Risk assessment of assisted reproductive technology and parental age at childbirth for the development of uniparental disomy-mediated imprinting disorders caused by aneuploid gametes. Clin Epigenetics 2023; 15: 78.
3. Yamazawa K, Sugano K, Tanakaya K, Inoue S, Murakami H, Nakashima M, Adachi M, Oki S, Makabe T, Yamashita H, Ueki A, Sasaoka A, Nakashoji A, Kinoshita T, Matsunaga T, Arai M, Nakamura S, Miyata H, Ikegami M, Mano H, Kohsaka S, Matsui A. The pathogenic role of the BRCA2 7847C>T (Ser2616Phe) variant in breast and ovarian cancer predisposition. Cancer Sci 2023; 114: 2993-3002.
4. Shinjoh M, Furuichi M, Tsuzuki S, Iqbal A, Fukushima N, Soen S, Fukushima H, Kobayashi K, Yamada G, Narabayashi A, Tsunematsu K, Maeda N, Shimoyamada M, Yoshida M, Kuramochi Y, Shibata A, Yamaguchi Y, Yaginuma M, Takahashi T, Ishikane M, Sugaya N; Keio Pediatric Influenza Research Group. Effectiveness of inactivated influenza and COVID-19 vaccines in hospitalized children in 2022/23 season in Japan: The first season of co-circulation of influenza and COVID-19. Vaccine 2023; 41: 4777-4781.
5. Higuchi T, Furuichi M, Maeda N, Tsugawa T, Ito K. Effects of probiotics in children with acute gastroenteritis: A systematic review and meta-analysis focusing on probiotics utilized in Japan. J Infect Chemother 2024; 30: 337-342.

【学会・研究会発表】

1. 津浦海里, 木島俊英, 岸田さなえ, 前田直則, 佐藤利永子, 鈴木絵理, 山澤一樹, 藤田尚代, 三春晶嗣. 市販薬の過量内服が常習化していた13歳女子例. 第690回日本小児科学会東京都地方会講話会. 2023. 6. 10.
2. 村上遥香, 井上沙聡, 松永達雄, 藤波芳, 山澤一樹. 遺伝医療のunmet needsを解決するための遠隔遺伝カウンセリングの実践. 第47回日本遺伝カウンセリング学会学術集会. 松本, 2023. 7. 7.
3. 松井貴裕, 藪内彩乃, 津浦海里, 窪田義己, 岸田さなえ, 前田直則, 土岐真智子, 鈴木絵理, 山澤一樹, 藤田尚代, 三春晶嗣. 診断に時間を要した先天性総胆管拡張症の1例. 第693回日本小児科学会東京都地方会講話会. 2023. 10. 14.
4. 前田直則, 森伸晃, 青木弘太郎, 橋本伸弘, 篠生なおみ, 三春晶嗣, 新庄正宜. 2回再燃したESBL産生大腸菌による新生児髄膜炎. 第55回日本小児感染症学会総会学術集会. 2023. 11. 25.
5. 山澤一樹, 中嶋萌子, 深谷昌浩, 菅原健之, 城島知子, 阪上洋行. 重度発達遅滞および難治性てんかんを呈する症例で同定されたIQSEC2遺伝子ナンセンスバリエーションの機能解析. 第46回日本小児遺伝学会学術集会. 沖縄, 2023. 12. 8.
6. 有井滉子, 藪内彩乃, 窪田義己, 岸田さなえ, 前田直則, 土岐真智子, 鈴木絵理, 山澤一樹, 藤田尚代, 三春晶嗣. 食道異物との鑑別が困難であった動脈管石灰化の1例. 第695回日本小児科学会東京都地方会講話会. 2024. 1. 13.

7. Yamazawa K, Nakashima M, Inoue T, Nakamura A, Matsubara K, Kagami M. Comprehensive methylation analysis of 309 children born SGA targeting imprinting disorders. American Society of Human Genetics 2023. Washington, 2023.11.1.
8. Fujinami K, Fujinami-Yokokawa Y, Yang L, Joo K, Tsunoda K, Liu X, Kondo M, Naka I, Ohashi J, Inoue S, Yamazawa K, Matsunaga T, Tachimori H, Miyata H, Woo SJ, Sui R. Occult Macular Dysfunction Syndrome: Identification of multiple causative genes of macular dysfunction with normal fundus. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.
9. Fujinami-Yokokawa Y, Joo K, Liu X, Yang L, Tsunoda K, Kondo M, Ahn SJ, Inoue S, Yamazawa K, Matsunaga T, Naka I, Ohashi J, Tachimori H, Miyata H, Sui R, Woo SJ, Fujinami K. Distinct clinical effect of two RP1L1 hotspots of Occult Macular Dystrophy (Miyake disease); Identification of variant-based genotype by deep learning. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.
10. Murakami H, Inoue S, Matsunaga T, Nakamura K, Nishihara H, Sukawa Y, Oyamada Y, Kinoshita T, Yamazawa K. A retrospective analysis of presumed germline pathogenic variants in the comprehensive genomic profiling test for cancer. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.
11. Matsunaga T, Nara K, Mutai H, Murakami H, Inoue S, Muramatsu R, Yamazawa K, Minami S, K, Fujioka M, Yamamoto N, Morimoto N, Tsuchihashi N, Masuda M, Arimoto Y, Nakano A, Sakamoto H, Seto T, Katsunuma S, Higuchi S. Genetic approach to improve clinical practice for deafblindness in Japan. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.
12. Yamazawa K, Sugano K, Tanakaya K, Inoue S, Murakami H, Nakashima M, Adachi M, Oki S, Makabe T, Yamashita H, Ueki A, Sasaoka A, Nakashoji A, Kinoshita T, Matsunaga T, Arai M, Nakamura S, Miyata H, Ikegami M, Mano H, Kohsaka S, Matsui A. The pathogenic role of the BRCA2 c.7847C>T (p.Ser2616Phe) variant in breast and ovarian cancer predisposition. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.

【講演】

1. 三春晶嗣. 地域中核病院の立場から見た成人移行支援の現状と課題. 地域における小児期発症の慢性疾患を持つ成人患者に対する医療ネットワーク構築に向けての話し合い. 国立開発法人国立成育医療研究センター, 2023. 10. 28.
2. 山澤 一樹. 東京医療センターにおける遺伝性腫瘍診療とゲノム医療. 第17回感覚器シンポジウム. Web開催, 2024. 3. 1.

【論文】

1. Ura T, Hironaka S, Tsubosa Y, Mizusawa J, Kato K, Tsushima T, Fushiki K, Chin K, Tomori A, Okuno T, Matsushita H, Kojima T, Doki Y, Kusaba H, Fujitani K, Seki S, Kitagawa Y. Early tumor shrinkage and depth of response in patients with metastatic esophageal cancer treated with 2-weekly docetaxel combined with cisplatin plus fluorouracil: an exploratory analysis of the JCOG0807. *Esophagus* 2023; 20: 272-280.
2. 山崎信人, 石志紘, 島田岳洋, 川口義樹, 浦上秀次郎, 波多野まみ, 村田有也. 肝腫瘍と中咽頭癌を併存し三期分割手術を行った胸部食道癌の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 2023; 84: 560-568.

【学会・研究会発表】

1. 浦上秀次郎, 下田啓文, 松井一晃, 島崎友紀子, 足立陽子, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘, 渋谷崇行. 外傷性脾損傷の治療戦略(小児から成人も含めて): 外傷性脾損傷に対し腹腔鏡下尾側脾切除(脾温存)を施行した経験. 第60回日本腹部救急医学会総会. 北九州, 2024. 3. 21.
2. 宮前遊花, 島田岳洋, 浦上秀次郎, 川口義樹, 関本康人, 下田啓文, 足立陽子, 松井一晃, 島崎友紀子, 井出瑤平, 岩井貴寛, 石志紘. 右大腿ガス壊疽を合併した直腸癌の穿通に対して直腸 Hartmann 術を施行した一例. 第60回日本腹部救急医学会総会. 北九州, 2024. 3. 21.
3. 足立陽子, 島崎友紀子, 松井一晃, 下田啓文, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘. 被包化脾壊死に対して外科的ドレナージを施行した悪性リンパ腫の1例. 北九州, 2024. 3. 21.
4. 松井一晃, 島崎友紀子, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘, 松本純夫. 当院における85歳以上の胃癌患者に対する手術成績の検討. 第96回日本胃癌学会総会. 京都, 2024. 2. 28.
5. 浦上秀次郎, 下田啓文, 松井一晃, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. Reduced Port Surgeryによる胆嚢摘出術の後進への指導の継続. 第12回腹腔鏡下胆道手術研究会. 新宿, 2024. 2. 17.
6. 島田岳洋, 井出瑤平, 岩井貴寛, 宮前遊花, 島崎友紀子, 松井一晃, 足立陽子, 下田啓文, 関本康人, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘. ロボット支援下大腸手術における定型化と fusion surgery についての検討. 第16回日本ロボット外科学会学術集会. 鳥取, 2024. 2. 10.
7. 浦上秀次郎, 松井一晃, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. 胃内手術を併用して治療した重症急性膵炎後 walled-off necrosis (WON) の一例. 第25回 Needlescopic Surgery Meeting. 大阪, 2024. 2. 3.
8. 浦上秀次郎, 松井一晃, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. 総胆管結石に対する鏡視下手術の成績と課題. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023. 12. 7.
9. 下田啓文, 浦上秀次郎, 島崎友紀子, 松井一晃, 足立陽子, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 石志紘, 松本純夫. 当院における腹腔鏡下膵体尾部切除術導入と定型化の試み. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023. 12. 7.
10. 島田岳洋, 糸氏望菜, 岩井貴寛, 井出瑤平, 宮前遊花, 松井一晃, 足立陽子, 下田啓文, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘. ロボット支援下結腸切除におけるポート配置についての考察. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 熊本, 2023. 11. 10.

11. 島田岳洋, 井出瑤平, 宮前遊花, 岩井貴寛, 手塚日向子, 鳥崎友紀子, 松井一晃, 足立陽子, 下田啓文, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘. 同時多発大腸癌におけるロボット支援下手術の検討. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 2023. 12. 7.
12. 松井一晃, 岩井貴寛, 佐藤茉莉花, 宮前遊花, 鳥崎友紀子, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘, 松本純夫. 当院の 85 歳以上の胃癌患者に対する手術成績の検討. 世田谷区医師会研究会. 世田谷, 2024. 12. 2.
13. 下田啓文, 浦上秀次郎, 井出瑤平, 鳥崎友紀子, 松井一晃, 足立陽子, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 石志紘, 松本純夫. 幽門側胃切除術後の膵体部癌に対して術中 ICG 蛍光法が残胃血流評価に有効であった 1 例. 第 85 回臨床外科学会総会. 岡山, 2023. 11. 16.
14. 井出瑤平, 下田啓文, 浦上秀次郎, 鳥崎友紀子, 松井一晃, 足立陽子, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 石志紘, 松本純夫. 膵内分泌腫瘍との鑑別が困難であった増大傾向を示した膵漿液性嚢胞腺腫の 1 例. 第 85 回臨床外科学会総会. 岡山, 2023. 11. 16.
15. 月山絵未, 下田啓文, 松井一晃, 足立陽子, 島田岳洋, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘, 松本純夫. 若年の外傷性膵損傷に対して腹腔鏡下脾温存膵体尾部切除を行った 1 例. 第 85 回臨床外科学会総会. 岡山, 2023. 11. 16.
16. 岩井貴寛, 下田啓文, 浦上秀次郎, 井出瑤平, 鳥崎友紀子, 松井一晃, 足立陽子, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 石志紘, 松本純夫. 肝右葉を占拠する巨大血管腫に対して経カテーテル的肝動脈塞栓術後に外科的切除を施行した一例. 第 85 回臨床外科学会総会. 岡山, 2023. 11. 16.
17. 松井一晃, 鳥崎友紀子, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘, 松本純夫. 85 歳以上の胃癌患者に対する手術成績の検討. 第 53 回胃外科・術後障害研究会. 東京, 2023. 11. 10.
18. 鳥崎友紀子, 関本康人. EVAR 施行 7 年以降に出現した Type1a エンドリーク, Type3b エンドリーク, Type2 エンドリークに対して計 3 回の追加治療を施行した 1 例. 第 26 回大動脈ステントグラフト研究会. 奈良, 2023. 11. 3.
19. 関本康人, 鳥崎友紀子. ステントグラフト内挿術後 Type 1a エンドリークに対する治療. 第 64 回日本脈管学会学術総会. 横浜, 2023. 10. 26.
20. 鳥崎友紀子, 関本康人, 吉武秀一郎, 大迫茂登彦. AFX2 留置後に TypeⅢa エンドリークを生じた 2 症例に対する治療経験. 第 64 回日本脈管学会学術総会. 横浜, 2023. 10. 26.
21. 宮前遊花, 関本康人, 鳥崎友紀子, 吉武秀一郎, 大迫茂登彦. 肺血栓塞栓症を合併した下大静脈瘤の一例. 第 64 回日本脈管学会総会. 横浜, 2023. 10. 26.
22. 浦上秀次郎, 松井一晃, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 石志紘. 当科における総胆管結石に対する腹腔鏡手術の成績と課題. 第 59 回日本胆道学会学術集会. 札幌. 2023. 9. 14.
23. 浦上秀次郎, 松井一晃, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 松本純夫, 石志紘. 当院における reduced port surgery による胆嚢摘出術の継続と後進への指導の課題. 第 10 回 Reduced Port Surgery Forum. 北九州, 2023. 8. 18.
24. 関本康人. Long-term result of endovascular aortic repair in Japanese multicenter registry. 第 12 回日独血管外科学会. Regensburg, 2023. 8. 3.
25. 浦上秀次郎, 松井一晃, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 石志紘. 当院における 85 歳以上の超高齢者に対する胃癌治療成績. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023. 7. 12.

26. 島田岳洋, 月山絵未, 島崎友紀子, 松井一晃, 足立陽子, 下田啓文, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘. 多発癌におけるロボット支援下結腸切除の工夫. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023. 7. 12.
27. 松井一晃, 島崎友紀子, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 浦上秀次郎, 石志紘, 松本純夫. 多発癌におけるロボット支援下結腸切除の工夫. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 函館, 2023. 7. 12.
28. 島崎友紀子, 関本康人. 膝窩静脈性血管瘤 6 例の治療経験. 第 43 回日本静脈学会総会. 松山, 2023. 7. 6.
29. Urakami H, Matsui K, Shimoda H, Shimada T, Kawaguchi Y, Seki S. The outcome and management of highly advanced HBP surgery for super-elderly patients more than 80 years old. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. Tokyo, 2023. 6. 30.
30. 下田啓文, 浦上秀次郎, 島崎友紀子, 松井一晃, 足立陽子, 島田岳洋, 関本康人, 川口義樹, 石志紘, 松本純夫. A case of jejunal mesenteric desmoid tumor complicated with pancreatic head neuroendocrine tumor underwent pancreaticoduodenectomy for diagnosis. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. Tokyo, 2023. 6. 30.
31. Torizaki Y, Shintani T, Obara H, Matsubara K, Hayashi M, Ono S, Watada S, Sekimoto Y, Asami A, Fujii T, Hayashi K, Harada H, Fujimura N, Kitagawa Y. Wound management of toe wound and its clinical impact after revascularization for CLTI: Japanese multicenter study. 第 12 回日韓血管外科学会. 韓国, 2023. 6. 10.
32. 浦上秀次郎, 松井一晃, 足立陽子, 下田啓文, 島田岳洋, 川口義樹, 松本純夫, 石志紘. 当院における低侵襲胃切除術の成績の比較とロボット支援手術の今後の課題. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 品川, 2023. 4. 27.
33. 関本康人, 島崎友紀子. 多施設データを用いた EVAR 遠隔期成績の検討と今後の展望. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 品川, 2023. 4. 27.

【講演】

1. 関本康人. ランチョンセミナー 多施設データを用いた EXCLUDER IBE の中期成績. 第 28 回血管外科関東甲信越地方会. 横浜, 2023. 9. 23.

【その他】

1. 浦上秀次郎. 急性胆嚢炎に対する治療成績: 座長. 第 60 回日本腹部救急医学会総会. 北九州, 2024. 3. 21.
2. 浦上 秀次郎. 座長. 第 12 回腹腔鏡下胆道手術研究会. 新宿, 2024. 2. 17
3. 石 志紘. ポスター上部消化管出血・穿孔: 座長. 第 15 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会. 千葉, 2023. 10. 6.
4. 浦上 秀次郎, 主肝胆膵 3: 座長. 第 10 回 Reduced Port Surgery Forum. 北九州, 2023. 8. 19
5. Urakami H. Mini-Symposium, HB MIS: 座長. The 35th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery. Tokyo, 2023. 6. 30.

【論 文】

1. Naoi Y, Tsunashima R, Shimazu K, Oikawa M, Imanishi S, Koyama H, Kamada Y, Ishihara K, Suzuki M, Osako T, Kinoshita T, Suto A, Nakamura S, Tsuda H, Noguchi S. Validation of the prognosis of patients with ER-positive, HER2-negative and node-negative invasive breast cancer classified as low risk by Curebest™ 95GC Breast in a multi-institutional registry study. ONCOLOGY LETTERS. 2023 April.
2. Yamazawa T, Sugano K, Tanakaya K, Inoue S, Murakami H, Nakashima M, Adachi M, Oki S, Makabe T, Yamashita H, Ueki A, Sasaoka A, Nakashoji A, Kinoshita T, Matsunaga T, Arai M, Nakamura S, Miyata H, Ikegami M, Mano H, Kohsaka S, Matsui A. The pathogenic role of the BRCA2 7847C>T (Ser2616Phe) variant in breast and ovarian cancer predisposition. Cancer Science. 2023; 00: 1-10.
3. Winstanley J, Libreros-Pena L, Schaffrin-Nabe D, Arif A, de Vries E, Young A, Markussen A, Rugo HS, Dercksen M, Kinoshita T, Boyle F, van den Hurk C. The HAIR-QoL measure Part 2: Validation of an instrument to measure of the severity and impact of chemotherapy-induced alopecia (CIA). Measurement and Evaluations in Cancer Care. 2023 November.
4. Takayama S, Kinoshita T, Shiino S, Jimbo K, Watanabe K, Fujisawa T, Yamamoto N, Onishi T, Shien T, Ito M, Takahashi M, Futamura M, Aruga T, Kaneko K, Suto A. Patients offer radiofrequency ablation therapy for early breast cancer as local therapy (PO-RAFAELO) study under the patient-proposed health services. JMA Journal 2023; 6: 4.
5. Toi M, Kinoshita T, Benson JR, Jatoi I, Kataoka M, Han W, Yamauchi C, Inamoto T, Takada M. Non-surgical ablation for breast cancer: an emerging therapeutic option. THE LANCET Oncology POLICY REVIEW 2024; 25: E114-E125.

【著 書】

1. 木下貴之. 患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2023 年版. 日本乳癌学会編, 金原出版 第 7 版, 2023. 1.
2. 木下貴之. non-surgical ablation-ラジオ波熱焼灼療法. 乳腺外科の要点と盲点 第 3 版, 文光堂, 2023; 168-169.
3. 木下貴之, 高橋將人. ラジオ波焼灼療法の適正使用指針. 乳癌の臨床 2024; 39, 51-59 篠原出版新社

【学会・研究会発表】

1. 木下貴之. 地域で考える AYA 世代のがん治療. 第 3 回 NTMC がん治療セミナー. 総合司会・座長. 2023. 1. 19.
2. 木下貴之. 早期乳癌ラジオ波焼灼療法 (RFA) における病理組織学的検索法と効果判定. 甲状腺、乳房に対するアブレーション. ワークショップ 3, 第一回日本アブレーション研究会. 司会. 東京, 2023. 2. 4.

3. 月山絵未, 松井哲, 小谷依里奈, 笹原真奈美, 木下貴之, 村田有也. HER2 陽性進行・再発乳癌に対する当院での Trastuzumab Deruxtecan の使用成績. 第 31 回日本乳癌学会総会. 横浜, 2023. 6. 29.
4. 月山絵未, 松井哲, 木下貴之, 小谷依里奈, 笹原真奈美, 手塚日向子, 佐藤茉莉花, 村田有也. 胃に初再発を来した乳癌の 1 例. 第 19 回日本乳癌学会関東地方会. 大宮, 2023. 12. 2.
5. 手塚日向子, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 笹原真奈美, 村田有也, 木下貴之. 腋窩副乳癌手術例の検討. 第 31 回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023. 6. 29.
6. 手塚日向子, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 笹原真奈美, 村田有也, 木下貴之. 腋窩部副乳癌に対するセンチネルリンパ節生検の経験. 第 25 回 SNNS 研究会学術集会. 東京, 2023. 10. 27.
7. 手塚日向子, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 笹原真奈美, 村田有也, 木下貴之. 広範な病巣を呈した乳腺 Adenoid cystic carcinoma の 1 例. 第 19 回日本乳癌学会関東地方会. 大宮, 2023. 12. 2.
8. 佐藤茉莉花, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 手塚日向子, 笹原真奈美, 笹岡綾子, 村田有也, 木下貴之. 術前化学療法での pCR の評価が困難であったトリプルネガティブ乳癌の 1 例. 第 19 回日本乳癌学会関東地方会. 大宮, 2023. 12. 2.
9. 小谷依里奈, 松井哲, 笹原真奈美, 村田有也, 笹岡綾子, 木下貴之. 術前化学療法で原発巣の pCR を得た後に再発を来した乳癌症例の後方視的検討. 第 61 回日本癌治療学会学術総会. 横浜, 2023. 10. 20.
10. 松井哲, 小谷依里奈, 笹原真奈美, 村田有也, 川口良樹, 浦上秀次郎, 石志鉦, 木下貴之. 乳癌腫瘍周囲への局所麻酔注射による予後改善効果の検討. 第 61 回日本癌治療学会学術総会. 横浜, 2023. 10. 21.
11. 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 手塚日向子, 笹原真奈美, 笹岡綾子, 村田有也, 山澤一樹, 木下貴之. BRCA 遺伝子の遺伝情報に基づく治療戦略. 第 31 回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023. 6. 29.
12. 小谷依里奈, 松井哲, 月山絵未, 笹原真奈美, 村田有也, 笹岡綾子, 木下貴之. 当院で経験した葉状腫瘍 117 例の臨床病理学的特徴. 第 31 回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023. 6. 29.
13. 小谷依里奈, 林田哲, 菊池雅之, 永山愛子, 関朋子, 高橋麻衣子, 大西達也, 北條隆, 神野浩光, 五月女恵一, 松井哲, 首藤昭彦, 井本滋, 北川雄光. Establishment of the breast ultrasound support system using deep-learning system. 第 31 回日本乳癌学会学術総会. 2022 JBCS Young Investigator Grant for SABCS. 横浜, 2023. 6. 29.
14. 村田有也, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 笹原真奈美, 木下貴之. セルブロック標本を用いた乳癌バイオマーカー検索の有用性に関する検討. 第 31 回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023. 6. 29.
15. 松井哲, 小谷依里奈, 笹原真奈美, 村田有也, 山澤一樹, 川口良樹, 浦上秀次郎, 石志鉦, 木下貴之. BRCA 変異陽性乳癌の臨床病理学的特徴に基づく治療戦略. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 高輪, 2023. 4. 29.
16. 小谷依里奈, 松井哲, 月山絵未, 笹原真奈美, 村田有也, 笹岡綾子, 木下貴之. 同時性両側乳癌の臨床病理学的な特徴から最適な治療法を検討する. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 高輪, 2023. 4. 27.

17. 小谷依里奈, 松井哲, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 月山絵未, 笹原真奈美, 村田有也, 笹岡綾子, 木下貴之. 異時両側性に発症した Mucocoele like lesion の 1 例. 第 19 回日本乳癌学会関東地方会. 大宮, 2023. 12. 2.
18. 笹岡綾子, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 手塚日向子, 笹原真奈美, 木下貴之. 乳房に皮膚変化、変形、自壊を伴った局所進行乳癌患者の受診が遅延した理由の検討. 第 31 回日本乳癌学会学術総会. 横浜, 2023. 6. 30.
19. 笹岡綾子, 島田美季, 松井哲, 小谷依里奈, 月山絵未, 佐藤茉莉花, 手塚日向子, 笹原真奈美, 木下貴之. 当院における頭皮冷却療法のフィッティング研修の見直しと今後のトレーニング方法の検討. 第 19 回日本乳癌学会関東地方会. 大宮, 2023. 12. 2.

整形外科

【著 書】(和 文)

1. 森岡秀夫. 最新主要文献とガイドラインでみる 整形外科学レビュー 2023-24: 骨軟部、骨腫瘍、良性骨腫瘍・骨巨細胞腫の診断・治療指針. 総合医学社, 東京. 238-243.
2. 辻崇. 脊髄の疾患. Medicina 2023; 60: 1130-1135.
3. 辻崇. 化膿性脊椎炎・腸腰筋膿瘍. Medicina 2023; 60: 1136-1139.

【原 著 論 文】(英 文)

1. Taneichi H, Kanemura T, Inoue G, Iwase Y, Ueda H, Kuzuhara A, Kurozumi T, Takahashi E, Takahashi H, Nakamae A, Hashiguchi H, Hiraizumi Y, Mae T, Morioka H, Yagi M, Sairenchi T, Nishiwaki Y, Inagaki T, Akiyama H, Nakashima Y. Current status and future prospects of the Japanese orthopaedic association national registry, Japan's first national registry of orthopaedic surgery. J Orthop Sci 2023; 28:683-692.
2. Okubo T, Nagoshi N, Tsuji O, Nishimura S, Suzuki S, Nori S, Yagi M, Matsumoto M, Nakamura M, Watanabe K. Spinous process-splitting laminectomy approach for tumor excision at conus medullaris or cauda equina level results in satisfactory clinical outcomes without affecting global spinal sagittal alignment. Global Spine J 2023; 13: 1745-1753.
3. Ninomiya K, Okuyama K, Aoyama R, Nori S, Yamane J, Suzuki S, Kitamura K, Anazawa U, Furukawa M, Shiraishi T, Ueda S, Kato M. Surgical outcomes of selective laminectomy for patients with cervical kyphosis: A retrospective study of 379 cases. Global Spine J 2023; 13: 1777-1786.
4. Segi N, Nakashima H, Machino M, Ito S, Yokogawa N, Sasagawa T, Funayama T, Eto F, Watanabe K, Nori S, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Hasegawa T, Yamada T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Inoue G, Shirasawa E, Kakutani K, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Funao H, Oshima Y, Yoshii T, Kaito T, Sakai D, Ohba T, Seki S, Otsuki B, Ishihara M, Miyazaki M, Okada S, Imagama S, Kato S. Epidemiology of cervical fracture/cervical spinal cord injury and changes in surgical treatment modalities in elderly individuals during a 10-year period: A nationwide multicenter study in Japan. Global Spine J 2023; 13: 21925682231151643.
5. Nori S, Watanabe K, Takeda K, Yamane J, Kono H, Yokogawa N, Sasagawa T, Ando K, Nakashima H, Segi N, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Shirasawa E, Inoue G, Kiyasu K, Iizuka Y, Takasawa E, Funao H, Kaito T, Yoshii T, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Kato S. Influence of the timing of surgery for cervical spinal cord injury without bone injury in elderly: A retrospective multicenter study. J Orthop Sci 2024; 29: 480-485.

6. Kobayashi M, Yokogawa N, Kato S, Sasagawa T, Tsuchiya H, Nakashima H, Segi N, Ito S, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Yamane J, Nori S, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Kuroda A, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Watanabe K. Risk factors for early mortality in older patients with traumatic cervical spine injuries: A multicenter retrospective study of 1512 cases. *J Clin Med* 2023; 12: 708.
7. Okuwaki S, Funayama T, Koda M, Eto F, Yamaji A, Yokogawa N, Sasagawa T, Ando K, Nakashima H, Segi N, Watanabe K, Nori S, Takeda K, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Shirasawa E, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Kato S. Characteristics of the cervical spine and cervical cord injuries in older adults with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament. *Sci Rep* 2023; 13: 2689.
8. Yamada Y, Yokogawa N, Kato S, Sasagawa T, Tsuchiya H, Nakashima H, Segi N, Ito S, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Yamane J, Nori S, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Kuroda A, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Watanabe K. Effects of dementia on outcomes after cervical spine injuries in elderly patients: Evaluation of 1512 cases in a nationwide multicenter study in Japan. *J Clin Med* 2023; 12: 1867.
9. Hirota R, Terashima Y, Ohnishi H, Yamashita T, Yokogawa N, Sasagawa T, Nakashima H, Segi N, Ito S, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Watanabe K, Nori S, Takeda K, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Kuroda A, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Kato S: Prognostic impact of respiratory dysfunction in elderly patients with cervical spinal cord injury and/or fractures: a multicenter survey. *Eur Spine J* 2023; 32: 3522–3532.

10. Hirose Y, Nagoshi N, Tsuji O, Kono H, Iida T, Suzuki S, Takahashi Y, Nori S, Yagi M, Matsumoto M, Nakamura M, Watanabe K: Natural history and surgical outcomes of idiopathic spinal cord herniation. *Spinal Cord* 2023; 61: 441-446.
11. Segi N, Nakashima H, Machino M, Ito S, Yokogawa N, Sasagawa T, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Watanabe K, Nori S, Takeda K, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Shirasawa E, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Funao H, Oshima Y, Yoshii T, Kaito T, Sakai D, Ohba T, Seki S, Otsuki B, Ishihara M, Miyazaki M, Okada S, Imagama S, Kato S. Prognosis of cervical diffuse idiopathic skeletal hyperostosis-related spine injuries in elderly patients: Analyses of both fracture and spinal cord injury without fracture. *Global Spine J* 2023: 21925682231186757.
12. Horiuchi Y, Yagi M, Suzuki S, Takahashi Y, Nori S, Tsuji O, Nagoshi N, Matsumoto M, Nakamura M, Watanabe K: Radiographical results of adolescent idiopathic scoliosis with major curve at proximal thoracic spine. *Spine Surg Relat Res* 2023; 7: 371-376.
13. Segi N, Nakashima H, Ito S, Yokogawa N, Sasagawa T, Watanabe K, Nori S, Funayama T, Eto F, Nakajima H, Terashima Y, Hirota R, Hashimoto K, Onoda Y, Furuya T, Yunde A, Ikegami S, Uehara M, Suzuki H, Imajo Y, Uei H, Sawada H, Kawaguchi K, Nakanishi K, Suzuki N, Oshima Y, Hasegawa T, Iizuka Y, Tonomura H, Terai H, Akeda K, Seki S, Ishihara M, Inoue G, Funao H, Yoshii T, Kaito T, Kiyasu K, Tominaga H, Kakutani K, Sakai D, Ohba T, Otsuki B, Miyazaki M, Murotani K, Okada S, Imagama S, Kato S: Early versus delayed surgery for elderly ttraumatic cervical spinal injury: A nationwide multicenter study in Japan. *Global Spine J* 2024: 21925682241227430.
14. Ozaki M, Suzuki S, Michikawa T, Takahashi Y, Nori S, Tsuji O, Nagoshi N, Yagi M, Fujita N, Matsumoto M, Nakamura M, Watanabe K: Impact of pleural effusion at an early period after posterior spinal fusion for adolescent idiopathic scoliosis on future pulmonary function and lung volume. *N Am Spine Soc J* 2023; 16: 100289.
15. Koike Y, Takahata M, Nakajima M, Otomo N, Suetsugu H, Liu X, Endo T, Imagama S, Kobayashi K, Kaito T, Kato S, Kawaguchi Y, Kanayama M, Sakai H, Tsuji T, Miyamoto T, Inose H, Yoshii T, Kashii M, Nakashima H, Ando K, Taniguchi Y, Takeuchi K, Ito S, Tomizuka K, Hikino K, Iwasaki Y, Kamatani Y, Maeda S, Nakajima H, Mori K, Seichi A, Fujibayashi S, Kanchiku T, Watanabe K, Tanaka T, Kida K, Kobayashi S, Takahashi M, Yamada K, Takuwa H, Lu HF, Niida S, Ozaki K, Momozawa Y. Genetic insights into ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine. *Elife* 2023; 12: e86514
16. Inose H, Kato T, Ichimura S, Nakamura H, Hoshino M, Takahashi S, Togawa D, Hirano T, Tokuhashi Y, Ohba T, Haro H, Tsuji T, Sato K, Sasao Y, Takahata M, Otani K, Momoshima S, Hirai T, Yoshii T, Takahashi K, Okawa A. Factors affecting the quality of life in the chronic phase of thoracolumbar osteoporotic vertebral fracture managed conservatively with a brace. *Spine J* 2023; 23: 425-432.

17. Kawakami M, Takeshita K, Inoue G, Sekiguchi M, Fujiwara Y, Hoshino M, Kaito T, Kawaguchi Y, Minetama M, Orita S, Takahata M, Tsuchiya K, Tsuji T, Yamada H, Watanabe K. Structured abstract preparation team. Japanese Orthopaedic Association (JOA) clinical practice guidelines on the management of lumbar spinal stenosis. J Orthop Sci 2023; 28: 46-91.
18. Furuhashi R, Tanji A, Oki S, Kamata Y. Influence of proximal humeral cortical bone thickness on the radiographic outcome after osteosynthesis of proximal humeral fractures: propensity matching score analysis. Geriatr Orthop Surg Rehabil 2023; 14: 21514593231198645.
19. Sasaki R, Kaneda K, Yamada Y, Niki Y, Nakamura M, Nagura T, Jinzaki M. Extra-articular location of the three-dimensional mechanical axis in advanced knee osteoarthritis: an upright computed tomography study. Jpn J Radiol 2023; 41: 1405-1413.
20. Sasaki R, Niki Y, Kaneda K, Yamada Y, Nagura T, Nakamura M, Jinzaki M. Three-dimensional joint surface orientation does not correlate with two-dimensional coronal joint line orientation in knee osteoarthritis: Three-dimensional analysis of upright computed tomography. Knee 2023; 43: 10-17.
21. Yokoyama K, Katoh H, Bito S, Fujita Y, Yamauchi K. Short-term outcomes of surgery and rehabilitation on activities of daily living after displaced femoral neck fractures: structural equation modeling. J Clin Med 2023; 12: 1234.

(和 文)

1. 藤田貴也. 最近注目のセメントレス THA を知りたい! curved short stem と full HA coating stem: Full HA stem の種類とその違い(特に coating に関して) 関節外科 2023; 42: 69-74.
2. 金田和也, 二木康夫, 名倉武雄. キネマティックアライメントのバイオメカニクス. 整形・災害外科 2023; 66: 53-57.
3. 藤田貴也, 亀田隆太, 道振康平, 金田和也, 藤江厚廣, 大矢昭仁, 辻崇, 森岡秀夫. Full HA-COATED STEM POLARSTEM の臨床成績. 日本人工関節学会誌 2023; 53: 247-248.
4. 道振康平, 亀田隆太, 金田和也, 藤江厚廣, 大矢昭仁, 藤田貴也. 狭小髓腔に対する人工股関節全置換術の 3 例. 日本人工関節学会誌 2023; 53: 379-380.
5. 藤田貴也, 亀田隆太, 道振康平, 金田和也, 藤江厚廣, 大矢昭仁, 辻崇, 森岡秀夫. Full HA-COATED STEM POLARSTEM の臨床成績. 日本人工関節学会誌 2023; 53: 247-248.
6. 亀田隆太, 藤田貴也, 道振康平, 西村太一. 骨形成不全症に対する人工股関節全置換術の 1 例. Hip Joint 2023; 49: 812-817.
7. 道振康平, 亀田隆太, 西村太一, 藤江厚廣, 大矢昭仁, 藤田貴也. 大腿骨骨折術後骨髓炎を生じ変形治癒となった外傷性股関節症にショートステムが有用であった一例. Hip Joint 2023; 49: 740-743.
8. 吉山晶, 西村太一, 道振康平, 亀田隆太, 藤田貴也. 大腿骨近位悪性骨腫瘍に対する制御型人工股関節全置換術の 1 例. Hip Joint 2023; 49: 168-171.
9. 杉浦祐太郎, 河野亜紀, 辻阪亮介, 清田康弘, 有野浩司, 鎌田雄策. 手部脂肪腫に対する手術治療の臨床成績. 日手会誌 2023; 40: 42-44.

【症 例 報 告】(英 文)

1. Kato T, Kaneda K, Harato K, Otani T, Morioka H. Bilateral medial and lateral discoid menisci: A case report. J Orthop Case Rep 2023; 13: 54-58.

2. Yung D, Asano N, Hirozane T, Yamaguchi S, Mori T, Susa M, Okita H, Morioka H, Horiuchi K, Nakayama R. Malignant transformation of metastatic giant cell tumor of bone in a patient undergoing denosumab treatment: A case report. J Orthop Sci 2023; 28: 1492-1496.
3. Ishihara H, Tsuji O, Okada E, Izawa Y, Kato J, Suzuki S, Takahashi Y, Nori S, Nagoshi N, Yagi M, Watanabe K, Nakamura M, Matsumoto M. Postoperative tongue deviation by hypoglossal nerve palsy and Tapia's syndrome after cervical laminoplasty: report of two cases. J Orthopaedic Sci 2023; 28: 1529-1535.
4. Karasawa H, Nori S*, Suzuki S, Ozaki M, Takahashi Y, Tsuji O, Nagoshi N, Yagi M, Watanabe K, Nakamura M. Bilateral lumbar pedicle fracture in a patient receiving long-term bisphosphonate therapy: A case report. Spine Surg Relat Res 2023; 7: 555-559.

【総 説】

1. 海苔聡. 尿病は頸椎症性脊髄症に対する後方除圧術後の神経学的機能改善および頸部痛の改善に悪影響を与えない. 臨床整形外科 2023; 74: 85-88.
2. 森岡秀夫. がん時代の整形外科必携! 骨転移診療アップデート: 骨転移治療総論 骨転移診療で整形外科医に何が求められているか. 臨床整形外科 2023; 58: 1413-1418.
3. 森岡秀夫, 吉山晶, 宮田知恵子. がん患者の運動器マネージメント-がんであっても歩けることの重要性: がんロコモ. Journal of Clinical Rehabilitation 2023; 32: 856-862.
4. 森岡秀夫. 骨転移診療で整形外科医に何が求められているか. 臨整外 2023; 58: 1413-1418.
5. 金田和也, 二木康夫, 名倉武雄. TKA の成績向上のためのバイオメカニクス: キネマティックアライメントのバイオメカニクス. 整形・災害外科 2023; 66: 53-57.

【学 会 発 表】

(国 際 学 会)

1. Nori S. K-line(-) in the neck-flexed position can predict surgical outcome of cervical spondylotic myelopathy. The 27th Meeting of the Spine Society of HCMC. Viet Nam, 2023.

(国 内 学 会)

1. 吉山晶, 小山孝彦, 古後斗冴, 宮澤あずみ, 白石淳一, 森岡秀夫. 肋骨に発生した類上皮肉腫の1例. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 東京, 2023. 7. 13.
2. 穴澤卯圭, 渡部逸央, 森井健司, 須佐美知郎, 菊田一貴, 水野早希子, 堀田拓, 青山龍馬, 高橋勇一郎, 松本將吾, 森岡秀夫, 中山ロバート. がん治療後に生じるがん治療関連運動器障害の検討. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 東京, 2023. 7. 13.
3. 浅野尚文, 小林英介, 森井健司, 菊田一貴, 穴澤卯圭, 森岡秀夫, 川井章, 堀内圭輔, 中山ロバート. 骨修飾剤の功罪 手術困難な骨巨細胞腫症例に対するデノスマブ療法の功罪. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 東京, 2023. 7. 13.
4. 神尾聡, 中川瑠美, 森智章, 浅野尚文, 菊田一貴, 堀内圭輔, 森井健司, 穴澤卯圭, 森岡秀夫, 中山ロバート. 類骨骨腫に対するCTガイド下搔爬・焼灼術の臨床成績の検討. 第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 東京, 2023. 7. 13.
5. 林哲平, 金田和也, 藤田貴也, 森岡秀夫. 採骨後の医原性腸骨骨折後偽関節の一例. 第49回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023. 6. 29.

6. 森岡秀夫.『がん患者』の四肢骨折治療　がん患者の運動器管理　がんロコモから Onco-Orthopaedics へ. 第 49 回日本骨折治療学会学術集会. 静岡, 2023. 6. 29.
7. 河野博隆, 大江隆史, 森岡秀夫, 高木辰哉, 阿部哲士, 緒方直史, 岩瀬哲, 酒井良忠, 篠田裕介, 大島和也, 古矢丈雄, 今西淳悟, 平畑昌宏, 中村耕三. ロコモティブシンドローム研究アップデート: がんロコモの実際と今後の課題　Onco-orthopaedics という新領域. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. 横浜, 2023. 5. 11.
8. 吉山晶, 浅野尚文, 須佐美知郎, 中山ロバート, 森岡秀夫. 再発性骨巨細胞腫に対するデノスマブ単独長期維持療法. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. 横浜, 2023. 5. 11.
9. 西村太一, 道振康平, 亀田隆太, 藤田貴也. 骨膜反応を伴う人工関節周囲感染に対する一期的再置換術後、骨膜反応の消失を認めた症例. 第 50 回日本股関節学会学術集会. 福岡, 2023. 10. 27.
10. 西村太一, 金田和也. 大腿骨内側顆骨壊死(ON)および変形性膝関節症(OA)と内側半月板後根損傷(MMPRT)の関連の検討. 第 1 回日本膝関節学会. 横浜, 2023. 12. 8.
11. 海苔聡, 名越慈人, 山根淳一, 池上健, 船尾陽生, 野尻賢哉, 福田健太郎, 鈴木悟史, 高橋洋平, 辻収彦, 八木満, 石井賢, 松本守雄, 中村雅也, 渡辺航太. 頸椎症性脊髄症と頸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧術の治療成績は異なるのか: 傾向スコアマッチングを用いた 814 例の多施設後ろ向き研究結果. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 札幌, 2023. 4. 13.
12. 柴田玲生, 八木満, 鈴木悟士, 高橋洋平, 辻収彦, 海苔聡, 名越慈人, 松本守雄, 中村雅也, 渡辺 航太. 思春期特発性側弯症 Lenke タイプ 5 の成人期遺残例における後方矯正固定術の手術成績の検討. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 札幌, 2023. 4. 13.
13. 名越慈人, 辻収彦, 鈴木悟士, 高橋洋平, 海苔聡, 八木満, 松本守雄, 中村雅也, 渡辺航太. 未成年患者における脊髄腫瘍の特徴. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 札幌, 2023. 4. 13.
14. 海苔聡, 名越慈人, 山根淳一, 池上健, 船尾陽生, 野尻賢哉, 福田健太郎, 石井賢, 松本守雄, 中村雅也, 渡辺航太. 頸椎症性脊髄症と頸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧術の治療成績は異なるのか: 814 例の多施設後ろ向き研究結果. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. 横浜, 2023. 5. 11.
15. 青山龍馬, 山根淳一, 二宮研, 高橋勇一郎, 北村和也, 海苔聡, 鈴木悟士, 松本將吾, 堀田拓, 穴澤卯圭, 白石建. 頸椎棘突起と付着筋よりなるエクステンションユニットは尾側の椎間板の前弯を維持している. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. 横浜, 2023. 5. 11.
16. 原藤健吾, 金田和也, 小林秀. 膝のスポーツ外傷・障害　保存療法と手術治療. 第 34 回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 横浜. 2023. 11. 11.
17. 藤田貴也, 亀田隆太, 道振康平, 西村太一. 粗鬆骨に対する THA を極める～セメントと非セメント～ Full HA coated ステムを使用した粗鬆骨に対する THA. 第 51 回日本関節病学会. 東京, 2023. 7. 21.
18. 彌富将, 畑亮輔, 橋本健礼, 小野匠, 石濱寛子, 飯塚慎吾, 棚木弘和, 吉田篤, 原彰男. 左母趾爪下外骨腫に対して骨部分切除を施行した 1 例. 第 60 回埼玉県医学会総会. 埼玉, 2023. 2. 26.
19. 小野匠, 飯塚慎吾, 吉田篤, 棚木弘和, 石濱寛子, 畑亮輔, 種子島諒時, 橋本健礼, 彌富将, 原彰男. 腰仙部脊髄脂肪腫に合併した脊髄係留症候群に対して脊柱短縮術を施行した 1 例. 第 60 回埼玉県医学会総会. 埼玉, 2023. 2. 26.
20. 杉浦祐太郎, 鎌田雄策, 河野亜紀, 清田康弘, 辻阪亮介, 有野浩司. 手部脂肪腫に対する手術治療の臨床成績. 第 66 回日本手外科学会学術集会. 東京, 2023. 4. 20.

21. 森岡秀夫, 吉山晶, 宮田知恵子, 萬篤憲, 伊東伸剛, 須河恭敬. 20 万骨転移患者のウェルビーイングを目指して新しい地平線 (オンコールソペディクス) を開拓する: 骨転移キャンサーボードの重要性. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 名古屋, 2024. 2. 22.

【講演】

1. 海苔聡. ディスカッション: 医療連携の実際～頸椎の症例. 第 4 回目黒世田谷運動器 WEB カンファレンス. 目黒, 2023. 7. 26.
2. 海苔聡. 筋温存型選択的椎弓切除術の適応と限界: 術後神経障害性疼痛の薬物治療. Spine Seminar. 立川, 2023. 9. 21.
3. 森岡秀夫. がんロコモ診療のために知っておきたい新しい骨転移マネジメント. 第 6 回日本サルコーマ治療研究学会学術集会 教育研修講演. 神戸, 2023. 2. 25.
4. 森岡秀夫. 整形外科とがん診療: Onco-Orthopaedics とは. 第 96 回慶應義塾大学整形外科学教室公開セミナー. 東京, 2023. 3. 11,
5. 辻崇. 外傷性頸部症候群、腰椎捻挫: 自賠責保険、後遺症診断書の認定過程のポイントとは? 痛みについて考える Web セミナー城南. 目黒, 2023. 4. 20.
6. 辻崇. 臨床例から考える脊椎外傷治療と神経障害性疼痛の薬物治療. 東名古屋整形外科と疼痛セミナー整形外科救命救急クロストーク. 名古屋, 2023. 11. 1.
7. 辻崇. 後縦靱帯骨化症の診療に役立つ豆知識と神経障害性疼痛の薬物治療. Web セミナー人生 100 年時代を生き抜く背骨のはなし. 目黒, 2024. 3. 14.
8. 森岡秀夫. がんロコモ診療と整形外科: onco-orthopaedics という新領域. 第 23 回城東ロコモティブシンドローム懇話会. 東京, 2024. 3. 14.
9. 森岡秀夫. もっと知ってほしいがんロコモーがん骨の関係について. ロコモサミット 2024. 講演 1 がんロコモ. 東京, 2024. 3. 9.

【その他】

1. 森岡秀夫. 教育研修講演 座長. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. 横浜, 2023. 5. 12.
2. 森岡秀夫. 教育研修講演 座長. 第 56 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 東京, 2023. 7. 14.
3. 森岡秀夫. 骨転移診療ガイドラインと骨転移 Cancer Board の必要性について. Bone Management Seminar (Web) 2023. 7. 19.
4. 森岡秀夫. 総合司会. 第 4 回目黒世田谷運動器 WEB カンファレンス (Web) 2023. 7. 26.
5. 森岡秀夫. ガイドラインから見える整形外科的アプローチ. 骨転移 Web セミナー (Web) 2023. 9. 6.
6. 森岡秀夫. 当院における骨転移チーム医療. 第 18 回病診薬連携緩和ケア研究会 (Web) 2023. 9. 13.
7. 森岡秀夫. 一般口演 骨軟部 座長. 第 61 回日本癌治療学会学術集会. 横浜, 2023. 10. 20.
8. 森岡秀夫. 一般演題 骨軟部腫瘍 座長. 第 34 回日本小児整形外科学会学術集会. 神戸, 2023. 11. 24.
9. 森岡秀夫. Closing Remarks. NTMC がん治療セミナー-地域で考える高齢者のがん診療 (Web) 2024. 3. 5.

【論文】

1. Sugiura Y, Nakamura M, Fujimoto H, Ochiai H, Ohkubo Y, Fusegawa H, Kawai O, Araki N, Hashizume T. An independent prognostic factor in surgical cases of pleural empyema caused by common bacteria is the presence of a fistula. Gen Thorac Cardiovasc Surg 2023; 71: 657-664.
2. Risa S, Oka A, Hirata E, Ochiai H. Umbilical complications that require surgical intervention after gynecologic laparoscopic surgery. Plast Reconstr Surg Glob Open 2023; 11: e5391.
3. 高山範理, 木俣知大, 落合博子, 木村理砂, 酒井健一, 天野亮. 地域の森林空間を活用したヘルスツアーが心身の健康・満足感等にあたえる効果とその持続性. 森林サービス産業モデル地域・富士宮市猪之頭区調査結果(2021年度)より. 日林誌 2024; 106: 13-24.

【著書】

1. 落合博子. 美肌が叶うシンプルスキンケア. PHP ぐらしラク〜る ♪ 2023. PHP 研究所. 東京, 7: 54-59.
2. 落合博子. 森林サービス産業 エビデンス取得に関する手引き. 森林サービス産業検討委員会. 国土緑化推進機構. 東京, 2023: 2-27.
3. 落合博子. 森林を活用した身体健康づくりのエビデンスの実際. へるすあっぷ 21 2023. 株式会社法研. 東京, 7:18.

【学会・研究会発表】

1. Katayama R, Oka A, Nakanishi M, Ochiai H. Postoperative complications of submental artery flap and prevention methods. The 66th Annual Meeting of Japan Society of Plastic and Reconstructive Surgery. Nagasaki, 2023.4.26.
2. Ochiai H, Oka A, Tonegawa A, Yunoki S. Design of artificial dermis for prevention of scar contracture and induction of dermal regeneration. The 66th Annual Meeting of Japan Society of Plastic and Reconstructive Surgery. Nagasaki, 2023.4.26.
3. Ochiai H, Kimura R, Takayama N. Introduction of "Forest-related service industry" in Japan: Strategies for utilizing forest space for health promotion. 5th International Congress Forest and its Potential for Health. Slovenia, 2023.9.19.
4. Ochiai H, Kimura R. Utilizing industrial physicians to promote forest space utilization for healthy corporate management. 3rd World Conference on Forests for Public Health. Canada, 2023.10.6.
5. 中西未知, 岡愛子, 片山陸, 落合博子. 複数回の外科的治療を経た難治性有癭性膿胸の1例. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.26.
6. 片山陸, 岡愛子, 中西未知, 落合博子. 熱傷後の頸部瘢痕拘縮に対して鎖骨上皮弁を用いて可動域改善が得られた2例. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.26.
7. 岡愛子, 落合博子, 片山陸, 中西未知, 的場恵理. 外鼻再建の検討. 第66回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023.4.26.

8. 落合博子, 岡愛子, 片山陸, 中西未知. 眼瞼下垂症手術後の腫脹を左右する因子の検索. 第 66 回日本形成外科学会総会・学術集会. 長崎, 2023. 4. 26.
9. 志水里瑛子, 岡愛子, 渡部紫秀, 落合博子. 眼瞼下垂症手術後早期の腫脹を左右する因子の検索. 第 47 回慶應義塾大学形成外科同門会学術集会. 東京, 2023. 7. 1.
10. 小林敏生, 落合博子. 森林環境への滞在および模擬労働が労働者のメンタルヘルスと生産性に及ぼす影響. 第 82 回日本公衆衛生学会総会. 茨城, 2023. 10. 31.
11. 志水里瑛子, 落合博子, 渡部紫秀, 岡愛子. 上眼瞼の腫脹を主訴に発見された多型腺腫の 2 例. 第 48 回慶應義塾大学形成外科同門会学術集会. 東京, 2024. 1. 27.

【講 演】

1. 落合博子. 国内外の最新の研究と効果的な実践に向けて. 第 1 回森林セラピー研究会. 長野, 2023. 5. 12.
2. 落合博子. 企業の健康経営としての森林の活用. 森林セラピーを用いたメンタルヘルス対策 part 1. 広島, 2023. 7. 26.
3. 落合博子. 企業の健康経営に貢献する森林サービス産業. 森林セラピーを用いたメンタルヘルス対策 part 2. 広島, 2023. 9. 2.
4. 落合博子. 森林から元気をもらおう: 森林医学の効果的な利用方法を学ぶ. 介護予防市民講座「人生 100 年生き支度」 山口, 2023. 9. 25.
5. 落合博子. 運動の科学と処方: 健康づくりへのアプローチ. 第 3 回日本ライフスタイル医学会学術集会. オンライン, 2023. 9. 28.
6. 落合博子. 森林を活用した健康づくりの勧め. 第 28 回国際個別化医療学会学術集会・ランチョンセミナー. 東京, 2023. 10. 9.
7. 落合博子. 未来への種: 森林が育むこどもたちの成長. 森林セラピーフォーラム 2024. オンライン, 2024. 2. 29.
8. 落合博子. 森林空間活用による健康効果. 森林医学セミナー2023. 東京, 2024. 3. 10.
9. 落合博子. 進化する森林浴: 私たちを癒し、健康に導く自然の力を活用しよう. 令和 5 年度森林浴ガイドの会活動 10 周年記念講演会. 佐賀, 2024. 3. 12.
10. Ochiai H. The benefits of forest therapy. Forest Medicine Seminar 2023. Tokyo, 2024. 3. 17.

【論文】

1. Muto J, Mine Y, Nishiyama Y, Maruyama K, Hayakawa M, Hasegawa M, Lee JKY, Hirose Y. Intraoperative real-time near-infrared image-guided endoscopic endonasal surgery for pituitary tumors. World Neurosurg 2023; 175: e218-e229.
2. 佐柳太一, 林拓郎, 田伏将尚, 赤路和則. 多発転移性脳腫瘍に対して放射線療法後に paradoxical worsening を呈した海綿静脈洞硬膜動静脈瘻の1例. 脳卒中の外科学会誌 2023; 51, 139-144.
3. 稲栴丈司, 秋山武紀, 赤路和則, 稲葉真, 柴尾俊輔, 小島篤浩, 寺尾聰, 林拓郎, 釜本大, 蔵前卓実, 福篤志, 金井隆一, 水谷克洋, 戸田正博. 運転中発症くも膜下出血の頻度と特徴: 慶應義塾大学脳動脈瘤共同研究. 脳卒中学会誌 2023; e1-5.

【総説】

1. 峯裕, 武藤淳. 外視鏡の概説と特徴③ KINEVO. 脳神経外科速報 2023; 33, 482-489.

【学会・研究会発表】

1. 峯裕, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 石原雅行, 稲葉真. 3D simulation と navigation は頭蓋底手術の合併症を減ずる. 第32回脳神経外科手術と機器学会. 富山, 2023. 4. 21.
2. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 稲葉真. 脳血管障害に対する3D外視鏡手術の現状と課題. 第32回脳神経外科手術と機器学会. 富山, 2023. 4. 22.
3. 峯裕, 中川祐, 各務宏, 石原雅行, 稲葉真, 林拓郎. 3D simulation と navigation は paraclinoid 動脈瘤直達術の精度向上と合併症低減に寄与する. 第35回日本頭蓋底外科学会. 東京, 2023. 7. 6.
4. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 稲葉真, 林拓郎. 3D外視鏡と内視鏡のコンビネーションによる低侵襲頭蓋底手術. 第35回日本頭蓋底外科学会. 東京, 2023. 7. 7.
5. 田伏将尚, 福本洋晃, 峯裕, 林拓郎. 原因不明のステント内血栓症を来した PREMIER 適応症例. Pipeline™ User's Meeting 東京, 2023. 9. 4
6. 福本洋晃, 峯裕, 波多野まみ, 利光恵利子, 田伏将尚, 林拓郎. 悪性胸膜中皮腫の脳転移の稀な一例. 第151回日本脳神経外科学会関東支部会. 東京, 2023. 9. 9
7. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 稲葉真, 林拓郎. 脳腫瘍手術における3D外視鏡による鏡視下手術の利点. 第28回日本脳腫瘍の外科学会, 長崎, 2023. 9. 29.
8. 峯裕, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 石原雅行, 稲葉真. 3D simulation navigation は頭蓋底手術の合併症を減ずる. 第28回日本脳腫瘍の外科学会. 長崎, 2023. 9. 30.
9. 林拓郎, 福本洋晃, 山本晃生, 日野宇太郎, 利光恵利子, 田伏将尚, 峯裕. 重症頭部外傷と surgical site infection 原因疾患としてのアトピー性皮膚炎: 2例報告. 第82回日本脳神経外科学会学術総会. 横浜, 2023. 10. 25.
10. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 稲葉真. 脳血管障害に対する3D外視鏡による複合的手術. 第82回日本脳神経外科学会学術総会. 横浜, 2023. 10. 26.
11. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 稲葉真. 脳血管障害に対する内視鏡支援下3D外視鏡手術. 第30回日本神経内視鏡学会. 名古屋, 2023. 11. 16.

12. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 石原雅行, 稲葉真, 林拓郎. 内視鏡血腫除去術の成績向上を目指した応用テクニック. 第30回日本神経内視鏡学会. 名古屋, 2023. 11. 17.
13. 峯裕, 岩間隆史, 田伏将尚, 福本洋晃, 林拓郎. 動脈瘤性くも膜下出血症例に対するステント併用コイル塞栓術の経験. 第27回KNC脳疾患研究会. 東京, 2023. 11. 18.
14. 林拓郎, 福本洋晃, 利光恵利子, 稲栴丈司, 田伏将尚, 峯裕. アトピー性皮膚炎を有する重症頭部外傷の3例: surgical site infectionとの関連性. 第47回日本脳神経外傷学会. 東京, 2024. 3. 2.
15. 稲栴丈司, 藤澤昌司, 林拓郎. 見当識障害で発症し腰椎神経根からの髄液漏が原因であった反復性両側慢性硬膜下血腫の一例. 第47回日本脳神経外傷学会. 東京, 2024. 3. 2.
16. 田伏将尚, 福本洋晃, 峯裕, 林拓郎. 原因不明の亜急性期ステント内血栓症を来した PREMIER 適応の1例. STROKE 2024. 横浜, 2024. 3. 7.
17. 林拓郎. 急性期病院におけるペランパネルの使用経験と諸問題. てんかん診療セミナー. 東京, 2024. 03. 12.

【その他】

1. 林 拓郎 (座長) 神経救急カンファレンス. 東京, 2023. 06. 22.
2. 林 拓郎 (座長) 脳卒中地域連携セミナー. 東京, 2023. 06. 30.
3. 林 拓郎 (座長) 脳卒中後てんかん診療カンファレンス. 東京, 2023. 09. 22.
4. 峯 裕 (座長) 一般演題 血腫② 第30回日本神経内視鏡学会. 名古屋, 2023. 11. 17.

【原著論文】

1. Nobori Y, Anraku M, Yamauchi Y, Mun M, Yoshino I, Nakajima J, Ikeda N, Matsuguma H, Iwata T, Shintani Y, Nakayama M, Oyama T, Chida M, Kuroda H, Hashimoto H, Azuma Y, Funai K, Endoh M, Uemura Y, Kawamura M. Risk-adjusted hazard analysis of survival after pulmonary metastasectomy for uterine malignancies in 319 cases. JTCVS open 2023; 13: 411-422.

【論文（症例報告）】

1. 大竹宗太郎, 小山孝彦, 村上裕亮, 福富寿典, 加藤良一. 意識消失を呈した巨大成熟型嚢胞性奇形腫の1切除例. 胸部外科 2023; 76: 320-323.
2. 堀口寿里安, 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦. 胸腺腫術後再発治療後に難治性下痢症として発症した Good 症候群の1例. 肺癌 2024; 64: 50-54

【学会報告】

1. 大竹宗太郎, 堀口寿里安, 福富寿典, 小山孝彦. 当院における自然血気胸手術症例の検討. 第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 横浜, 2023. 6. 29.
2. 大竹宗太郎, 堀口寿里安, 福富寿典, 小山孝彦. 当院における巨大肺嚢胞手術症例の検討. 第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 横浜, 2023. 6. 29.
3. 大竹宗太郎, 堀口寿里安, 福富寿典, 小山孝彦. 当院における女性自然気胸手術症例の検討. 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023. 7. 13.
4. 大竹宗太郎, 堀口寿里安, 福富寿典, 小山孝彦. 当院における肺癌術後に間質性肺疾患が急性増悪した症例の検討. 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023. 7. 13.
5. 堀口寿里安, 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦. 胸腺腫術後再発治療後に難治性下痢症として発症した Good 症候群の一例. 第40回日本呼吸器外科学会学術集会. 新潟, 2023. 7. 13.
6. 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦. 当院における副腎に再発転移した肺癌手術症例の検討. 第64回日本肺癌学会学術集会. 幕張, 2023. 11. 2.
7. 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦. 当院における ALK 融合遺伝子陽性肺癌手術症例の検討. 第64回日本肺癌学会学術集会. 幕張, 2023. 11. 2.
8. 大竹宗太郎, 福富寿典, 小山孝彦. 当院で10年以上使い続けている鋼製ポート. 第1回 JATS-NEXT Annual Conference. 大阪, 2024. 1. 27.

心 臓 血 管 外 科

【学会・研究会発表】

1. 吉武秀一郎，大迫茂登彦，黒田智也，青木瑞智子．弁輪部膿瘍を伴う僧帽弁感染に対する折り返しパッチ法を用いた僧帽弁置換術．日本胸部外科学会．仙台，2023.10.21.
2. 大迫茂登彦，吉武秀一郎，黒田智也，青木瑞智子．急性大動脈解離に合併した冠動脈解離の治療経験．第64回日本脈管学会．横浜，2023.10.26.
3. 大迫茂登彦，吉武秀一郎，黒田智也，青木瑞智子．Stanford A型急性大動脈解離における内科的治療の是非について．日本心臓血管外科学会．浜松，2024.2.24.

【講演】

1. 青木瑞智子．東京医療センターにおける栄養管理: NP（診療看護師）の視点から．セミナー 栄養が変えるペイシェントジャーニー～急性期からの早期経口栄養管理を考える～．東京，2023.5.16.
2. 大迫茂登彦．タイムリーな心臓治療．玉川医師会学術講演会．東京，2023.5.17.

【論文】

1. 小川夕貴, 伏間江貴之, 小田俊輔, 村田有也, 吉田哲也. 左乳房下の乳腺堤線上に生じ副乳由来と考えた線維腺腫の1例. 臨床皮膚科 2023; 77: 998-1002.
2. 小川夕貴, 伏間江貴之, 辻綱氣, 雪野祐莉子, 西堀由喜子, 白石淳一, 吉田哲也. びらんを伴い皮膚悪性腫瘍と鑑別を要した senile gluteal dermatosis (SGD) の1例. 皮膚科の臨床 2023; 65: 2024-2027.

【学会・研究会発表】

1. 小川夕貴, 伏間江貴之, 辻綱氣, 雪野祐莉子, 西堀由喜子, 吉田哲也. B owen 病と鑑別を要した senile gluteal dermatosis (SGD) の1例. 第906回日本皮膚科学会東京地方会. 東京, 2023. 5. 20.

【講演】

1. 伏間江貴之. 外用剤で治らない乾癬: 注射だけですか? いい内服薬もありますよ. 乾癬治療 Up To Date Internet Web Seminar. 東京, 2023. 6. 21.
2. 伏間江貴之. これからのアトピー性皮膚炎治療. 目黒区皮膚科医会学術講演会. 東京, 2023. 9. 13.
3. 伏間江貴之. 皮膚科医とアクアセルAgアドバンテージの可能性を考える. 創傷セミナー. 東京, 2023. 10. 12.

【論文】

1. 中村憲, 井上三保子, 工藤理沙, 松丸右京, 野原素直, 金子雄太, 服部盛也, 矢木康人, 西山徹, 門間哲雄. 前立腺癌に対する非手術的根治療法実施後の生化学的再発症例における病理組織学的検討. 泌尿器外科 2023; 36: 942-945.
2. Ozawa Y, Nohara S, Nakamura K, Hattori S, Yagi Y, Nishiyama T, Yorozu A, Monma T, Saito S. Fewer systematic prostate core biopsies in clinical stage T1c prostate cancer leads to biochemical recurrence after brachytherapy as monotherapy. The prostate 2024; 84: 502-510.
3. 中村憲. アパルタミドを初期治療に用いた転移性前立腺がんの症例. スズケンメディカルフォーラム. 26-6 ケーススタディ. 2023. 12. 1.

【学会・研究会発表】

1. Yagi Y, Kaneko Y, Nakamura K, Hattori S, Nishiyama T, Sutani S, Shiraishi Y, Toya K, Yorozu A, Saito S, Monma T. Biochemical recurrence predictor of prostate brachytherapy with iodine-125 permanent seed implantation for localized prostate cancer. 第110回日本泌尿器科学会総会. 神戸, 2023. 4. 21
2. 中村憲. 効果的に留置できなかった症例から学ぶ Space0AR™使用のコツ. 第88回日本泌尿器科学会東部総会. 札幌, 2023. 10. 6.
3. 井上三保子, 金子雄太, 中西洋介, 三浦数馬, 野原素直, 中村憲, 服部盛也, 矢木康人, 西山徹, 吉田哲也, 門間哲雄. 陰茎が消失するまで進行した状態で発見され、TIP 療法後の化学放射線治療にて partial response を得られた陰茎癌の一例. 第88回日本泌尿器科学会東部総会. 札幌, 2023. 10. 7.
4. 服部盛也. RARP における剥離操作を重視した「正中から開始する側方アプローチ」の工夫. 第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. 米子, 2023. 11. 9.
5. 中村憲, 中西洋介, 三浦数馬, 井上三保子, 野原素直, 金子雄太, 服部盛也, 矢木康人, 萬篤憲, 西山徹, 門間哲雄. RARP と I-125 密封小線源永久挿入療法 (単独/外照射併用) との EPIC を用いた QOL 比較検討. 第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会. 米子, 2023. 11. 9.
6. 中西洋介, 金子雄太, 三浦数馬, 井上三保子, 野原素直, 中村憲, 服部盛也, 矢木康人, 西山徹, 門間哲雄. 20 年来に渡って金属製リングを陰茎に留置されていた一例. 第136回日本泌尿器科学会沖縄地方会総会. 沖縄, 2024. 1. 27.
7. 中村憲, 中西洋介, 三浦数馬, 井上三保子, 野原素直, 金子雄太, 服部盛也, 矢木康人, 萬篤憲, 西山徹, 門間哲雄. Space0AR™使用したヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法における直腸線量高値症例の検討. 第136回日本泌尿器科学会沖縄地方会. 沖縄, 2024. 1. 27.
8. 玉木亜矢子, 中村憲, 太田慧, 西山徹. 墜落外傷に伴う排尿障害に対して他職種と排尿ケアチームの連携により自排尿を確立できた一例. 第137回日本泌尿器科学会沖縄地方会. 沖縄, 2024. 1. 27.
9. 中村憲, 玉木亜矢子, 三浦数馬, 中西洋介, 井上三保子, 野原素直, 金子雄太, 服部盛也, 矢木康人, 西山徹, 門間哲雄. 東京医療センターにおけるヨウ素 125 密封小線源永久挿入療

法症例に対する排尿自立支援・指導の現状. 第十九回前立腺癌密封小線源永久挿入治療研究会. 東京, 2024. 2. 11

10. 中村憲, 前立腺小線源治療の手技と臨床. 2023 年度密封小線源治療安全取扱講習会. WEB, 2024. 2. 2.

【論文】

1. 上田波奈, 安達将隆, 真鍋悠歌, 今井愛理, 宋吉和, 渡邊沙耶, 真壁健, 大木慎也, 大野暁子, 三上佳子, 山下博, 地野充時. 食欲不振と TC 療法後の末梢神経障害に牛車腎気丸と紅参末および附子末の併用が有用であった再発卵巣癌の 1 例. 東京産科婦人科学会会誌 2023; 72: 345-350.
2. 大木慎也, 真鍋悠歌, 今井愛理, 小林朋代, 鈴木渉, 宋吉和, 渡邊沙耶, 真壁健, 安達将隆, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. 頭皮冷却装置(PAXMAN)を用いた婦人科悪性腫瘍患者に対する抗がん剤治療の経験. 東京産科婦人科学会会誌 2023 : 72 : 289-293.
3. 真鍋悠歌, 大木慎也, 今井愛理, 小林朋代, 鈴木渉, 宋吉和, 渡邊沙耶, 真壁健, 安達将隆, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. ロボット支援下仙骨腔固定術(RSC)後に 8mm のポート孔より生じたポートサイトヘルニア(PSH)の 1 例. 東京産科婦人科学会会誌 2023; 72: 117-121.

【学会・研究会発表】

1. 鈴木渉, 真鍋悠歌, 今井愛理, 小林朋代, 宋吉和, 渡邊沙耶, 真壁健, 安達将隆, 大木慎也, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. CIN2/3 に対するレーザー蒸散術の治療成績および術後再発についての検討. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 松江, 2023. 7. 14.
2. 板野瑞希, 山下博, 吉沢咲恵, 山本伸晃, 船越泉, 大野暁子, 波多野まみ, 村田有也, 前島新史, 白石淳一. AGC 判定症例の後方視的検討: ベセスダ導入から 10 年で変化はみられたの. 第 64 回日本臨床細胞学会総会・春期大会. 名古屋, 2023. 6. 9.
3. 山下博, 山本伸晃, 真壁健, 安達将隆, 大木慎也, 大野暁子, 波多野まみ, 村田有也, 前島新史, 白石淳一. CIN に対するレーザー蒸散術後のハイリスク HPV 検査の意義: 細胞診を補完できるのか? 第 64 回日本臨床細胞学会総会・春期大会. 名古屋, 2023. 6. 9.
4. 石原瑤子, 大木慎也, 真鍋悠歌, 今井愛理, 小林朋代, 鈴木渉, 真壁健, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. 卵膜上を走行する臍帯動脈の破綻により血性羊水を呈し、新生児重症貧血をきたした 1 例. 第 407 回東京産科婦人科学会. 東京, 2023. 12. 9
5. 小林朋代, 大木慎也, 石原瑤子, 上田波奈, 高橋沙里, 真鍋悠歌, 今井愛理, 鈴木渉, 高口佳那, 真壁健, 大野暁子, 三上佳子, 山下博. 当院における腹腔鏡下仙骨腔固定術(LSC)とロボット支援下仙骨腔固定術(RSC)の術後半年時点での手術成績の比較. 第 63 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会. 大津, 2023. 9. 14.
6. 今井愛理, 小林朋代, 鈴木渉, 家谷佳那, 真壁健, 大木慎也, 大野暁子, 山下博, 山本伸晃, 波多野まみ, 村田有也, 前島新史, 白石淳一. VaIN3 に対しイミキモド投与を行い細胞診が正常化した 1 例. 第 37 回関東臨床細胞学会学術集会. 群馬, 2023. 9. 16
7. 大木慎也. 改めて学ぶエキスパートによる手術手技: 開腹からラパロ, ロボットまで. 第 145 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会. 東京, 2023. 6. 17.
8. 山下博. 新たな HPV 検査の時代における細胞診のあり方を考える. 令和 5 年度第 7 回富山県生活習慣病検診従事者研修会. 2023. 2. 3.

【論 文】

1. Fujinami-Yokokawa Y, Yang L, Joo K, Tsunoda K, Liu X, Kondo M, Ahn SJ, Li H, Park KH, Tachimori H, Miyata H, Woo SJ, Sui R, Fujinami K. Occult macular dysfunction syndrome: Identification of multiple pathologies in a clinical spectrum of macular dysfunction with normal fundus in East Asian patients: EAOMD Report No.5. *Genes* (Basel) 2023; 14: 1869.
2. Daich Varela M, Duignan ES, De Silva SR, Ba-Abbad R, Fujinami-Yokokawa Y, Leo S, Fujinami K, Mahroo OA, Robson AG, Webster AR, Michaelides M. CERKL-associated retinal dystrophy: genetics, phenotype, and natural history. *Ophthalmol Retina* 2023; 7: 918–931.
3. Georgiou M, Fujinami K, Robson AG, Fujinami-Yokokawa Y, Shakarchi AF, Ji MH, Uwaydat Sh, Kim A, Kolesnikova M, Arno G, Pontikos N, Mahroo OA, Tsang SH, Webster AR, Michaelides M. RBP3-retinopathy-inherited high myopia and retinal dystrophy: Genetic characterization, natural history, and deep phenotyping. *Am J Ophthalmol* 2023; 258: 119–129.
4. de Guimaraes TAC, Georgiou M, Robson AG, Fujinami K, Vincent A, Nasser F, Khateb S, Mahroo OA, Pontikos N, Vargas ME, Thiadens AAHJ, Carvalho ER, Nguyen XT, Arno G, Fujinami-Yokokawa Y, Liu X, Tsunoda K, Hayashi T, Jiménez-Rolando B, Martin-Merida MI, Avila-Fernandez A, Salas EC, Garcia-Sandoval B, Ayuso C, Sharon D, Kohl S, Huckfeldt RM, Banin E, Pennesi ME, Khan AO, Wissinger B, Webster AR, Heon E, Boon CJF, Zrenner E, Michaelides M. KCNV2-associated retinopathy: genotype-phenotype correlations: KCNV2 study group report 3. *Br J Ophthalmol* 2023: bjo-2023-323640.
5. Wong WM, Tham YC, Simunovic MP, Chen FK, Luu CD, Chen H, Jin ZB, Fujinami K, et al. Rationale and protocol paper for the Asia Pacific Network for inherited eye diseases. *Asia-Pacific Journal of Ophthalmology* 2023; Pubmed: 2024/1/17
6. Fujinami-Yokokawa Y, Joo K, Liu X, Tsunoda K, Kondo M, Ahn SJ, Robson AG, Naka I, Ohashi J, Li H, Yang L, Arno G, Pontikos N, Park KH, Michaelides M, Tachimori H, Miyata H, Sui R, Woo SJ, Fujinami K. East Asia Inherited Retinal Disease Society Study Group. Distinct clinical effects of two RP1L1 hotspots in East Asian patients with occult macular dystrophy (Miyake Disease): EAOMD Report 4. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2024; 65: 41.
7. Brar AS, Parameswarappa DC, Takkar B, Narayanan R, Jalali S, Mandal S, Fujinami K, Padhy SK. Gene therapy for inherited retinal diseases: From laboratory bench to patient bedside and beyond. *Ophthalmol Ther* 2024; 13: 21–50.
8. Georgiou M, Robson AG, Fujinami K, de Guimarões TAC, Fujinami-Yokokawa Y, Daich Varela M, Pontikos N, Kalitzeos A, Mahroo OA, Webster AR, Michaelides M. Phenotyping and genotyping inherited retinal diseases: Molecular genetics, clinical and imaging features, and therapeutics of macular dystrophies, cone and cone-rod dystrophies, rod-cone dystrophies, Leber congenital amaurosis, and cone dysfunction syndromes. *Prog Retin Eye Res* 2024; 100: 101244.

9. Laich Y, Georgiou M, Fujinami K, Varela MD, Fujinami-Yokokawa Y, Hashem SA, Cabral de Guimaraes TA, Mahroo OA, Webster AR, Michaelides M. Best vitelliform macular dystrophy natural history study report 1: Clinical features and genetic findings. *Ophthalmology* 2024; S0161-6420.
10. Jolly JK, Grigg JR, McKendrick AM, Fujinami K, Cideciyan AV, Thompson DA, Matsumoto C, Asaoka R, Johnson C, Dul MW, Artes PH, Robson AG. ISCEV and IPS guideline for the full-field stimulus test (FST). *Doc Ophthalmol* 2024; 148: 3-14.
11. Hashem SA, Georgiou M, Fujinami-Yokokawa Y, Laich Y, Varela MD, de Guimaraes TAC, Ali N, Mahroo OA, Webster AR, Fujinami K, Michaelides M. Genetics, clinical characteristics, and natural history of PDE6B-associated retinal dystrophy. *Am J Ophthalmol* 2024; 263: 1-10.
12. Fujinami K, Waheed N, Laich Y, Yang P, Fujinami-Yokokawa Y, Higgins JJ, Lu JT, Curtiss D, Clary C, Michaelides M. Stargardt macular dystrophy and therapeutic approaches. *Br J Ophthalmol* 2024; 108: 495-505.
13. Wang SW, Igarashi-Yokoi T, Mochida S, Fujinami K, Ohno-Matsui K. Prevalence and clinical features of radial fundus autofluorescence in high myopic women. *Retina* 2024; 44: 446-454.
14. Katta M, de Guimaraes TA, Fujinami-Yokokawa Y, Fujinami K, Georgiou M, Mahroo OA, Webster AR, Michaelides M. Congenital stationary night blindness: structure, function and genotype: Phenotype correlations in a cohort of 122 patients. *Ophthalmol Retina* 2024; S2468-6530(24)00121-0.
15. Sen S, Fabozzi L, Fujinami K, Fujinami-Yokokawa Y, Wright GA, Webster A, Mahroo O, Robson AG, Georgiou M, Michaelides M. IQCB1 (NPHP5)-retinopathy: clinical and genetic characterization and natural history. *Am J Ophthalmol* 2024; S0002-9394(24)00115-6.
16. Mizobuchi K, Hayashi T, Tanaka K, Kuniyoshi K, Murakami Y, Nakamura N, Torii K, Mizota A, Sakai D, Maeda A, Kominami T, Ueno S, Kusaka S, Nishiguchi K, Ikeda Y, Kondo M, Tsunoda K, Hotta Y, Nakano T. Genetic and clinical features of ABCA4-associated retinopathy in a Japanese nationwide cohort. *Am J Ophthalmol* March 16.
17. Suga A, Mizobuchi K, Inooka T, Yoshitake K, Minematsu N, Tsunoda K, Fujinami K, Kuniyoshi K, Kawai Y, Omae Y, Tokunaga K, Hayashi T, Ueno S, Iwata T. Homozygous structural variant of RPGRIP1 is frequently associated with achromatopsia in Japanese IRD patients. *Genetics in Medicine* Open March 2024.
18. Hitti-Malin RJ, Panneman DM, Corradi Z, Fujinami K, et al. Towards uncovering the role of incomplete penetrance in maculopathies through sequencing of 105 disease-associated genes. *Biomolecules* 2024; 14: 367.
19. Tachikawa T, Ueno R, Mita T, Yuzurihara D, Noda T. Corneal refractive error and astigmatism in patients aged 6 to 18 years with a history of retinopathy of prematurity and birth weight of <1500 g Japanese. *Jpn J Ophthalmol* 2024; 68: 42-49.
20. Goto S, Maeda N, Ohnuma K, Lawu T, Noda T. Effect of segmented optical axial length on the performance of new generation IOL power calculation formulas in extremely long eyes. *J Clin Med* 2023; 12: 6959.

21. Henderson BA, Aramberri J, Vann R, Abulafia A, Ainslie-Garcia M, Berdahl J, Ferko N, Gundersen KG, Goto S, Gupta P, Multack S, Persaud E, Raoof D, Savini G, Shammash HJ, Wang L, Wang WZ. The current burden and future solutions for preoperative cataract-refractive evaluation diagnostic devices: A Modified Delphi Study. Clin Ophthalmol 2023; 17: 2109-2121.

【総 説】

1. 秋山邦彦. 処置・手術しやすい顕微鏡のセットの仕方・座り方. 眼科グラフィック 2023 年増刊, 2023; 1 章 7: 47-52.
2. 藤波芳, 藤波(横川)優, Nikolas Pontikos. 網膜色素変性症の遺伝子治療. 日本医師会雑誌 2023; 152: 794-796.
3. 藤波芳, 藤波(横川)優, Nikolas Pontikos. 遺伝子治療. 日本の眼科 2023; 94: 1630-1636.
4. 藤波(横川)優, Oscar Onyango, Gavin Arno, Nikolas Pontikos, 藤波芳. 遺伝子治療. 臨床眼科 2024; 78: 184-189.
5. 後藤聡. 実録! 日米の違い: オプトメトリーとオフサルモロジ. IOL&RS 2023; 37: 136-139.
6. 後藤聡. 特集: 白内障手術のインフォームドコンセント. インフォームド・コンセント先進国としての米国の歴史と現状. あたらしい眼科 2023; 40: 791-795.
7. 後藤聡. 特集: 角膜形状異常眼の白内障手術. 屈折矯正術後眼の白内障手術. IOL&RS 2023; 37: 321-327
8. 野田徹. 眼鏡合わせを行う上で知っておきたい眼光学. 眼科グラフィック 2023; 12: 606-616.
9. 野田徹. 眼鏡合わせの基本の流れと注意点. 眼科グラフィック 2023; 12: 617-625.

【著 書】

1. 藤波(横川)優, 藤波芳, Nikolas Pontikos. 黄斑ジストロフィ. 眼科エクレール 2023; 2: 272-280.
2. 藤波(横川)優, 藤波芳. その他の黄斑ジストロフィ. 新編眼科プラクティス 2023; 11: 214-219.
3. 後藤聡. IOL 度数計算(正常眼, 特殊形状眼). スタンダード白内障手術. メディカルビュー社. 東京, 2023: 5-8.
4. 野田徹. 術前生体計測. スタンダード白内障手術. メディカルビュー社, 東京, 2023: 9-19.

【学会・研究会発表】

1. Fujinami-Yokokawa Y, Onyango O, Suzuki Y, Yamamoto M, Komatsu K, Maetani N, Tachimori H, Miyata H, Farmer J, Shinoda K, Tsunoda K, Miyake Y, Fujinami K. Electrically evoked responses elicited by transcorneal electrical stimulation in patients with retinitis pigmentosa. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2023 Annual Meeting. New Orleans, 2023. 4. 23.
2. Fujinami K, Fujinami-Yokokawa Y, Suzuki Y, Farmer J, Tsunoda K: Dark-adapted full-field stimulus threshold in ultra-low vision patients with retinitis pigmentosa. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2023 Annual Meeting. New Orleans, 2023. 4. 23.
3. Fujinami K, Fujinami-Yokokawa Y, Yang L, Joo K, Tsunoda K, Liu X, Kondo M, Naka I, Ohashi J, Inoue S, Yamazawa K, Matsunaga T, Tachimori H, Miyata H, Woo SJ, Sui R.

- Occult macular dysfunction syndrome: Identification of multiple causative genes of macular dysfunction with normal fundus. The 68th Annual Meeting of Japanese Society of Human Genetics. Tokyo, 2023.10.11.
4. Fujinami-Yokokawa Y, Joo K, Liu X, Tsunoda K, Kondo M, Naka I, Ohashi J, Tachimori H, Miyata H, Woo SJ, Sui J, Fujinami K. Distinct clinical effect of two RP1L1 hotspots of East Asian patients with occult macular dystrophy (Miyake disease); Identification of variant-based genotype by deep learning. The 68th Annual Meeting of Japanese Society of Human Genetics. Tokyo, 2023.10.11.
 5. Matsunaga T, Nara K, Mutai H, Murakami H, Inoue S, Muramatsu R, Yamazawa K, Minami S, Fujinami K, Fujioka M, Yamamoto N, Morimoto N, Tsuchihashi N, Masuda M, Arimoto Y, Nakano A, Sakamoto H, Seto T, Katsunuma S, Higuchi S. Genetic approach to improve clinical practice for deafblindness in Japan. The 68th Annual Meeting of Japanese Society of Human Genetics. Tokyo, 2023.10.11.
 6. Akiyama K, Watanabe K, Matsuki T, Noda T, Muni RH. The implementation of pneumatic retinopexy in the Japanese population. The 41st Annual Meeting of American Society of Retina Specialists. Seattle, 2023.7.28.
 7. Akiyama K, Watanabe K, Matsuki T, Noda T, Muni RH. The implementation of pneumatic retinopexy in the Japanese population. 20th European Vitreoretinal Society Meeting Cappadocia, 2023.9.2.
 8. Inooka T, Hayashi T, Tsunoda K, Kuniyoshi K. Genetic etiology and clinical features of achromatopsia in Japan. EU retina. Barcelona, 2023.9.19.
 9. Akiyama K, Fujinami K, Watanabe K, Noda T, Miyake Y, Tsunoda K. The influence of internal limiting membrane peeling on macular function: electrophysiological evaluation in eyes treated for macula-on retinal detachment. Euretina congress 2023. Amsterdam, 2023.10.6
 10. Goto S, Maeda N, Ohnuma K, Lawu T, Noda T. Effect of segmented axial length on new generation IOL power calculation formulas in extremely high myopic eyes. American Academy of Ophthalmology 2023. San Francisco, 2023.11.3.
 11. Goto S, Maeda N, Ohnuma K, Lawu T, Noda T. Effect of cooke-modified axial length on new generation IOL power calculations in extremely high myopic eyes. American Society of Cataract & Refractive Surgery Annual Meeting. San Diego, 2023.5.5.
 12. Miura M, Makita S, Yasuno Y, Azuma S, Kameya S, Tsunoda K. Multimodal imaging analysis for the eyes with autosomal recessive bestrophinopathy. The 16th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society. 2023.12.8.
 13. Mizobuchi K, Hayashi T, Tanaka K, Kuniyoshi K, Murakami Y, Nakamura N, Torii K, Mizota A, Maeda A, Kominami T, Ueno S, Miura K, Ikeda Y, Kondo M, Tsunoda K, Hotta Y, Nakano T. Genetic and clinical findings of ABCA4-associated retinopathy in a nationwide cohort. 優秀演題シンポジウム 第62回網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023.11.24.
 14. Kawashima H, Mawatari G, Ikeda Y, Kondo M, Mizobuchi K, Hayashi T, Dekiryu T, Ueno S, Kominami T, Nishiguchi K, Nakamura M, Kusuhara S, Tsunoda K. Multicenter study of the preceding areas of retinal damage in macular dystrophy. 優秀演題シンポジウム 第62回網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023.11.24.

15. Tsunoda K. Scientific Paper Session (Surgical) 7 Gene Therapy. FUJIRETINA 2024, Tokyo, 2024. 3. 22.
16. Tsunoda K. Panel Session: What is the diagnosis? FUJIRETINA 2024, Tokyo, 2024. 3. 22.
17. Yamada H, Imai H, Akiyama K, Sotani Y, Watanabe K, Matsuki T, Noda T, Nakamura M. Outcomes of pneumatic retinopexy for primary rhegmatogenous retinal detachment in a Japanese cohort. FUJIRETINA 2024. Tokyo, 2024. 3. 2.
18. 藤波芳, 秋山邦彦, 角田和繁, 伊藤紗織, 世古規子, 山本修一. 両アレル性 RPE65 遺伝子バリエーションによる遺伝性網膜ジストロフィーへの遺伝子補充療法. 第 127 回日本眼科学会総会. 東京, 2023. 4. 6.
19. 前田亜希子, 横田聡, 松崎光博, 酒井大輝, 許沢尚弘, 北畑将平, 前田忠郎, 万代道子, 中村奈津子, 藤波芳, 山澤一樹, 角田和繁, 森貞直哉, 平見恭彦, 栗本康夫, 高橋政代. 遺伝性網膜ジストロフィーにおける遺伝子パネル検査を用いた遺伝子診断の先進医療. 第 127 回日本眼科学会総会. 東京, 2023. 4. 6.
20. 國吉一樹, 角田和繁, 林孝彰, 永江由季, 藤波芳, 須賀晶子, 岩田岳, 日下俊次. 眼底所見が正常な錐体ジストロフィー. 第 127 回日本眼科学会総会. 東京, 2023. 4. 6.
21. 松永達雄, 南修司郎, 角田和繁, 榎本千江子, 小川佳子, 前田晃秀, 星祐子. 先天性および若年発症の視覚聴覚二重障害(盲ろう)の実態調査. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会. 福岡, 2023. 5. 17.
22. 吉田晶子, 稲葉慧, 浦川優作, 河合加奈子, 角田和繁, 藤波芳, 村上遥香, 山澤一樹, 横田聡, 平見恭彦, 高橋政代, 栗本康夫, 前田亜希子. 遺伝性網膜疾患パネル検査に伴う遺伝カウンセリングのニーズおよび有用性の質問紙調査. 第 47 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会. 長野, 2023. 7. 7.
23. 横堀健人, 松木考顕, 渡辺健, 秋山邦彦, 野田徹. 片眼優位な所見を呈した原田病. 第 77 回日本臨床眼科学会. 東京, 2023. 10. 6.
24. 山田裕子, 今井尚徳, 曾谷育之, 秋山邦彦, 渡辺健, 松木考顕, 野田徹, 中村誠. 初発裂孔原生網膜剥離に対する Pneumatic retinopexy の治療成績. 第 77 回日本臨床眼科学会. 東京, 2023. 10. 7.
25. 井岡大河, 林孝彰, 溝渕圭, 角田和繁, 國吉一吉, 近藤寛之, 後藤健介, 太田淳也, 小南太郎, 西口康二, 上野真治. 本邦における杆体一色覚の遺伝的特徴. 第 77 回日本臨床眼科学会. 東京, 2023. 10. 6.
26. 石龍鉄樹, 飯田知弘, 角田和繁, 古泉英貴, 丸子一郎. 実践! 眼底自発蛍光: インストラクションコース. 第 77 回日本臨床眼科学会. 東京, 2023. 10. 6.
27. 藤波芳, 藤波優, 鈴木泰賢, Xiao Liu, Oscar Onyango, Jeff Farmer, Michel Michaelides, 角田和繁. 重度網膜色素変性症における全視野光覚閾値. 第 62 回日本網膜硝子体学会総会, 横浜, 2023. 11. 24.
28. 中村奈津子, 角田和繁, 光武明彦, 柴田頌太, 前田明子, 濱田雅, 佐竹渉, 石浦浩之, 辻省次, 戸田達史. 神経核内封入体病関連網膜症におけるリピート数と重症度の相関. 第 62 回網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023. 11. 24.
29. 三浦雅博, 卷田修一, 安野嘉晃, 東神之内, 三野聡大, 亀谷修平, 角田和繁. 常染色体劣性ベスτροφイノパチーに対する多角的画像解析. 第 62 回網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023. 11. 24.

30. 秋山邦彦, 渡辺健, 松木考顕, 矢島潤一郎, 野田徹. 内境界膜剥離の網膜感度への影響: 黄斑剥離がない網膜剥離眼での検討. 第 62 回日本網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023. 11. 25.
31. 中村奈津子, 角田和繁. 網膜ジストロフィにおける On-Off ERG の d 波と a 波および b 波との関係性. 第 70 回日本臨床視覚電気生理学会. 北九州市, 2024. 2. 2.
32. 井岡大河, 林孝彰, 溝渕圭, 角田和繁, 國吉一樹, 近藤寛之, 太田淳也, 後藤健介, 小南太郎, 西口康二, 上野真治. 本邦における杵体一色覚の遺伝的病因と臨床的特徴. 第 70 回日本臨床視覚電気生理学会. 北九州市, 2024. 2. 2.
33. 藤波(横川)優, 鈴木泰賢, Jeffrey Farmer, 篠田啓, 角田和繁, 三宅養三, 藤波芳. 遺伝性網膜疾患患者における角膜電気刺激誘発電気反応. 第 70 回日本臨床視覚電気生理学会. 北九州, 2024.2.2.
34. 角田和繁, 川島弘彦, 林孝彰, 溝渕圭, 藤波芳. Nougaret-type CSNB に特徴的な ERG 所見を示した黄斑ジストロフィ. 第 70 回日本臨床視覚電気生理学会. 北九州, 2024. 2. 2.
35. 堂本綾, 國吉一樹, 角田和繁, 須賀晶子, 吉武和敏, 河合洋介, 大前陽輔, 徳永勝士, 川島弘彦, 藤波芳, 岩田岳, 日下俊次. 全ゲノム解析により診断された NPHP1 関連網膜症. 第 70 回日本臨床視覚電気生理学会. 北九州, 2024. 2. 2.
36. 後藤聡, 森洋斉, 鳥居秀成, 長谷川優実, 小島隆司, 神谷和孝, 柴琢也, 永田万由美, 松島博之, 宮田和典. 多施設共同研究による長眼軸眼に対する新世代眼内レンズ度数計算式の予測精度の検討. 第 77 回日本臨床眼科学会. 東京, 2023. 10. 6.

【講演】

1. Fujinami K. Occult macular dysfunction syndrome: Identification of multiple causative genes of macular dysfunction with normal fundus. The 3rd Asia Retina Congress. Yokohama, Kanagawa, 2023. 11. 13.
2. Fujinami K. Study of efficacy and safety of voretigene neparvovec in Japanese patients with biallelic RPE65 mutation-associated retinal dystrophy. The 64th Annual Meeting of the Ophthalmological Society of Taiwan. Taipei, 2023. 11. 18.
3. Fujinami K. ABCA4 related diseases. Inherited retinal disease. 16th APVRS 2023. Hong Kong, 2023. 12. 10.
4. Akiyama K. A case of long-standing RRD treated by pneumatic retinopexy. Pneumatic Night Tronto (Web), 2023. 5. 4
5. Akiyama K. The implementation of pneumatic retinopexy. Pneumatic Night Tronto (Web), 2023. 6. 24
6. Akiyama K. PIVOT trial results (pneumatic retinopexy). 20th European Vitreoretinal Society Meeting. Cappadocia, 2023. 9. 2.
7. Akiyama K. Pneumatic retinopexy complications (pneumatic retinopexy). 20th European Vitreoretinal Society Meeting. Cappadocia, 2023. 9. 2
8. Muni RH, Akiyama K. Pneumatic retinopexy cases: standard and extended criteria (pneumatic retinopexy). 20th European Vitreoretinal Society Meeting Cappadocia, Turkey, 2023. 9. 2
9. Muni RH, Akiyama K. How to Integrate PnR into Your Practice (pneumatic retinopexy). 20th European Vitreoretinal Society Meeting, Cappadocia, 2023. 9. 2.

10. Akiyama K. Surgical intervention for macular diseases associated with ocular inflammation (in JRVS symposium Multimodal imaging, diagnosis and therapy for chorioretinitis) Euretina congress 2023, Amsterdam, 2023.10.7.
11. Akiyama K. Extreme cases of pneumatic retinopexy. FujiRetina 2024. Tokyo, 2024.3.22
12. Akiyama K. Long-standing retinal detachment with inferior breaks. EURETINA Case Club: Pneumatic Retinopexy Case Night Webinar, 2024.2.12.
13. 角田和繁. 診断と治療について. イブニングセミナー2. 第62回網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023.11.24.
14. 角田和繁. 遺伝子治療の手術手技と問題点. シンポジウム. 第70回日本臨床視覚電気生理学会. 北九州市, 2024.2.2.
15. 角田和繁. 画像検査による遺伝性網膜疾患の診断. 教育セミナー 7. 第127回日本眼科学会総会. 東京, 2023.4.6.
16. 角田和繁. IRD 診療の最前線に関わるトピックス: 遺伝子治療の対象疾患をどう見つけるか? ティータイムセミナー. 第70回日本臨床視覚電気生理学会. 北九州市, 2024.2.2.
17. 矢島潤一郎. よくある眼瞼・外眼部の処置. 第22回YOUSの会. 東京, 2023.5.12.
18. 秋山邦彦. 糖尿病網膜症に対する硝子体手術: OCT, OCTA で見えてきた新しい病態理解. 日本眼科講演会(東京ブロック講習会). 東京, 2023.5.27
19. 秋山邦彦. 硝子体注射と手術、さまざまな適応. Senju ZOOM WEB Seminar. 東京(Web), 2023.6.29.
20. 藤井祥太. 角結膜疾患の治療の実際. Senju ZOOM WEB Seminar. 東京(Web), 2023.6.29.
21. 矢島潤一郎. 緑内障の治療戦略. Senju ZOOM WEB Seminar. 東京(Web), 2023.6.29
22. 藤波芳. 遺伝性病的近視: 近視を伴うメンデル遺伝性疾患としての網膜ジストロフィ. 第27回 Tokyo Retina League. 東京, 2023.7.28.
23. 藤波芳, 秋山邦彦. 両アレル性 RPE65 遺伝子変異による遺伝性網膜ジストロフィーへの遺伝子補充療法ルクスターナ注について. ノバルティスファーマメデイアセミナー. 東京, 2023.8.4.
24. 角田和繁. 第104回岡山大学眼科研究会. web 開催, 2023.8.5.
25. 藤波芳. 遺伝性網膜疾患: 診断から治療へのアプローチ. 第42回比較眼科学会年次大会. 東京, 2023.8.26.
26. 藤波芳. 遺伝性網膜ジストロフィに対する遺伝子治療. ランチョンセミナー. 第29回日本遺伝子細胞治療学会学術集会. 大阪, 2023.9.13
27. 藤波芳. ルクスターナによる遺伝性網膜ジストロフィーに対する遺伝子治療. PrismGuide™ IRD パネルシステム&ルクスターナ新発売記念 Web Seminar. 東京, 2023.9.14
28. 角田和繁. 盲ろう児者の福祉、医療、教育の連携を考える: アッシャー症候群の眼科臨床. 盲ろう児者支援セミナー. 横浜, 2023.9.24
29. 藤波芳. 網膜色素変性症の診断: 個別化医療における機能評価(シンポジウム) 網膜色素変性症の日常診療の創意工夫: 視機能に即した眼科医療を目指して. 第77回日本臨床眼科学会. 東京, 2023.10.6
30. 藤波芳. 遺伝性網膜ジストロフィー(IRD)に対する最新の遺伝学的検査及び遺伝子治療. 人類遺伝学会第68回大会スイーツセミナー. 東京, 2023.10.12
31. 角田和繁. 臨床 OCT、撮影と読み方の基本. 眼光学チュートリアルセミナー. 東京, 2023.11.7

32. 藤波芳. ゲノム医療と眼科医療における医学アドバイス～ゲノム医療が失明を救う：遺伝性網膜ジストロフィにおける診断・治療の社会実装. 第 16 回ゲノム医療推進研究会. 東京, 2023.11.14
33. 秋山邦彦. 気体網膜復位術 (シンポジウム網膜硝子体 Debate: 裂孔原性網膜剥離 気体復位術 vs. 硝子体手術) 第 62 回日本網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023. 11. 24.
34. 秋山邦彦. 遺伝子治療の投与手技 (モーニングセミナー: IRD 最新トピックス 遺伝学的検査から遺伝子治療へ). 第 62 回日本網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023. 11. 25.
35. 藤波芳. 遺伝学的検査 PrismGuide™ IRD パネルシステムについて (イブニングセミナー) 遺伝学的検査によって変わる遺伝性網膜ジストロフィの診療. 第 62 回日本網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023. 11. 24
36. 藤波芳. 遺伝性網膜ジストロフィーの遺伝子治療 (モーニングセミナー: IRD 最新トピックス 遺伝子検査から遺伝子治療へ). 第 62 回日本網膜硝子体学会総会. 横浜, 2023.11.25.
37. 秋山邦彦. バックル手術のコツ: 付け方と外し方. Chugai Ophthalmology Weminar in 城南・城西. 東京, 2023. 11. 28
38. 藤波芳. 遺伝性網膜疾患: 診断から治療へのアプローチ. SNBL セミナー2023, 東京, 2023. 12. 8
39. 藤波芳. 遺伝子治療の効果判定と留意点. シンポジウム 1 遺伝子治療の実際と展望, 第 70 回日本臨床視覚電気生理学会. 北九州, 2024. 2. 2.
40. 藤波芳. 全視野刺激検査 (FST) ガイドラインについて解説. ランチョンセミナー: ISCEV ガイドラインのアップデートを詳しく解説. 第 70 回日本臨床視覚電気生理学会. 北九州, 2024. 2. 3
41. 秋山邦彦. Pneumatic retinopexy 方法と戦略 (教育セミナー裂孔原性網膜剥離). 第 47 回日本眼科手術学会学術総会. 京都, 2024. 2. 3.
42. 藤波芳. 遺伝性網膜疾患: 新規遺伝子治療薬・遺伝学的検査の社会実装: 視覚ゲノム医療最前線. 第 16 回感覚器シンポジウム. 東京, 2024. 3. 1.
43. 後藤聡. ついに登場! 新計算式: 計算×精度×実践の極意! 第 38 回 JSCRS 学術総会モーニングセミナー. 2023. 6. 23
44. 後藤聡. 術後精度向上へ挑む! 超長眼軸眼・屈折矯正術後眼. 第 5 回眼科 Surgery Update Seminar in Osaka～難症例に挑む～ 2023. 6. 17
45. 後藤聡. SS-OCT バイオメーターで挑む! レーシック眼と超長眼軸眼に対する眼内レンズ度数計算. 関西角膜セミナー. 2023. 9. 2
46. 後藤聡. 白内障エビデンスクラブこれでバッチリ! 眼軸異常: 長眼軸眼に対する新世代眼内レンズ度数計算式の予測精度: 国内多施設共同研究. 第 77 回日本臨床眼科学会モーニングセミナー. 東京. 2023. 10. 7.
47. 後藤聡. さっそく取り入れてみよう! 白内障術前に行う角膜形状解析の 4 ステップ. 第 77 回日本臨床眼科学会モーニングセミナー. 東京, 2023. 10. 8
48. 後藤聡. J&J ビジョンケアセミナー・屈折矯正セッション. 最新の生体計測機器と新世代 IOL 度数計算アップデート. 東京, 2023. 11. 19.
49. 野田徹. レンティスコンフォートの光学特性の特徴と使い方. 第 3 回 LC スキルトランスファー: レンティスコンフォートを使いこなす. 東京, 2024. 2. 17.
50. 野田徹. 眼鏡処方の基本. 第 5 回東京都眼科医会主催眼鏡処方講習会. 東京, 2024. 1. 14
51. 野田徹. 眼鏡処方の基本事項. 2023 年度千葉県眼科医会総会学術講演会. 千葉, 2024. 1. 8.

52. 野田徹. 眼内レンズの光学特性：老視対策と眼内レンズの選択. 練馬区眼科医会学術講演会. 東京, 2023. 9. 28.
53. 野田徹. 眼鏡処方の基本. 第1回日本眼科医会眼鏡処方講習会. 東京, 2023. 9. 17.
54. 野田徹. 眼鏡処方の基本事項. 第15回視能訓練士研修会. 名古屋, 2023. 8. 19.
55. 野田徹. レンティスコンフォートの光学特性. 眼内レンズの新時代-レンティスコンフォートの可能性. 東京. 2023. 7. 27.
56. 野田徹. 高次非球面・低加入度数分節型 IOL.：日本白内障眼内レンズ屈折矯正学会総会シンポジウム7 光学シミュレーションによる視機能予測. 札幌, 2023. 6. 24.
57. 野田徹. 眼鏡処方の基本事項. 日本眼科学会総会教育セミナー：眼鏡処方を再考しよう. 東京, 2023. 4. 6.

【その他】

1. 藤波芳, 秋山邦彦. LTW888 が遺伝性網膜ジストロフィーの患者さんの QOL、人生にどのように寄与できるか. ノバルティスファーマメディアセミナー. 東京, 2023. 8. 4.

【論文】

1. 加我君孝, 竹腰英樹, 朝戸裕貴. 小耳症・外耳道閉鎖症に対する形成外科との合同手術による外耳道形成術. *Otol Jpn* 2023; 33: 111-114.
2. 加我君孝. 聴覚とその異常 up to date: 聴覚医学の歴史—聴覚誘発電位を中心に. *Clinical Neuroscience* 2023; 41: 754-759.
3. 加我君孝, 関口香代子. 新生児・乳幼児の音への反応観察のためのヒヤリングチェッカー. *JOHNS* 2023; 39: 879-881.
4. 加我君孝. 失語症によるコミュニケーション障害: その分類と特徴. *保健の科学* 2023; 65: 526-531.
5. 加我君孝. 聴覚. 発達変化と加齢変化の基礎知識. *JOHNS* 2023; 39: 1429-1434.
6. 加我君孝. 味覚. 発達変化と加齢変化の基礎知識. *JOHNS* 2023; 39: 1443-1444.
7. 加我君孝. 重症心身障害児用“意思伝達装置”. *JOHNS* 2024; 40: 108-110.
8. 加我君孝, 竹腰英樹, 朝戸裕貴. 外耳道閉鎖症への手術適応と課題. *耳鼻頭頸* 2024; 96: 21-27.
9. Tsuzuki N, Kitama T, Wasano K, Wakabayashi T, Hosoya M, Nishiyama T, Ozawa H, Oishi N. Characteristics of pure tone audiogram in patients with untreated sporadic vestibular schwannoma: Analysis of audiometric shape and interaural differences stratified by age and mode of onset. *Auris Nasus Larynx* 2023; 51, 347-355.
10. Tsuzuki N, Wasano K, Ozawa H. Repeated sudden sensorineural hearing loss with intralabyrinthine hemorrhage in a patient with Glanzmann thrombasthenia: case report. *Front Audiol Otol* 2024; 2: 1351382.
11. Tsunoda K, Mochimaru T, Takazawa M, Nakazawa R, Komai N. Dysphonia after taking dietary supplements. *Am J Med* 2023; 136: e85-e86.
12. Tsunoda K, Ishii T, Kuroda H, et al. Exploring the relationship between plasma substance P and glottal incompetence in the elderly. *Heliyon*. 2024; 10: e25751.
13. Oishi N, Noguchi M, Fujioka M, Nara K, Wasano K, Mutai H, Kawakita R, Tamura R, Karatsu K, Morimoto Y, Toda M, Ozawa H, Matsunaga T. Correlation between genotype and phenotype with special attention to hearing in 14 Japanese cases of NF2-related schwannomatosis. *Sci Rep* 2023; 13: 6595.
14. Minami S, Takahashi M, Shinden S, Shirai K, Oishi N, Nishimura H, Masuda M, Masuda S, Nishiyama T, Hosoya M, Ueno M, Kashio A, Yamada H, Matsunaga T, Kaga K, Shintani A, Nemoto K. Prediction of cochlear implant effectiveness with surface-based morphometry. *Otol Neurotol* 2024; 45: 114-120.
15. Udagawa T, Takahashi E, Tatsumi N, Mutai H, Saijo H, Kondo Y, Atkinson PJ, Matsunaga T, Yoshikawa M, Kojima H, Okabe M, Cheng AG. Loss of Pax3 causes reduction of melanocytes in the developing mouse cochlea. *Sci Rep* 2024; 14: 2210.
16. Hashimoto K, Miwa T, Ono C, Nara K, Mutai H, Seto T, Sakamoto H, Matsunaga T. Gap junction beta-2 Val84Met can cause autosomal dominant syndromic hearing loss with keratoderma. *Cureus* 2024 Feb.
17. Okada M, Ishida N, Kanzaki S, Kawada I, Nagashima K, Terai H, Hiruma G, Namkoong H, Asakura T, Masaki K, Ohgino K, Miyata J, Chubachi S, Kodama N, Maeda S, Sakamoto S,

- Okamoto M, Nagasaki Y, Umeda A, Miyagawa K, Shimada H, Minami K, Hagiwara R, Ishii M, Sato Y, Fukunaga K. Upper respiratory symptoms as long COVID: Insight from a multicenter cohort study. *OTO Open* 2024; 8: e120.
18. Terai H, Ishii M, Takemura R, Kanzaki S, et al. Comprehensive analysis of long COVID in a Japanese nationwide prospective cohort study. *Respir Investig* 2023; 30: 802-814.
 19. Mori S, Morimoto T, Murata Y, Okamoto Y, Kanzaki S. Tests of human auditory temporal resolution: preliminary investigation of ZEST parameters for amplitude modulation detection. *Front Neurosci* 2023; 17: 1148476.
 20. Hosoya K, Komachi T, Masaki K, Suzuki I, Saeki H, Kanda N, Nozaki M, Kamide Y, Matsuwaki Y, Kobayashi Y, Ogino E, Osada SI, Usukura N, Kurumagawa T, Ninomia J, Nakamoto K, Yokoi H, Ohyama M, Tanese K, Kanzaki S, Fukunaga K, Ebisawa M, Okubo K. Barrier factors of adherence to dupilumab aelf-injection for aevere allergic disease: A non-interventional open-label study. *Patient Prefer Adrerence* 2023; 17: 861-872.
 21. 正木克宜, 坂下雅文, 小川靖, 猪俣武範, 貝沼圭吾, 神尾敬子, 佐藤さくら, 玉利真由美, 中島沙恵子, 森田英明, 倉島洋介, 二村昌樹, 高橋浩一郎, 春田淳志, 百武美沙, 門川俊明, 石塚全, 意元義政, 尾山徳孝, 神崎晶, 木戸口正典, 福島敦樹, 福永興壱, 藤枝重治, 安富素子, 足立剛也. アレルギー領域における診療科・職種横断的リカレント教育の重要性:「出前授業による教育の機会創出事業」参加者データの分析. *アレルギー* (in press)
 22. 神崎晶. 聴力が蘇る!生活も変わる!鼓膜再生療法. *北野病院紀要* 2022 年度 2-10.
 23. 神崎晶. 難聴と嗅覚低下の予防が認知機能低下の予防になる: 感覚器障害に伴う意外なリスクについて. *全国清涼飲料連合会会誌* 2023; 201: 37-43.
 24. 金丸眞一, 金井理絵, 大森孝一, 山本典生, 岡野孝之, 岸本逸平, 小川郁, 神崎晶, 藤岡正人, 大石直樹, 内藤泰, 欠畑誠治, 中村一, 山田忍, 尾前薫, 川本篤彦, 福島雅典. 慢性鼓膜穿孔に対する再生医療の医師主導多施設間臨床試験 Phase III. *日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報* 2023; 126: 813-815.
 25. 神崎晶. 耳鼻咽喉科領域における最新のレーザーの進歩: 耳科領域診療におけるレーザーの有用性について. *日本レーザー医学会誌* 2023; 43: 218-220.
 26. 神崎晶. 豊富な処方例でポイント解説! 耳鼻咽喉科・頭頸部外科処方マニュアル 難聴・めまい ステロイド依存性難聴. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2023; 95: 250-251.

【著 書】

1. Kanzaki S, Tazoe M, Kataoka C, Kimizuka T. Chapter 32 Tinnitus and psychological and cognitive behavioral therapies in Japan. Ed: Martin C, Patel VB, Preedy VR. *Handbook of Cognitive Behavioral Therapy by Disorder Case Studies and Application for Adults*. 1st Edition. Academic Press, Elsevier Hardback/eBook. 2022. 12. 387-393.
2. 神崎晶. 耳鼻咽喉科疾患 耳鳴・難聴. 門脇孝, 小室一成, 宮地良樹監修. *日常診療に生かす診療ガイドライン UP TO DATE 2024-2025*: 東京, メディカルレビュー社 2024: 836-842.
3. 欠畑誠治, 神崎晶 監訳. *Jackler 耳科手術イラストレイテッド*. Jackler RK 著, 東京, 中山書店. 2023: 1-493.
4. 神崎晶 訳. *アブミ骨手術 第5章耳科手術イラストレイテッド*. Jackler RK 著. 東京, 中山書店, 2023: 151-124.
5. 神崎晶. 急性感音難聴のてびき. 村上信五編集. *最新ガイドラインに基づく耳鼻咽喉科頭頸部疾患診療指針 2024-2025*. 東京, 総合医学社, 2023: 37-43.

6. 神崎晶. 耳鳴の定義と分類、疫学. 大森孝一総編集、佐藤宏昭専門編集. 難聴耳鳴診療ハンドブック. 最新の検査・鑑別診断と治療 プラクティス耳鼻咽喉科の臨床 5: 東京, 中山書店, 2023: 278-279.
7. 神崎晶. 反復頭蓋磁気刺激(rTMS)療法. 大森孝一総編集、佐藤宏昭編集. 難聴耳鳴診療ハンドブック. 最新の検査・鑑別診断と治療 プラクティス耳鼻咽喉科の臨床 5: 東京, 中山書店: 2023: 356-358.
8. 神崎晶. 内耳への薬剤局所投与と内耳基礎(生理、免疫). 加我君孝監修, 坂田英明編集. 鼓室内注入療法の臨床: 突発性難聴の治療を中心に. 国際医学出版株式会社. 東京, 2023: 1-95.
9. 松永達雄. 盲ろうの生理・病理学的特徴. 榎木暢子, 金森克浩, 船橋篤彦編集. 特別支援教育免許シリーズ 重複障害教育領域①複数の困難への対応. 建帛社. 東京, 2023: 14-23.
10. 松永達雄. ミトコンドリア難聴とはどのような疾患ですか? 村山圭, 小坂仁, 三牧正和編集. ミトコンドリア病診療マニュアル 2023. 診断と治療社. 東京, 2023: 258-259.
11. 松永達雄. ミトコンドリア難聴. 小須賀基通, 小林正久, 野口篤子編集. 先天代謝異常症クリニカルファイル. 診断と治療社. 東京, 2024: 216-219, 422-423

【学会・研究会発表】

1. 阪本浩一, 川瀬哲明, 岡本康秀, 片岡祐子, 土橋奈々, 中川尚志, 加我君孝, 小渕千絵, 坂本圭, 關戸智恵. 聞き取り困難を呈する成人小児に対する聴覚情報処理検査の検出率: AMED 研究からの報告. 第 68 回日本聴覚医学会総会. 千葉, 2023. 10. 12.
2. 加我君孝, 稲本隆平, 杉本賢文. 新生児聴覚スクリーニングを契機として Auditory Neuropathy と診断後、聴覚補償なく良好な聴覚・言語発達を呈した中学生の 1 例. 日耳鼻頭頸部外科学会東京都地方部会第 242 回学術講演会, 中央区, 2024. 3. 9.
3. 都築伸佳, 大石直樹, 和佐野浩一郎, 辺土名貢, 島貫茉莉江, 西山崇経, 平賀良彦, 北間翼, 新田清一, 小川郁, 小澤宏之. 聴神経腫瘍による突発難聴と突発性難聴の純音聴力像・聴力型の比較解析. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会. 福岡, 2023. 5. 20.
4. 都築伸佳, 和佐野浩一郎, 今村香菜子, 山野邊義晴, 南修司郎, 小澤宏之. 内耳出血を伴う反復性急性感音難聴をきたした血小板無力症の 1 例. 第 33 回日本耳科学会総会. 2023. 11. 3.
5. Tsuzuki N, Kitama T, Wasano K, Wakabayashi T, Hosoya M, Nishiyama T, Ozawa H, Oishi N. Characteristics of pure tone audiogram in patients with untreated sporadic unilateral vestibular schwannoma. 47th Annual ARO MidWinter Meeting 2024. 2. 5.
6. 角田晃一. 声の衛生教育における教育啓発のポイント. 日本音声言語医学会. 倉敷, 2023. 10. 6.
7. 角田晃一. 医療論文を書いてみよう: 症例報告を書いてみよう. Eureka と思ったら. 国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 20.
8. 角田晃一. ひと目で分かる NH0 による臨床研究の最新成果: 感覚器グループよりの報告. 国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 20.
9. 榎本千江子. 人工内耳装用下における単音節の聴取傾向. 第 68 回日本音声言語医学会. 倉敷, 2023. 10. 5.
10. 榎本千江子, 南修司郎, 加我君孝. 自閉症スペクトラム症候群の特性を伴う人工内耳装用児における音声言語発達. 第 68 回日本聴覚医学会 2023. 幕張, 66: 475, 2023
11. Enomoto C, Minami S, Kaga K. Different postoperative hearing changes after cochlear implantation in two cases with collagen disease. The 16th Taiwan-Japan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Taichung, 2023. 12. 16.

12. Kanzaki S. Seminar prognostic factors of tinnitus patients and its treatment. Collegium (CORLAS). Tokyo, 2023.8.30.
13. Kakehata S, Kanemaru S, Kanzaki S. International Symposium Otology/Neurotology New Developments in Otology From Japan: TEES and Beyond. AAO HNSF. Tennessee, 2023.10.4.
14. Kanzaki S. Koike T, Irie Y, Keat CS, Higo T, Shimizu Y, Hayashi M, Ikegami H. Symposium: Innovations in management of otitis media and cholesteatoma: Innovations in intraoperative measurement of ossicular chain mobility: Individual differences in the force applied to the ossicles during palpation and decision making. 11th international Conference on Cholesteatoma and Ear Surgery. Shanghai, 2023.10.22.
15. Kanzaki S. Symposium 12: Tinnitus suppression after cochlear implant; Japanese experience. APSCI 2023. Seoul, 2023.11.10.
16. 神崎晶. 鼓膜再生について. 第2回鼓膜再生手術手技研究会. 大阪, 2024.2.23.
17. 神崎晶, 小池卓二, 入江優花, 李信英, 徐世傑, 肥後武展, 林正晃, 池上元. 特別企画シンポジウム3頭頸部外科手術とDX: 耳科手術とDX 術中計測デバイスとデータベースから成る鼓室形成術支援および診断技術継承システムの開発. 第30回日本頭頸部外科学会. 愛媛, 2024.2.1.
18. 神崎晶. 耳鳴検査・リハビリテーション. 第37回日本耳鼻咽喉科秋季大会. 横浜, 2023.11.29.
19. 神崎晶. 認知機能低下予防における補聴器の意義: いつ介入すべきか. 補聴器を含む聴覚ケアの目的と介入について考える. 第33回日本耳科学会総会. 群馬, 2023.11.4.
20. 神崎晶. 耳鳴と聴覚過敏に対する診断と補聴器を含めた治療について: 耳鳴診療ガイドライン2019以降のUPDATE. 第68回日本聴覚医学会総会. 幕張, 2023.10.13.
21. 神崎晶. シンポジウム 認知症に向き合う医療: 補聴器装用前後で認知機能と聴覚機能の変化があるか? 全国保険医団体連合会 第38回医療研究フォーラム実行委員会. 東京, 2023.10.9.
22. 神崎晶. 補聴器装用前後で認知機能と聴覚機能の変化があるか? 第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会. 博多, 2023.5.15.
23. 羽藤直人, 小池卓二, 神崎晶, 鈴木克佳. ジャパンヒアリングビジョン: 高齢者の生活を豊かに: 高齢難聴者のQOLを改善する革新的骨導補聴デバイスの開発. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会. 2023.5.
24. 森周司, 森本隆司, 森田健志, 岡本康秀, 神崎晶. 時間分解能検査の作成: 多変量解析による検討. 日本音響学会第151回(2024年春季). 東京, 2024.3.6.
25. 神崎晶, 小池卓二, 入江優花, 徐世傑, 肥後武展, 林正晃, 池上元. 先生!その耳小骨操作は適切ですか?アブミ骨固着と正常耳小骨モデルを用いた耳小骨可動測定の検討. 第33回日本耳科外科学会. 高崎, 2023.11.3.
26. 李信英, 神崎晶, 池上元, 小池卓二. 鼓膜臍可動性計測による耳小骨固着部位判別法の検討 数理モデル解析データの機械学習. 第33回日本耳科外科学会. 高崎, 2023.11.3.
27. 南修司郎, 竹腰英樹, 都築伸佳, 今村香菜子, 山野邊義晴, 神崎晶, 松永達雄, 加我君孝. 両側同時人工内耳植込み手術症例の外科的検討. 第33回日本耳科外科学会. 高崎, 2023.11.3.
28. 水野耕平, 和佐野浩一郎, 神崎晶, 増田圭奈子, 山野邊義晴. 当院での両側前庭機能障害例に対する前庭リハビリテーション. 日本めまい平衡医学会. 新潟, 2023.10.
29. 上田麻理, 田中哲雄, 神崎晶, 坂田英明. プログラミング教育における聴覚トレーニングの有効性の検討. 第68回日本聴覚医学会総会. 幕張, 2023.10.13.
30. 森周司, 森本隆司, 岡本康秀, 神崎晶. 聴覚時間分解能検査の作成: ZESTによる高速閾値測定. 第68回日本聴覚医学会総会. 幕張, 2023.10.13.

31. 岡野光博, 西嶋亜未, 松根彰志, 細矢慶, 小町太郎, 村上亮介, 大久保公裕, 平野康次郎, 洲崎勲夫, 志村智隆, 小松崎敏光, 神崎晶, 若林健一郎, 小澤宏之, 岡本康秀, 近藤健二, 西寫大宣, 金井健吾, 岡愛子. 鼻茸を伴う慢性鼻副鼻腔炎に対する Dupilumab の薬物治療満足度調査. 日本鼻科学会. 三重, 2023. 9.
32. 神崎晶. COVID19 感染罹患後の嗅覚味覚障害・咽頭痛の解析(多施設共同研究). 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会. 博多, 2023. 5. 16.
33. 山野邊義晴, 増田圭奈子, 和佐野浩一郎, 熊埜御堂浩, 神崎晶. 天候により変動する平衡機能障害を訴える患者と実際の気象状況との関連性について. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会. 博多, 2023. 5. 17.
34. 本郷由比, 南修司郎, 今村香菜子, 都築伸佳, 伊藤文展, 神崎晶, 松永達雄, 加我君孝. 0 歳時の精密聴力検査で聴性定常反応検査を行い、純音聴力検査実施までフォローした 3 例の検討. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会. 博多, 2023. 5. 15.
35. 岡田真彦, 川田一郎, 森田篤帆, 石田典之, 長島健吾, 神崎晶, 南宮湖, 寺井秀樹, 峰松直人, 梅田啓, 福永興壱. COVID-19 罹患後症状としての上気道症状の解析. 第 63 回日本呼吸器学会. 東京, 2023. 3.
46. 和佐野浩一郎, 増田圭奈子, 山野邊義晴, 水野耕平, 魚島理智, 松永達雄. 遺伝性難聴および先天性難聴における前庭機能評価. 第 82 回日本めまい平衡医学会総会. 2023. 10. 27.
47. 山野邊義晴, 増田圭奈子, 都築信佳, 水野耕平, 南修司郎, 和佐野浩一郎. 突発性難聴の前庭機能検査による聴力予後予測可能性の検討. 第 82 回日本めまい平衡医学会総会. 2022. 10. 27
48. 水野耕平, 和佐野浩一郎, 神崎晶, 増田圭奈子, 山野邊義晴. 当院での両側前庭障害例に対する前庭リハビリテーション. 第 82 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会, 2022. 10. 27.
49. 仲野敦子, 有本友季子, 外池百合恵, 白石健悟, 松永達雄. STRC 遺伝子欠失/バリエーションが確認された難聴症例の検討. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会. 福岡, 2023. 5. 17.
50. 吉浜圭祐, 務台英樹, 関水真理子, 伊藤文展, 斎藤真, 中村伸太郎, 御子柴卓弥, 永井遼斗, 竹林亜貴子, 小澤宏之, 松永達雄. 頸動脈小体腫瘍の遺伝学的検査および免疫組織化学から見た分子遺伝学的病態の検討. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会. 福岡, 2023. 5. 17.
51. 松永達雄, 南修司郎, 角田和繁, 榎本千江子, 小川佳子, 前田晃秀, 星祐子. 先天性および若年発症の視覚聴覚二重障害(盲ろう)の実態調査. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会. 福岡, 2023. 5. 17.
52. 宇田川友克, 高橋恵里沙, 茂木雅臣, 櫻井結華, 小島博己, 松永達雄. 壮年期以降に両側感音難聴と糖尿病を発症した WFS1 遺伝子変異の一症例. 第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会. 福岡, 2023. 5. 17.
53. 村上遥香, 井上沙聡, 松永達雄, 藤波芳, 山澤一樹. 遺伝医療の unmet needs を解決するための遠隔遺伝カウンセリングの実践. 第 47 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会. 松本, 2023. 7. 7.
54. Matsunaga T, Nara K, Mutai H, Murakami H, Inoue S, Muramatsu R, Yamazawa K, Minami S, Kaga K. Genetic approach to improve clinical practice for patients with hearing loss associated with eye disorders in Japan. CORLAS 2023. 2023. 8. 27.

55. Shimoda H, Yokoi J, Uehara N, Fujita T, Kitayama M, Shiga K, Matsunaga T, Ozawa H, Kakigi A, Nibu K. Impact of Succinate dehydrogenase gene mutation in Head and Neck Paraganglioma. The First International Congress on Update on the Management of Head and Neck Paragangliomas, Italy, 2023.9.20.
56. Yamazawa K, Sugano K, Tanakaya K, Inoue S, Murakami H, Nakashima M, Adachi M, Oki S, Makabe T, Yamashita H, Ueki A, Matsunaga T, Kinoshita T, Arai M, Nakamura S, Miyata H, Ikegami M, Mano H, Kohsaka S, Matsui A. The pathogenic role of the BRCA2 c.7847C>T (Ser2616Phe) variant in breast and ovarian cancer predisposition. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.
57. Mutai H, Miya F, Nara K, Muramatsu R, Inoue S, Murakami H, Minami S, Nakano A, Arimoto Y, Morimoto N, Kawasaki T, Wasano K, Sakamoto H, Katsunuma S, Masuda S, Yamazawa K, Kosaki K, Tsunoda T, Matsunaga T. Efficient identification of causative genes of hearing loss by phenotype similarity analysis. Human Genetics Asia 2023 (The 68th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics). Tokyo, 2023.10.11.
58. Fujinami K, Fujinami-Yokokawa Yu, Yang L, Joo K, Tsunoda K, Liu X, Kondo M, Naka I, Ohashi J, Inoue S, Yamazawa K, Matsunaga T, Tachimori H, Miyata H, Woo SJ, R Sui. Occult Macular Dysfunction Syndrome: Identification of multiple causative genes of macular dysfunction with normal fundus. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.
58. Fujinami-Yokokawa Yu, Joo K, Liu X, Yang L, Tsunoda K, Kondo M, Ahn SJ, Inoue S, Yamazawa K, Matsunaga T, Naka I, Ohashi J, Tachimori H, Miyata H, R Sui, Woo SJ, Fujinami K. Distinct clinical effect of two RP1L1 hotspots of Occult Macular Dystrophy (Miyake disease); Identification of variant-based genotype by deep learning. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.
59. Murakami H, Inoue S, Matsunaga T, Nakamura K, Nishihara H, Sukawa Y, Oyamada Y, Yamazawa K. A retrospective analysis of presumed germline pathogenic variants in the comprehensive genomic profiling test for cancer. Human Genetics Asia 2023 (The 68th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics). Tokyo, 2023.10.11.
60. Matsuyama Y, Kanemura Y, Yasojima H, Matsunaga T, Nishimura H. A case of multiple clinical manifestations leading to the diagnosis of Alstrom syndrome. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.
61. Matsunaga T, Nara K, Mutai H, Murakami H, Inoue S, Muramatsu R, Yamazawa K, Minami S, Fujinami K, Fujioka M, Yamamoto N, Morimoto N, Tsuchihashi N, Masuda M, Arimoto Y, Nakano A, Sakamoto H, Seto T, Katsunuma S, Higuchi S. Genetic background and clinical features of congenital or early-onset deafblindness in Japan. Human Genetics Asia 2023. Tokyo, 2023.10.11.
62. 仲野敦子, 有本友季子, 外池百合恵, 村松玲子, 奈良清光, 務台英樹, 松永達雄. アッシャー症候群の原因遺伝子が検出された小児難聴症例の検討. 第 68 回日本聴覚医学会総会. 千葉, 2023. 10. 11.
63. 川畑満里奈, 宇田川友克, 茂木雅臣, 中澤宝, 奈良清光, 務台英樹, 櫻井結華, 小島博己, 松永達雄. 新規バリエントが同定された成人期軽度感音難聴の 1 例. 第 68 回日本聴覚医学会総会. 千葉, 2023. 10. 11.

64. 高津南美子, 茂木雅臣, 宇田川友克, 櫻井結華, 小島博己, 奈良清光, 務台英樹, 松永達雄. 新たなバリエーションを同定した POU4F3 遺伝子変異の 1 家系. 第 68 回日本聴覚医学会総会. 千葉, 2023.10.11.
65. 松永達雄, 上村奈々子, 南修司郎, 榎本千江子, 前田晃秀. 視覚聴覚二重障害の実態調査に基づいた社会的支援の提案. 第 68 回日本聴覚医学会総会・学術講演会. 千葉, 2023. 10. 11.
66. 松永達雄. ミトコンドリア病の難聴を中心とした遺伝医療. 慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科臨床カンファレンス. 2023. 10. 20. (Web 開催)
67. 増田佳奈子, 山野邊義晴, 水野耕平, 魚島理智, 松永達雄. 遺伝性難聴および先天性難聴患者における前庭機能評. 第 82 回日本めまい平衡医学会総会. 新潟, 2023. 10. 25.
68. 務台英樹, 奈良清光, 南修司郎, 仲野敦子, 有本友希子, 守本倫子, 川崎泰士, 和佐野浩一郎, 坂本浩一, 勝沼紗矢香, 増田佐和子, 松永達雄. 難聴原因遺伝子の全エクソーム解析による効率的な同定. 第 33 回日本耳科学会. 高崎, 2023. 11. 1.
69. 南修司郎, 竹腰英樹, 都築伸佳, 今村香菜子, 山野邊義晴, 神崎晶, 松永達雄, 加我君孝. 両側同時人工内耳植込み手術症例の外科的検討. 第 33 回日本耳科学会. 高崎市, 2023. 11. 1.
70. 松永達雄, 奈良清光, 務台英樹, 南修司郎, 加我君孝, 山野邊義晴, 藤岡正人, 大石直樹, 山本修, 守本倫子, 土橋奈々, 中川尚志, 増田正次, 有本友季子, 仲野敦子, 勝沼紗矢香, 三代康雄, 阪本浩一. 眼症状を伴う日本人難聴患者の診療向上のための遺伝学的アプローチ. 第 33 回日本耳科学会. 高崎, 2023. 11. 1.
71. Minami S, Takahashi M, Shinden S, Shirai K, Oishi N, Nishimura H, Masuda M, Masuda M, Nishiyama T, Hosoya M, Ueno M, Kashio A, Yamada H, Matsunaga T, Kaga K, Shintani A, Nemoto K. Prediction of cochlear implant effectiveness with surface-based morphometry. 14th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implant and Related Sciences. Seoul, 2023. 11. 8.
72. 仲野敦子, 有本友季子, 外池百合恵, 亀田茜, 松永達雄. STRC 遺伝子バリエーションが確認された難聴症例の検討. 第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会. 別府. 2023. 11. 9.
73. 山中暖日, 吉橋博史, 吉富愛, 伊藤志帆, 樫尾明憲, 松永達雄. 難聴関連遺伝子解析時に同定された HDR 症候群の一例. 第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会. 別府, 2023. 11. 9.
74. Mutai H, Kuroda Y, Noji S, Ichikawa S, Matsuo K, Kataoka N, Tanaka S, Matsunaga T. Mouse model of DFNA78 demonstrates importance of exon 21 of SLC12A2 for hearing. Association for Research in Otolaryngology 47th Annual MidWinter Meeting. Anaheim, 2024. 2. 3.
75. 下田光, Jun Y, 上原奈津美, Fujita T, Kitayama M, 志賀清人, 松永達雄, Ozawa H, 柿本章伸, 丹生健一. Impact of succinate dehydrogenase (SDH) gene mutation in head and neck paraganglioma (HNPGL). 第 33 回日本頭頸部外科学会総会. 松山, 2024. 2. 1.
76. 山野邊義晴, 都築伸佳, 南修司郎. 関節リウマチに起因する輪状披裂関節炎による声門狭窄および輪状披裂関節膿瘍を認めた一例. 第 36 回日本喉頭科学会総会. 京都, 2024. 3. 7.
77. 今村香菜子, 南修司郎, 竹腰英樹, 神崎晶, 伊藤文展, 都築伸佳, 山野邊義晴, 松永達雄, 加我君孝. 局所麻酔下に人工内耳植込術を施行した後期高齢者の 2 例. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京都地方部会第 241 回学術講演会. 東京, 2023. 11. 25.
78. 今村香菜子, 南修司郎, 神崎晶, 伊藤文展, 都築伸佳, 加我君孝. 局所麻酔下に人工内耳植込術を施行した後期高齢者の 3 例. 第 33 回日本頭頸部外科学会. 松山, 2024. 2. 1.

【講演】

1. 加我君孝. わが国における医学教育の歴史的変遷. 第 162 回日本医学会シンポジウム. 東京, 2023. 6. 3.
2. 加我君孝. Auditory Neuropathy (Auditory Nerve Disease): 1996 年の発見報告から現在に至るまでの国内外の新たな取り組み. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京都地方部会第 239 回学術講演会. 東京, 2023. 6. 17.
3. 加我君孝. 聞き取り困難症 (LiD) とは何か: 診断と治療法. 第 31 回めまいときこえの懇話会. 東京, 2023. 6. 29.
4. 加我君孝. 小児の難聴の医療と教育の歩み—人工内耳による進歩—. 耳鼻科医療連携交流会. 佐倉, 2024. 2. 13.
5. 加我君孝. 後迷路性難聴の検査と症状. 令和 6 年度聴力測定技術講習会, 第 27 回聴覚医学・医師講習会. 東京, 2024. 2. 16.
6. 加我君孝. 小児難聴医療・療育の歴史と現状と将来展望. 第 7 回聴覚障害児支援研修会. ことも家庭庁／神戸市聴覚障害児支援中核機能モデル事業. 神戸, 2024. 2. 22.
7. 神崎晶. 難聴と認知症とその予防について. 難聴万博講演会. 2024. 3. (WEB)
8. 神崎晶. 今こそ感覚器 (きこえとにおい) の早期発見と早期介入を地元の自治体に広げよう! Care Show Japan 2024. 東京, 2024. 2. 22.
9. 神崎晶. 聴こえ難さの放置と認知症. 新しい健康維持の知識勉強会. 千葉, 2024. 2. 4.
10. 神崎晶. 難聴に対する新しい治療とその試み: アレルギーや免疫異常による難聴も含めて. 城南エリア医療連携講演会. Web, 2024. 1. 19.
11. 神崎晶. アレルギー性鼻炎と中耳炎の診断と治療: 薬剤師の方に知っていただきたいこと. 令和 5 年度 12 月玉川砧薬剤師会勉強会. Web, 2023. 12. 12.
12. 神崎晶. 小児・高齢者に優しい鼓膜再生療法. ノーベルファーマ主催講演会. Web, 2023. 12. 2.
13. 神崎晶. 難聴と認知機能低下について. 東京都利島村, 2023. 12. 2.
14. 神崎晶. 島民に対する聴力健診ならびにオンライン補聴器による装用効果の検証. シャープ株式会社, Web, プレスリリース講演会, 2023. 6. 5.
15. 神崎晶. 鼓膜再生の適応と限界. 第 2 回神奈川耳科エキスパート. 横浜, 2023. 7. 27.
16. 神崎晶. ヒアリングフレイルとアレルギー治療について. 豊島区耳鼻咽喉科医会講演会. 2023. 7. 22.
17. 神崎晶. 国際シンポジウム一般向け聴覚ケアの啓発イベント: 聴覚ケアと認知機能との関わりについて. 2023. 9. 2.
18. 神崎晶. 難聴と認知機能低下について. 東京都利島村, 2023. 6. 17.
19. 神崎晶. 難聴と認知症の関連とその予防について. 難聴万博講演会. 2023. 4. 9.
20. 松永達雄. シンポジウム 2 オールジャパンで築くミトコンドリア病診療: ミトコンドリア病の難聴診療. 第 21 回日本ミトコンドリア学会年会. 東京, 2023. 3. 16-18.
21. Matsunaga T. Clinical approach to genetic hearing loss in the era of information explosion. The 75th Korean Audiological Society Meeting, Seoul, 2023. 5. 13.
22. 松永達雄. 盲ろう児者の福祉、医療、教育の連携を考える: 盲ろう児者支援セミナーの目的. 盲ろう児者支援セミナー. 横浜, 2023. 9. 24.
23. 松永達雄. シンポジウム 1 今から始めるこどもから大人への移行支援: 移行期支援の基本と実践. 第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会. 別府, 2024. 11. 9-10.

24. Matsunaga T. Symposium: Genetic Information for CI Genetic spectrum of deaf-blindness and its clinical implications in cochlear implantation. 14th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implant and Related Sciences (APSCI). Seoul, 2023.11.8-11.
25. 松永達雄. パネディスカッション こどものこんな症状、どう対応する？ 最近きこえにくい. 第20回慶応耳鼻咽喉科臨床懇話会. 東京, 2024.1.20.
26. 松永達雄. 難聴患者に対するゲノム情報を活用した個別最適医療. 第17回感覚器シンポジウム. 東京, 2024.3.1.
27. Matsunaga T. Innovation of clinical practice for hearing loss by implementation of large-scale genetic test. Luncheon Seminar. The 14th International Collaborative Forum of Human Gene Therapy for Genetic Disease. 東京, 2024.1.25.
28. Matsunaga T. Genetic Basis of Hearing Loss. The 19th Korean-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology. Seoul, 2024.3.20-22.

【その他】

1. 加我君孝 司会. 会長講演：難聴者と共に生きる. 第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会. 福岡, 2023.5.18.
2. 加我君孝 司会. ランチョンセミナー：他覚的聴覚検査の基本と臨床. 第68回日本聴覚医学会総会. 千葉, 2023.10.13.
3. 角田晃一. NHK ラジオ 「マイあさ！」健康ライフ. 声帯のケアで健康を保つ！「声帯のケアをしよう！」本放送 2023.11.27-12.01 再放送 2024.3.4-8
4. 麻生伸, 神崎晶 実行委員長. 日本耳鼻咽喉科医会主催, 自民党聴力検診. 自民党本部, 2023.6.6.
5. 神崎晶 監修. 人工聴覚器について. 読売新聞. 2023.9.2.
6. 神崎晶 監修. どうしました 耳鳴. 朝日新聞. 2023.10.4.
7. 神崎晶 監修. 補聴器 おしゃれに進化. 読売新聞. 2023.11.11.
8. 神崎晶 監修. 病院の実力 補聴器と難聴. 読売新聞. 2023.11.15.
9. 神崎晶 監修. 急性中耳炎について. 読売新聞. 2023.11.18.
10. 神崎晶 監修. 難聴と補聴器と認知症. 週刊文春. 2024.3.7号
11. 神崎晶 監修. 清明な脳を保つための難聴対策. 週刊新潮 新潮社, 2023.6.15
12. 神崎晶 監修. 体調不良は気圧による病気って本当？気象病を耳鼻科医が徹底解説 <https://mirashiru.dai-ichi-life.co.jp/article/940601>
13. 松永達雄 講師. 日本聴覚医学会主催・2023年聴力測定技術講習会, 東京, 2023.2.9.
14. 松永達雄 座長. 聴覚研究. 第16回感覚器シンポジウム, 東京(Web), 2023.3.3.
15. 松永達雄. 令和4年度日耳鼻産業・環境保健委員会報告. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会会報第89号 No.12. 2023.5.15. 発行
16. 松永達雄, 工藤(座長). 遺伝性難聴. 第124回日本耳鼻咽喉科学会通常総会. 福岡, 2023.5.17.
17. 松永達雄 編集・執筆. 視覚聴覚二重障害移行期医療手順書. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 先天性および若年性の難病に対する医療および移行期医療支援に関する研究班 視覚聴覚二重障害の医療 移行期医療支援.
18. Matsunaga T., (座長) Nara K, Mutai H, Murakami H, Inoue S, Muramatsu R, Yamazawa K, Minami S, Kaga K. Genetic approach to improve clinical practice for patients with hearing loss associated with eye disorders in Japan. CORLAS 2023. Tokyo, 2023.8.27.

19. 松永達雄 開催. 盲ろう児者の福祉、医療、教育の連携を考える. 盲ろう児者支援セミナー. 横浜, 2023. 9. 24.
20. 松永達雄 座長. 聴覚障害. 第 68 回日本聴覚医学会総会. 千葉, 2023. 10. 11.
21. Matsunaga T (シンポジウム) Genetic spectrum of deaf -blindness and its clinical implications in cochlear implantation. 14th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implant and Related Sciences, Seoul 2023. 11. 8.
22. 松永達雄 司会. Symposium 1 今から始めるこどもから大人への移行支援(領域講習). 第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会, 別府, 2023. 11. 9.
23. 松永達雄. 病院群 新任のご挨拶. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会東京都地方部会会報第 90 号 p19, 2023. 12. 15. 発行
24. 松永達雄. ミトコンドリア難聴診療の最新状況. AMED 難治実用化ミトコンドリア病研究班 集中 TR 会議. 葉山, 2024. 2. 10.
25. 松永達雄 座長. 遺伝性腫瘍疾患ゲノム医療最前線. 国立病院機構東京医療センター感覚器センター第 17 回感覚器シンポジウム, 東京(Web), 2024. 3. 1. _

【論文】

1. Kojima T, Kawamura S, Otani Y, Yamada T, Okamoto H, Kamomae T, Yamashita O, Ooshita T, Kurosawa T, Wakitasni Y, Hanada T, Yorozu A, Naniwa K, Moto T, Hasegawa G, Furuhata Y, Fujii K. Technical report: Quality assurance for 125I seed sources in permanent prostate brachytherapy. *Igaku Butsuri* 2023; 43: 1-16.
2. Murakami N, Watanabe M, Uno T, Sekii S, Tujino K, Kasamatsu T, Machitori Y, Aoshika T, Kato S, Hirowatari H, Kaneyasu Y, Nakagawa T, Ikushima H, Ando K, Murata M, Yoshida K, Yoshioka H, Murata K, Ohno T, Okonogi N, Saito A, Ichikawa M, Okuda T, Tsuchida K, Sakurai H, Yoshimura R, Yoshioka Y, Yorozu A, Kunitake N, Okamoto H, Inaba K, Kato T, Igaki H, Itami J. Phase I/II prospective clinical trial for the hybrid of intracavitary and interstitial brachytherapy for locally advanced uterine cervical cancer. *J Gynecol Oncol* 2023; 34: e24.
3. Kanda D, Hanada T, Yoshid K, Tanaka T, Eriguchi T, Yorozu A, Ohashi T, Shigematsu. Evaluation of dose perturbations around iodine-125 seed sources in supplemental external beam prostate radiotherapy. *J Radiat. Research* 2023; 64: 590-598.
4. Katayama N, Yorozu A, Kikuchi T, Higashide A, Masui K, Kojima S, Saito S. Biochemical outcomes and toxicities in young men with prostate cancer after permanent iodine-125 seed implantation: Prospective cohort study in 6662 patients. *Brachytherapy*. 2023; 22: 293-303.
5. Toita T, Wada K, Sutani S, Umezawa R, Maemoto H, Ii N, Kawamura T, Ikushima, H, Takenaka R, Konishi K, Yorozu A, Jingu K, Ariga T, Nomoto Y, Yamashita H. Definitive radiotherapy consisting of external beam radiotherapy without central shielding and 3D image-guided brachytherapy for patients with cervical cancer: feasibility for Japanese patients and dose-response analyses for local control in the low-dose range. *Jpn J Clin Oncol* 2023; 53: 480-488.
6. Imano N, Saito T, Hoskin P, Nakamura N, Ito K, Yorozu A, Nishibuchi I, Murakami Y, Nagata Y. Pain response rates after conventional radiation therapy for bone metastases assessed using international consensus pain response endpoints: A systematic review and meta-analysis of initial radiation therapy and reirradiation. *Int Radiat oncol bio Pys* 2023; 116: 739-746.
7. Masui K, Katayama N, Yorozu A, Kikuchi T, Higashide S, Kojima S, Saito S. The prognosis of patients with prostate cancer receiving permanent seed implantation stratified by prostate volume: should we be reluctant to treat with brachytherapy because of a very small prostate (<15 cc)? *Radiother Oncol* 2023. PMID:37597804
8. Kojima T, Kawamura S, Otani Y, Hanada T, Wakitani Y, Naniwa K, Yorozu A, Ikushima H, Dokiya T. Current status and issues with the dosimetric assay of iodine-125 seed sources at medical facilities in Japan: a questionnaire-based survey. *J Radiat Res* 2023; 64: 962-966.
9. Yorozu A, Namiki N, Saito S, Egawa S, Yaegashi H, Konaka H, Momma T, Fukagai T, Tanaka N, Ohashi T, Takahashi H, Nakagawa Y, Kikuchi T, Mizokami A, Stone N.

- Trimodality therapy with Iodine-125 bBrachytherapy, external beam radiation therapy, and short- or long-term androgen deprivation therapy for high-risk localized prostate cancer: Results of a multicenter, randomized phase 3 trial (TRIP/TRIGU0907). Int J Radiat Oncol Biol Phys 2024; 118: 390-40.
10. Ozawa Y, Nohara S, Nakamura K, Hattri S, Yagi Y, Nishiyama T, Yorozu A, Monma T, Saito S. Fewer systematic prostate core biopsies in clinical stage T1c prostate cancer leads to biochemical recurrence after brachytherapy as monotherapy. The Prostate 2024; 84: 502-510.
 11. 酢谷真也, 萬篤憲. 前立腺癌治療: 放射線療法の合併症と対策. 日本臨床. 臨床前立腺癌学 81 巻増刊号 6, 2023: 270-276
 12. 加藤知子, 菊野直子, 畑清子, 三上恵子, 有阪光恵, 萬篤憲, 草間朋子. 患者中心の放射線治療を目指した「放射線治療手帳」の作成. 日本放射線看護学会誌 2023; 11: 42-52.

【学会・研究会発表】

1. Yorozu A, Namiki M, Saito S, Egawa S, Konaka H, Yaegaki H, Momma T, Fukagai T, Tanaka N, Ohashi T, Takahashi H, Nakagawa Y, Kikuchi T, Mizokami A, Stone N. Evaluation of toxicity for TRIP/TRIGU0907: A randomized trial of tri-modality therapy with I-125 brachytherapy, external beam radiation therapy, and short- or long-term androgen deprivation therapy for high-risk localized prostate cancer. ABS, Vancouver, 2023. 6. 24.
2. Yorozu A, Namiki M, Saito S, Egawa S, Konaka H, Yaegaki H, Momma T, Fukagai T, Tanaka N, Ohashi T, Takahashi H, Nakagawa Y, Kikuchi T, Mizokami A, Stone N. TRIP/TRIGU0907: Evaluation of health-related quality of life at five years for a randomized trial of tri-modality therapy with iodine I-125 brachytherapy, external beam radiation therapy, and short-versus long-term androgen deprivation therapy for high-risk localized prostate Cancer. ASTRO, San Diego, 2023. 10. 4.

【講演】

1. 萬篤憲. どうしようもない会陰部痛・肛門痛の治療戦略: 放射線治療. 第 28 回日本緩和医療学会. 神戸, 2023. 7. 1.
2. Hanada T, Hasegawa T, Ohashi T, Minemura T, Kikumura R, Aso T, Yorozu A, Shigematsu N, Monte N. Carlo simulation performance for the therapeutic photon/electron transport with simple jaw biasing using phase-space sources. 126 回日本医学物理学会. 広島, 2023. 9. 16.
3. 鶴巻郁也, 中島祐二郎, 伊藤慶, 喜久村力, 深水良哉, 萬篤憲, 藤田幸男. 脊椎 SBRT における最適な GTV 最小線量の予測パラメータに関する検討. 日本放射線腫瘍学会. 横浜, 2023. 11. 30.
4. 高橋健夫, 萬篤憲, 清原浩樹, 三輪弥沙子, 西村岳, 大久保悠, 内海暢子, 茂松直之. 厚労科研茂松班の概要ならびに緩和的放射線治療の地域連携について. 日本放射線腫瘍学会. 横浜, 2023. 12. 2.
5. 片山敬久, 増井浩二, 小島伸介, 大川広, 萬篤憲, 菊池隆. JPOPS における若年前立腺癌患者に対するシード治療の治療成績・有害事象. 日本放射線腫瘍学会. 横浜, 2023. 12. 2.

6. 萬篤憲. 消化器癌に対する集学的治療：切れない癌や切りたくない人のための放射線治療.
日本消化器病学会関東支部市民公開講座. 東京, 2023. 9. 16.

【その他】

1. 令和2年-5年厚労科研費がん政策研究事業：がん治療における緩和的放射線治療の評価と普及啓発のための研究 茂松班研究協力者
2. 前立腺癌診療ガイドライン 2023
3. 日本アイソトープ協会医学薬学部会放射線治療専門医会：副委員長 令和2年-6年
4. 日本アイソトープ協会理事

【論文】

1. Ito D, Habe T, Numano T, Okuda S, Soga S, Jinzaki M. A versatile MR elastography research tool with a modified motion signal-to-noise ratio approach. Magn Reson Med Sci 2023 Apr 12. Online ahead of print.
2. Nakano Y, Endo Y, Kitago M, Nishiyama R, Yagi H, Abe Y, Hasegawa Y, Hori S, Tanaka M, Shimane G, Soga S, Egawa T, Okuda S, Kitagawa Y. Clinical characteristics and predictive factors of postoperative intra-abdominal abscess after distal pancreatectomy. Langenbecks Arch Surg 2023; 408: 170.
3. Ito D, Numano T, Habe T, Okuda S, Nozaki T, Jinzaki M. Fast abdominal magnetic resonance elastography with simultaneous encoding of three-dimensional displacements. Magn Reson Imaging 2024; 108: 138-145.
4. Iwashita N, Okuda S, Maeda J, Yamagishi H. Flow pattern analysis of right ventricular outflow tract in repaired tetralogy of Fallot through 4D flow MRI. Heart Vessels 2024 Feb 18. Online ahead of print.
5. 金子裕右, 関本康人, 三尾幸司, 宮澤あずみ, 浅見勇太, 古後斗涯, 伊東良晃, 金子英樹, 鳥崎由紀子, 樋口順也. 下大静脈への穿破を認めた総腸骨動脈瘤の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2024; 44: 47-50

【著書】

1. 奥田茂男, 川田一成, 大河原奈緒子, 横山陽一, 木須伊織. レジデントのための画像診断アトラス: 産科・婦人科. 新本弘, 君塚善文編. 東京. 秀潤社学研メディカル 2023: 318-363.

【学会・研究会発表】

1. Okuda S, Tsukada R, Arai M, Motomatsu S, Nozaki A, Zhu X, Jinzaki M. A feasibility study of deep learning cardiac cine comparing image quality and volumetry with the conventional ASSET cine. ISMRM. Toronto, 2023.6.3.
2. Okuda S, Ota H, Nagao M, Tanabe Y, Oda S, Kono A, Takagi H, Kido T, Jinzaki M. Diagnostic performance of 4D-CT myocardial maximum principal stain to detect reduced myocardial viability. RSNA. Chicago, 2023.11.26.
3. 浅見勇太, 小野田豪, 宮下圭一, 三尾幸司, 宮澤あずみ, 金子裕右, 塚本誠, 神山めぐみ, 伊東良晃, 伊東伸剛, 金子英樹, 鈴木和代, 奥田茂男. 大腸癌腹膜播種が鑑別となったIgG4関連疾患の一例. 日本医学放射線学会関東地方会. 東京, 2023.12.16.

【講演】

1. 奥田茂男. T1 マッピングの診療ガイドラインにおける重要性. SCMR Japan WGセミナー. 東京, 2023.8.5.
2. 奥田茂男. 4D Flowから再考する 2D-PC. 第51回日本磁気共鳴医学会大会. 軽井沢, 2023.9.22.
3. 奥田茂男. 産婦人科救急疾患の画像診断. 画像医学会. 東京, 2024.2.23.

歯科口腔外科

【学会・研究会発表】

1. 久保浩太郎, 長谷川大悟, 松井香奈, 田林万奈, 遠藤研人, 松岡祐佳子, 蛭田美香子, 浅子久美子, 前田有紀, 島田美季, 菊野直子, 山森有夏, 長山佳之, 石嶋麗, 萬篤憲, 須河恭敬, 別所央城. 東京医療センターにおける看護師への口腔ケアに関するアンケート調査. 第20回日本口腔ケア学会総会. 東京, 2023. 4. 21
2. 久保浩太郎, 遠藤研人, 松井香奈, 五十嵐朱音, 細井鴻之介, 長谷川大悟, 菅原圭亮, 別所央城. リドカインを含む多剤アレルギー患者に対して他科と連携しプロカインを使用し安全に治療を行った症例. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 21
3. 久保浩太郎, 遠藤研人, 松井香奈, 五十嵐朱音, 長谷川大悟, 別所央城. リドカインを含む多剤アレルギー患者に対してプロカインを使用し治療を行った症例. 第68回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会. 大阪, 2023. 11. 10
4. 松井香奈, 久保浩太郎, 長谷川大悟, 遠藤研人, 五十嵐朱音, 松岡祐佳子, 蛭田美香子, 浅子久美子, 前田有紀, 島田美季, 菊野直子, 清水希, 長山佳之, 石嶋麗, 萬篤憲, 須河恭敬, 別所央城. 東京医療センターにおける口腔ケアチームの立ち上げから、周術期等口腔希望管理と口腔ケアチームにおける口腔ケアの取り組みまで. 第77回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 21

【講演】

1. 久保浩太郎, 別所央城. 口腔ケア Part3. 東京医療センター緩和ケアセミナー. Web 開催, 2023. 12.
2. 別所央城. “がん” ってどんな病気? どうすれば予防できるの? がん教育に係わる講義. 東京, 2024. 3. 18
3. 別所央城. 高位医療機関への紹介を検討して欲しい症例&2023 口腔外科 up to date. 東京歯科大学同窓会および目黒区歯科医師会. 目黒, 2023. 10. 17

【その他】

1. 別所央城. 口腔がん研修会. 口腔がん検診. 渋谷, 2023. 9. 21, 10. 19
2. 別所央城. 座長: 偶発症・合併症. 第68回日本口腔外科学会総会・学術大会, 大阪, 2023. 11. 10

麻 酔 科

【論 文】

1. 大代洋輔, 櫻井裕教, 森庸介, 安村里絵, 吉川保. 全身麻酔中の心停止が診断契機となった Brugada 症候群の 1 例. 日本臨床麻酔学会誌 2024; 44 : 170-175.

【著 書】

1. 持永悠, 森庸介. ペースメーカー最近の付加機能. 麻酔科プラクティス 9 理解して使いこなす麻酔科機器. 文光堂, 2023; 188-192.

【学会・研究会発表】

1. 吉川保. 帯状疱疹発症を契機に開始した Pericranial block が片頭痛発作予防に有効であった一症例. 日本区域麻酔学会第 10 回学術集会. 大阪, 2023. 4. 14.
2. 小松凜太郎, 安村里絵, 加藤奈々子, 茂田宏恵, 田中浩平, 櫻井裕教. 抜管直前に pulseless VT を生じ、術後 12 誘導心電図の連続モニタリングで冠攣縮性狭心症と診断された一例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 63 回合同学術集会. 東京, 2023. 9. 2.
3. 中園紗希子. 当院の Acute Pain Service: 外科病棟看護師へのアンケート調査から. 第 9 回日本 NP 学会学術集会. 札幌, 2023. 10. 21.
4. 久米弘朗, 森庸介. 開腹リンパ節切除術において外腸骨動脈誤損傷による大量出血により急激な高度低血圧を生じた一症例. 第 51 回日本集中治療医学会学術集会, 札幌, 2024. 3. 14.

【講 演】

1. 堀深雪. 診療看護師(NP)教育について(当院麻酔科での NP 導入の実際). 東京医科大学病院 診療部・看護部幹部対象講演会. 新宿, 2023. 5. 31
2. 堀深雪. 術後疼痛管理チームにおける診療看護師の役割. テルモ株式会社社内講演会. 新宿, 2023. 9. 12
3. 堀深雪. 診療看護師の麻酔科における活躍のエビデンスから. THCU NP フォーラム 2023. 東京医療保健大学大学院高度実践看護コース主催. 目黒, 2023. 12. 2

【その他】

1. 櫻井裕教. 座長 多職種連携. 第 51 回日本集中治療医学会学術集会. 札幌, 2024. 3. 14.

【論 文】

1. Yoshihara S, Komagamine J. Clothing artifacts appearing as multiple lung pseudonodules. BMJ Case Rep 2023; 16: e257820.
2. Komagamine J, Yoshihara S. Purpura due to deep venous thrombosis. Acute Med Surg 2023; 10: e916.
3. Komagamine J, Kano Y. Renal pelvic hemorrhage complicating emphysematous pyelonephritis. Eur J Case Rep Intern Med 2023; 11: 004241.
4. Komagamine J, Tanaka N, Kano Y. Shoulder pain in a postoperative lung cancer patient. Am J Med 2024; 137: e29-e30.
5. Tabata H, Komagamine J, Kano Y. Neck and breast swelling after tracheal intubation. J Am Coll Emerg Physicians Open 2024; 5: e13114.
6. Komagamine J. Prevalence of urgent hospitalizations caused by adverse drug reactions: a cross-sectional study. Sci Rep 2024; 14: 6058.
7. Fujisawa T, Hatakeyama J, Omoto K. Airway obstruction caused by achalasia: A case report. Respir Med Case Rep 2023; 44: 101866.
8. Aichi S, Kimura S, Fujisawa T, Hayashi T, Kobayashi Y, Muroya N, Kurihara T. Trauma-associated left renal vein thrombosis with nutcracker syndrome. Acute Med Surg 2023; 10: e838.
9. 渡瀬瑛, 石澤嶺, 近藤香光, 上石稜, 高橋亜実, 渋谷崇行, 木村慎一, 栗原智宏. ランダム皮膚生検が診断の一助となったびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の症例. 日本集中治療医学会雑誌 2023; 30: 425-426
10. 大島千穂, 山元良, 西田有正, 大野聡一郎, 宇田川和彦, 栗原智宏, 佐々木淳一. 遅発性上気道狭窄を伴った外傷性行員等間隙血腫の一例. 日本外傷学会雑誌 2023; 37: 319-323

【著 書】

7. 鯨井大. 救急・症候：嗄声. 週間日本医事新報. 東京, 2023; 5190: 38
8. 竹藤寛. 症例から学ぶ栄養素欠乏 マグネシウム欠乏症について. 南山堂. 東京, 2023; 42, 43: 135-140

【学会・研究会発表】

25. 駒ヶ嶺順平. 薬物有害事象による緊急入院に関する単施設観察研究. 第 51 回日本救急医学会総会・学術集会. 東京, 2023. 11. 30.
26. 田村浩美, 太田慧, 栗原智宏. 特定看護師の活動と今後の課題について. 第 74 回日本救急医学会関東地方会学術集会. 埼玉, 2024. 2. 17.
27. 太田慧, 牛窪真理, 北沢敏男, 石川政志, 田中暁人, 吉村咲子, 上柿涼子, 増田佑亮, 竹村寛昭, 中村穩, 中村千里, 林哲郎, 栗原智宏, 増田泰蔵, 白石淳一. 救急外来検体の迅速報告のための提案-救急科としての取り組み. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 20.
28. 石川政志, 牛窪真理, 北沢敏男, 石川政志, 田中暁人, 吉村咲子, 上柿涼子, 増田佑亮, 竹村寛昭, 中村穩, 太田慧, 中村千里, 林哲郎, 栗原智宏, 増田泰蔵, 白石淳一. 救急外来検体の結果

- 迅速報告のための提案：提案できる検査科を目指して．第 77 回国立病院総合医学会．広島，2023. 10. 20.
29. 田村浩美，尾石早織，利光利恵子，川名由美子，森泉元，川村知也，山村有夏，中村英樹，太田慧，後藤哲哉．診療看護師による PICC 挿入の現状について．第 77 回国立病院総合医学会．広島，2023. 10. 20.
 30. 竹藤寛，鯨井大，栗原智宏．敗血症性ショックと鑑別を要した口腔内原発悪性リンパ腫の下垂体転移による下垂体機能低下症の一例．第 51 回日本集中治療医学会学術集会．札幌，2024. 3. 16.
 31. 鯨井大，栗原智宏，山元良，佐々木淳一．腹壁の厚さは一時閉腹後の 筋膜閉鎖率に影響するか？ OPTITAC study の二次解析．第 60 回日本腹部救急医学会総会．北九州，2024. 3. 21.
 32. 栗原智宏．シンポジウム「熱傷感染管理のストラテジー」熱傷患者の感染対策：日本熱傷診療ガイドラインの変遷．第 49 回日本熱傷学会総会・学術集会．東京，2023. 5. 25.
 33. 栗原智宏，鈴木亮，木村慎一，駒ヶ嶺順平，太田慧，鯨井大，渡瀬瑛，藤沢篤夫．当院救急科専門医研修プログラムの特徴：ダブルボードは必要か？ 第 51 回日本救急医学会総会・学術集会．東京，2023. 11. 29.
 34. 栗原智宏，片山充哉，林智史，古館加奈子．国立病院機構東京医療センターにおける新型コロナウイルス感染症対応．第 21 回世田谷区医師会医学会．東京，2023. 12. 2.
 35. 栗原 智宏．パネルディスカッション：熱傷管理の綺麗なアプローチ．重症熱傷患者における感染制御．第 32 回日本熱傷学会関東地方会．千葉，2024. 1. 27.
 36. 木村慎一，栗原智宏，鈴木亮，駒ヶ嶺順平，太田慧，鯨井大，渡瀬瑛，藤沢篤夫．当救命センターに搬送された高齢者の転帰の検討．第 51 回日本救急医学会総会・学術集会．東京，2023. 11. 30.
 37. 竹藤寛，駒ヶ嶺順平，栗原智宏．縊頸症例における合併頸部外傷の頻度についての検討．第 51 回日本救急医学会総会・学術集会．東京，2023. 11. 28.
 38. 尾石早織，高以良仁，栗原智宏．トルコ地震における診療看護師(NP)の国際緊急援助隊派遣報告．第 9 回日本 NP 学会学術集会．北海道，2023. 10. 22.

【講演・その他】

1. 太田慧．近年の災害医療．令和 5 年度目黒区救急業務連絡協議会医療研究会．東京，2023. 11. 17.
2. 板谷大地．症例提示．令和 5 年度目黒区救急業務連絡協議会医療研究会．東京，2023. 11. 17.
3. 栗原智宏．院内感染対策の実際．令和 5 年度関東信越グループ院内感染対策研修．web 開催，2024. 1. 22.
4. 太田慧．座長（一般演題 ショック・その他）第 74 回日本救急医学会関東地方会学術集会．埼玉，2024. 2. 17.

リハビリテーション科

【論文】

1. 赤星和人, 小林由紀子. リハビリテーション診療 Update (II 章). 診断・評価 電気生理学的検査. 日本医師会雑誌 2023; 152: S78-S79.

【学会・研究会発表】

1. 水野耕平, 和佐野浩一郎, 神崎晶, 増田圭奈子, 山野邊義晴. 当院での両側前庭機能障害例に対する前庭リハビリテーション. 第 82 回 日本めまい平衡医学会総会・学術講演会. 新潟, 2023. 10. 27.

【講演】

1. 小林由紀子. 神経伝導検査・針筋電図 実習. 第 25 回臨床筋電図・電気診断学入門講習会. 東京, 2023. 10. 14.
2. 小林由紀子. 経験者コース FIM Q&A ディスカッション. 第 35 回 ADL 評価法 FIM 講習会. 東京, 2023. 11. 25.
3. 小林由紀子. 神経伝導検査・針筋電図検査 アドバンス: 意義のある検査を行うための準備から実施、レポート作成まで. 第 60 回日本臨床神経生理学会技術講習会. 福岡, 2023. 12. 2.

【論文】

1. 菅野太洋, 宮田知恵子, 後藤直生, 高田麻紀. ハンセン病後遺症患者と Whole Person Care. P0 アカデミージャーナル 2023; 31: 129-134.
2. 宮田知恵子. 終末期リハビリテーション(がん・心不全・呼吸不全など). リハビリテーション診療 update. 田中栄, 磯部光章, 北川泰久監修. 日本医師会雑誌 2023; 152 suppl: 268-269.

【著書】

1. 宮田知恵子. 生活機能マネジメント(がんのリハビリテーション診療), 日本緩和医療薬学会, 緩和医療薬学改訂第2版. 東京. 南江堂. 2023: 132-135.
2. 宮田知恵子. 「難治性がん疼痛」に隠れている結合組織および筋骨格痛: 理学療法を中心に. 森田達也, 角甲純編集. まだまだできる! 難治性疼痛の緩和ケア. 東京, 青海社, 2023: 189-92.

【学会・研究会発表】

1. Miyata C, Yamamoto A, Akaboshi K. Physical functional characteristics of outpatients with cancer. 第3回/第4回合同がん緩和ケアに関する国際会議 SCPSC, 札幌, 2023. 4. 27.
2. Mihashi S, Miyata C, Yamamoto A, Hosaka Y, Akaboshi K. Clinical features regarding QOL and physical function in cancer patients undergoing outpatient chemotherapy. 第3回/第4回合同がん緩和ケアに関する国際会議 SCPS. 札幌, 2023. 4. 27.
3. Miyata C, Yamamoto A, Akasaka T, Hosaka Y, Osada Y, Mizuno K, Maeda Y. Role of rehabilitation for terminal cancer patients in a general hospital. MASCC/JASCC/ISOO 2023 Annual Meeting. 奈良, 2023. 6. 23.
4. Miyata C. Multidisciplinary team approach to bone metastases in cancer patients. Korean-Japan Joint Symposium. 2024 Annual conference of the Korean Association of Cancer Rehabilitation. Seoul, 2024. 3. 9.
5. 宮田知恵子. パクリタキセルによる化学療法誘発性末梢神経障害に対する Virtual Reality ガイド下リハビリテーション治療の経験. 第8回日本がんサポーターズケア学会学術集会. 奈良, 2023. 6. 22.
6. 保坂陽介, 宮田知恵子. 通院がん患者に対する外来リハビリテーションの取り組み. 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会. 福岡, 2023. 6. 30.
7. 長田泰馬, 古田寛和, 保坂陽介, 山本章代, 水野耕平, 赤坂知厚, 長谷川淳, 船越修, 菅原寛, 宮田知恵子. 重度化学療法誘発性末梢神経障害患者に対して Virtual Reality ガイド下リハビリテーション治療を実施した一例. 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会. 福岡, 2023. 6. 30.
8. 古田寛和, 宮田知恵子, 武田学, 菅原寛. 前胸部 CV ポート増設患者の抗がん剤血管外漏出により肩関節可動域制限を呈した2症例. 第61回日本癌治療学会学術大会. 横浜, 2023. 10. 21.
9. 宮田知恵子. 薬物療法・放射線治療中のリハビリテーション治療. 第29回日本癌治療学会学術集会教育セミナー「癌治療とリハビリ・栄養」 第61回日本癌治療学会学術大会. 横浜, 2023. 10. 21.

10. 宮田知恵子, 長田泰馬, 保坂 陽介, 古田寛和, 水野耕平, 赤坂知厚. 化学療法誘発性末梢神経障害に対する Virtual Reality ガイド下リハビリテーション治療の経験. 第 61 回日本癌治療学会学術大会. 横浜, 2023. 10. 20.
11. 宮田知恵子. リハビリテーション専門職が患者とその家族の心理サポートとして何ができるか? Meet the expert and discussion. 緩和ケアを主体とする時期のリハビリテーションアプローチ～がんリハビリテーション SIG メンバーと語る会. 第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 宮崎, 2023. 11. 4.
12. 宮田知恵子. 緩和医療およびリハビリテーション専門医として着目していること. パネルディスカッション 緩和ケアにおける患者の『みかた』. 第 12 回日本がんリハビリテーション研究会. 沼津, 2024. 2. 11.

【講 演】

1. 宮田知恵子, 水野耕平. がん患者の運動機能を支援する包括的サポートシステム: 化学療法に伴う慢性めまいの一例報告を含めて. 第 3 回 TASCC. (web) 2023. 5. 31.
2. 宮田知恵子. がん疼痛への対応, 在宅がんのリハビリテーション診療研修会: 在宅がんのリハビリテーション診療の普及に向けて. (web) 2023. 9. 23.
3. 宮田知恵子. 緩和医療の基礎知識. 2023 年度リンパ浮腫研修会 E-LEARN, オンデマンド配信, 2023. 9. 22.
4. 宮田知恵子. がん患者の包括的運動機能サポート. 鹿児島市立病院地域がん診療連携拠点病院研修会. 鹿児島, 2023. 12. 21.

【その他】

1. 宮田知恵子. 東京医療センターがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会講師. 東京, 2023. 8. 5.
2. 宮田知恵子. シンポジウム 4 終末期がん患者の ADL をあきらめない. 座長. 第 28 回日本緩和医療学会学術大会. 神戸, 2023. 6. 30.
3. 宮田知恵子. 東京医療センターがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会講師. 東京, 2024. 3. 5.
4. 宮田知恵子. 第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 一般演題 がん②座長. 宮崎, 2023. 11. 3.

病理・臨床検査科

【著書】

1. 村田有也．稀に遭遇する乳腺疾患の病理と臨床②：異型上皮内病変．異型上皮内病変の病理．乳癌の臨床，篠原出版新社 2023; 38: 195-198.

【学会・研究会発表】

1. 村田有也，松井哲，小谷依里奈，月山絵未，笹原真奈美，木下貴之．セルブロック標本を用いた乳癌バイオマーカー検索の有用性に関する検討．第31回日本乳癌学会学術総会．横浜，2023. 7. 1.
2. 船越泉，白石淳一，前島新史，村田有也，波多野まみ，森岡秀夫，吉山晶，吉田朗彦．一次性悪性骨巨細胞腫の一例．第98回日本病理学会関東支部学術集会．東京，2023. 7. 8.
3. 牛窪真理，水口安則，片桐理絵，石川明子，平井智大，安富大祐，東條誠也，福原誠一郎，古後斗牙，伊東伸剛．肝内門脈静脈短絡路(PVシャント)による肝性脳症により意識障害をきたした一例．日本超音波医学会第35回関東甲信越地方会学術集会．2023. 10. 14
4. 牛窪真理，水口安則，片桐理絵，石川明子，中谷穂，田中暁人，白石淳一．超音波検査にて診断した線毛性前腸性肝嚢胞の一例．第77回国立病院総合医学会．広島，2023. 10. 20
5. 村田有也，木下貴之，佐藤茉莉花，手塚日向子，月山絵未，小谷依里奈，松井哲．乳癌の組織亜型によってセンチネルリンパ節生検、腋窩郭清の省略は可能か？第25回SNNS研究会学術集会．東京，2023. 10. 27.
6. 白石淳一．真性多血症の follow up 中に骨髓線維症への移行と局所的な大型異型細胞増生．第25回東京骨髓病理研究会．東京，2024. 3. 1
7. 白石淳一．真皮側への上皮の索状網状増生巣に認められた melanoma in situ の1例．第22回オンラインお茶の水皮膚病理研究会．東京，2024. 3. 18

【その他】

1. 白石淳一．第98回日本病理学会関東支部学術集会．特別講演Ⅰ 座長

臨床腫瘍科

【講演】

1. 須河恭敬. 当院における CGP 検査実施状況. 乳癌ゲノム医療セミナー. 2023. 12. 8.
2. 須河恭敬. 免疫関連有害事象のマネージメントについて. 第一回西三河がんフォーラム. 2023. 10. 25.
3. 須河恭敬. HER2 陽性胃癌診療 Up to Date. 胃癌トータルケア web seminar. 2023. 7. 24.
4. 須河恭敬. 消化器がんに対する薬物療法. 市民公開講座. 2023. 9. 16.
5. 須河恭敬. 胃癌一次治療 Up to date. 胃癌治療の明日を考える会. 2023. 9. 6.

【論 文（原著）】

1. 太田貴洋, 小川千晶, 駒井信子, 工藤彰, 吉川至, 石垣千絵, 大塚知信, 谷地豊. 臨床研究への意識向上を目的とした自施設教育プログラムの導入と成果. 日本病院薬剤師雑誌 2024; 60: 117-122.

【論 文（その他）】

1. 小川千晶. 保険薬局・病院薬剤師がともに考える「伝わる」トレーシングレポートとは. Pharma Style 2024; 40: 11.

【学会・研究会発表】

1. 筒浦萌子, 小川千晶, 武内偲乃, 新保一, 森岡秀夫, 大塚知信. 周術期薬剤業務における抗菌薬適正使用への介入効果. 第6回フレッシュャーズ・カンファランス. 京都, 2023. 6. 11.
2. 渡慶次里佳, 小川千晶, 新保一, 氷渡かおり, 武内偲乃, 稲葉悠, 小田実季, 片山充哉, 大塚知信. バンコマイシン初回投与設計における適正使用推進に向けた取り組みと薬剤師介入効果. 第77回国立病院総合医学会総会. 広島, 2023. 10. 20.
3. 武内偲乃, 小川千晶, 新保一, 氷渡かおり, 稲葉悠, 渡慶次里佳, 小田実季, 片山充哉, 大塚知信. 腎機能低下患者に対するバンコマイシン至適投与量設計の検討. 第77回国立病院総合医学会総会. 広島, 2023. 10. 20.
4. 武内偲乃, 氷渡かおり, 稲葉悠, 小田実季, 筒浦萌子, 栗原智宏. 当院における救急科患者でのバンコマイシン採血ポイントの違いによる腎機能障害出現率の比較. 第72回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第70回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 東京, 2023. 10. 25.
5. 高橋明子, 小川千晶, 筒浦萌子, 河野通寿, 新海朱里, 小松崎祥, 大塚健太郎, 新保一, 安村里絵, 吉川保, 石志紘, 大塚知信. 周術期薬剤業務における介入効果と今後の展望. 第77回国立病院総合医学会総会. 広島, 2023. 10. 20.
6. 小川千晶. 薬薬連携の“理想”を具現化するために: 病院薬剤師の立場から薬薬連携の醸成を本気で考えてみる. 第33回医療薬学会年会. 宮城, 2023. 11. 5.
7. 新保一, 小川千晶. 地域と病院を繋ぐ入退院支援業務「DENEN project」の取り組み: 進化する薬剤師連携. 日本医療マネジメント学会第24回東京支部学術集会. 東京, 2024. 2. 18.
8. 長山佳之, 小川千晶, 工藤彰, 長尾嘉真, 石嶋麗, 今村有那, 大塚健太郎, 大栗宝子, 大塚知信. 薬薬連携連絡会 Polaris の参加人数増加に向けて取り組んだ連携充実加算算定患者のかかりつけ薬局調査. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2024. 神戸, 2024. 3. 2.
9. 石嶋麗, 小川千晶, 武重彩子, 工藤彰, 長尾嘉真, 長山佳之, 大塚健太郎, 大栗宝子, 今村有那, 大塚知信. 膵癌化学療法時における糖尿病専門医による血糖管理状況と薬剤師の役割. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2024. 神戸, 2024. 3. 2.
10. 長尾嘉真, 小川千晶, 工藤彰, 大栗宝子, 大塚健太郎, 長山佳之, 今村有那, 石嶋麗, 大塚知信. がん化学療法に対するホスネツピタントの有効性と安全性の実態調査. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2024. 神戸, 2024. 3. 2.

11. 月岡良太, 市村丈典, 小川千晶, 辻将成, 村田勇人, 宮原克明, 宮田広樹, 弓削吏司, 角佳亮, 吉村朋展, 鈴木賢一, 野村久祥, 清水久範. 保険薬局におけるハイリスク薬服用患者の継続的な QALY 評価の検証. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2024. 神戸, 2024. 3. 2.

【講演】

1. 小川千晶. 肺癌領域で使用する経口抗がん薬の適正な薬物治療マネジメント実践するためのヒント. 日本化薬株式会社. Web 開催, 2023. 6. 27.
2. 小川千晶. 薬剤師視点考える効果的で安全な肺癌薬物治療マネジメント. 大鵬薬品工業株式会社. Web 開催, 2023. 7. 5.
3. 小川千晶. 岡山倉敷薬剤師連携セミナー: がん化学療法の薬薬連携. 株式会社空庵いほり薬局. 岡山, 2023. 7. 18.
4. 武内偲乃. 救急科病棟におけるバンコマイシン薬物血中濃度モニタリング運用変更への取り組み. 関信地区国立病院薬剤師会第 89 回例会. Web 開催, 2023. 9. 30.
5. 小川千晶. がん治療の実際②: 時系列による症例解説(乳癌編). 薬局共創未来人財育成機構. Hybrid 開催, 2023. 11. 19.
6. 小川千晶. 再 がん治療の実際②: 時系列による症例解説(乳癌編). 薬局共創未来人財育成機構. Hybrid 開催, 2023. 12. 27.
7. 長尾嘉真. Lilly Breast Cancer Conference: チーム医療を生かした乳癌診療. 日本イーライリリー株式会社. Web 開催, 2024. 1. 16.
8. 小川千晶. 転移再発乳癌の地域連携を考える: エンハーツの副作用マネジメントを含めて. 第一三共株式会社. Web 開催, 2024. 1. 25.
9. 工藤彰. 薬剤師会員報告を参考に初めてのプレアボイド. 令和 5 年度関信地区国立病院薬剤師会スキルアップ研修. Web 開催, 2024. 1. 30.
10. 小川千晶. 経口抗がん剤の話題を中心としたトレーシングレポートの活用について. 青森県病院薬剤師会・青森県薬剤師会・大鵬薬品工業株式会社. Hybrid 開催, 2024. 2. 10.
11. 武内偲乃. 臨床検査技師さんに知ってほしい抗菌薬のいろは: 基礎から実践まで. 令和 5 年度臨床検査技師実習技能研修 2(微生物). 東京, 2024. 2. 16.
12. 工藤彰. irAE マネジメントができる薬剤師を目指した早期発見・介入の実践. 薬剤師のためのオンコロジーセミナー. 小野薬品工業株式会社. Web 開催, 2024. 2. 28.
13. 小川千晶. TR のフォーマットと運用について. 東京都がん診療連携協議会研修部会薬剤師小委員会・東京都薬剤師会・東京都病院薬剤師会. Hybrid 開催, 2024. 3. 9.

【論文】

1. 伴佳子, 穴井美鈴, 小森直美, 高橋はるな, 岩崎多津代, 宮川京子, 菅原恵子, 池尻操, 濱田彩, 寺内千佳子. 病院で化学療法中の再発がん患者に対して看護師が実践したディグニティセラピー(実践報告). 日本がん看護学会誌 2023; 37 : 187-193.

【著書】

1. 岩崎多津代, 他. 5 副作用対策: 悪心・嘔吐の予防・治療薬. 細矢美紀, 里見絵理子, 岡本禎晃編著, がん疼痛治療薬まるわかり BOOK 第 2 版. 東京, 照林社. 2023.9.4 : 200-205.
2. 岩崎多津代, 吉田こずえ. リレーエッセイがん看護 CNS 奮闘中: がんとともに社会で生きる患者を支えるための調整. 企画, 連載にあたって. がん看護 2024; 29: 79.
3. 浅子久美子. 『医療』で多職種と共に取り組む「誤嚥」「窒息」予防について (2024 年掲載)

【学会・研究会発表】

1. Ban K, Komori N, Anai M, Takahashi H, Iwasaki T, Sugahara K, Miyakawa K, Ikejiri M, Hamada A, Terauchi C. Obstacles of dignity therapy implemented by nurses in general hospitals. International Conference on Cancer Nursing (ICCN) 2023. 2023.9.29.
2. 伴佳子, 小森直美, 高橋はるな, 菅原恵子, 穴井美鈴, 岩崎多津代, 濱田彩, 池尻操. 看護師が実践するディグニティセラピーに対する実戦経験者の認識. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 山口, 2023.12.10.
3. 近藤才子. 社会のインフラとしてのケア～優しさを伝えるケア技術: ユマニチュード. 座長. 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024.2.18.
4. 阿部聖世. 看護業務. 座長. 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024.2.18.
5. 岩崎多津代, 増谷まり. 高度急性期病院におけるがん看護の質向上に向けての取り組み. 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024.2.18.
6. 浅子久美子, 宮田佳奈, 平野郁子, 大島妙子, 佐藤三千世, 前田有紀. 高度急性期病院の多職種連携により口腔ケア・誤嚥予防の取り組み. 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024.2.18.
7. 白濱奈歩, 黒崎直央, 武田文月, 阿部聖世. 夜勤看護補助体制の構築に関する報告. 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024.2.18.
8. 太泉昌也. 特定行為研修修了者の活動から見る効果. 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024.2.18.
9. 益子直紀, 木全明子, 小林幹紘, 橋本理恵子, 太田佳男, 遠山義人, 岩崎多津代, 加藤由香, 横井夢律美, 高根秀成, 平田陽香, 西岡英菜, 水流添秀行, 津村明美, 齊藤太樹, 芝田寛子. 交流集会 がん向き合う A 世代の ACP を考えよう: 今を生きる若者の意向を支援するために. 第 38 日本がん看護学会学術集会. 神戸, 2024.2.24.
10. 益子直紀, 木全明子, 小林幹紘, 橋本理恵子, 太田佳男, 遠山義人, 岩崎多津代, 加藤由香, 横井夢律美, 高根秀成, 平田陽香, 西岡英菜, 水流添秀行, 津村明美, 齊藤太樹, 芝田寛子. がん向き合う A 世代の ACP を考えよう. 第 38 AYA week イベント. 日本がん看護学会小児・AYA 世代 SIG. 2024.3.10.

11. 浅子久美子. 多職種で取り組む誤嚥・窒息予防ー摂食嚥下障害看護認定看護師として考える安全な食支援. 第 77 回国立総合医学会シンポジウム. 広島, 2023. 10. 21.
12. 古舘加奈子. 紫外線照射装置を用いた環境整備の取り組みとその効果: COVID-19 対策から耐性菌対策. 第 77 回国立病院総合医学総会. 広島, 2023. 10. 21.

【講 演】

1. 岩崎多津代, 岸田さな江, 林ふり子, 笹原朋代, 荒幡智子, 柏木夕香, 重野朋子, 西山みどり, 前滝栄子, 村上真由美. 日本緩和医療学会主催 2023 年度 ELNEC-J カリキュラム指導者フォローアップ研修会. 2023. 12. 2.
2. 中丸真. 人工呼吸管理における患者観察. 人工呼吸器 Online 光電フェア Webinar. 2024. 1.
3. 齋藤望. 不眠症の診断と治療の向上. 医療安全 WEB セミナー. エーザイ・ジャパン主催. 2024. 1. 17.
4. 笹岡綾子. がんサポーターブケア Web セミナー2023. 座長. 協和キリン株式会社, 2023. 12. 13.
5. 玉木亜矢子. 皮膚は排泄ケア認定看護師の日々の業務と QOL 向上のためのストーマ装具選択について. 株式会社ホリスター主催, 2023. 10. 26.
6. 玉木亜矢子. 皮膚排泄ケア認定看護師の日々の業務と QOL 向上のためのストーマ装具選択について. 株式会社ホリスター, 2023. 10. 26.
7. 玉木亜矢子. 尿路系ストーマ増設の実際の装具選択とケア方法. アルケア株式会社主催, 2023. 3. 29.

【その他】

1. 近藤才子. 全国国立病院看護部長協議会役員 会長
2. 近藤才子. 全国看護部長連絡会 委員
3. 阿部聖世. 東京都看護協会社会経済福祉委員会 委員長
4. 渋谷直子. 国立病院機構関東信越グループ医療安全管理者会議議長
5. 岩崎多津代. 東京都がん診療連携協議会研修部会 看護小委員会 委員
6. 岩崎多津代. 日本緩和医療学会 ELNEC-J コアカリキュラムワーキンググループ委員 (2020 年～)
7. 岩崎多津代. 日本緩和医療学会 ELNEC-J コアカリキュラム指導者用ガイド 2024 年度版・ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム開催ハンドブック 2024 年度版改訂作業
8. 岩崎多津代. 日本がん看護学会 SIG 小児・AYA 世代がん看護研究グループ委員

放射線科(技師)

【論文】

1. 新井知大, 石原敏裕, 渡邊雄一, 武田聡司, 深水良哉, 石田隆人, 飯島颯, 稲葉護, 小西英一郎, 金子貴之, 吉田淳一, 北川智彦, 茄子川集, 灘尊則, 高橋大樹, 大山隼生, 小池貴久, 村田渉, 江端清和, 金子順一. 放射線災害分野に関する e-learning 研修システムの開発とその教育効果. Jpn J Health Phys 2023; 58: 203-208.

【学会・研究会発表】

1. 菅野悠, 深水良哉, 福原かおる, 川崎博, 山崎大輔. 体幹部撮影を含めた肺動脈と下肢静脈に対する Spilit bolus 法の被ばく低減効果. 国立病院関東甲信越放射線技師第 61 回学術研究会. 東京, 2023. 5. 27.
2. 菅野悠, 深水良哉, 福原かおる, 川崎博, 山崎大輔. 大動脈撮影と体幹部撮影を含めた肺動脈・下肢静脈撮影に対する Split bolus 法の被ばく低減効果. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 21.
3. 川崎博司. 放射線技術部門におけるタスクシフト/シェアのアンケート調査報告. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 21.
4. 福原かおる, 深水良哉, 川崎博司, 渋谷直子. 放射線科におけるインシデントとその対策. 日本医療マネジメント学会第24回東京支部学術集会. 東京, 2024. 2. 18.

【講演】

1. 石橋貴徳. 令和 5 年度医療技術職員等新採用者職員研修・新採用事務職員研修. 関東信越グループ. 東京, 2023. 5. 17.
2. 宮下慎也. 令和 5 年度 チーム医療推進のための研修 1 (NST): 放射線治療について. 関東信越グループ. 東京, 2023. 9. 12.
3. 宮下慎也. 密封小線源治療安全取扱講習会(ヨウ素 125 シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療および)高線量率ラルス医療安全取扱講習会)前立腺小線源治療の線源管理. 公益社団法人日本アイソトープ協会 Web 講習会, 2024. 2. 21.
4. 福原かおる. 2023 年度第 1 回災害対策研修会: 緊急被ばく医療研修会: 3. 11 を風化させない. 公益社団法人東京都放射線技師会. 東京, 2024. 3. 9

臨床検査科(技師)

【著 書】

1. 小林昌弘, 結核菌の pyrazinamide 感受性の重要性と結果判定時の注意点について. 東京都医学検査 2023; 51: 272-276.
2. 益田泰蔵. 社会保障・福祉関連法規. 最新臨床検査学講座関係法規 2024 年版. 医歯薬出版株式会社. 2024: 117-128.

【学会・研究会発表】

1. 板野瑞希, 他. 組換えレンチウイルスを用いた病原体核酸検査の精度管理試料試作に関する研究. 第 71 回日本化学療法学会学術集会. 横浜, 2023. 4. 29.
2. 三條花奈, 他. 超音波検査が診断に有用であった左尿管癌の一例. 第 48 回日本超音波検査学会学術集会. 大阪, 2023. 6. 10.
3. 吉沢咲恵, 他. 当院で経験した肉芽腫性乳腺炎. 第 64 回日本臨床細胞学会, 名古屋, 2023. 6. 10.
4. 板野瑞希, 他. AGC 判定症例の後方視的検討: ベセスダ導入から 10 年で変化はみられたのか. 第 64 回日本臨床細胞学会総会. 名古屋, 2023. 6. 11.
5. 山本伸晃, 他. 症例検討: 子宮体部(症例提示・解説). 第 61 回東京都細胞検査士会学術研修会. 東京, 2023. 6. 17.
6. 吉村咲子, 他. 異常リンパ球様細胞形態を呈した t(9;14)(p13;q32)を伴う多発性骨髄腫. 第 24 回日本検査血液学会学術集会. 名古屋, 2023. 7. 30.
7. 佐久間未来, 他. 超音波における脂肪量測定法の妥当性確認. 第 51 回国臨協関信支部学会. Web, 2023. 9. 2.
8. 石川政志, 他. 救急外来検体の結果迅速報告のための提案: 提案できる検査科を目指して. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 20.
9. 須江悠人. 免疫機能正常者の入院早期の血液培養から分離された *Candida kefyr* の 1 症例. 第 70 回日本化学療法学会東日本支部総会・第 72 回日本感染症学会東日本地方会学術集会. 東京, 2023. 10. 26.
10. 小林昌弘. 臨床検体を用いての MRSA、MSSA に対する Xpert MRSA/SA BC の性能評価, 第 35 回日本臨床微生物学会. 横浜, 2024. 2. 10.
11. 須江悠人. 当院における *Streptococcus galloyticus subsp pasteurianus* 菌血症の臨床背景について. 第 35 回日本臨床微生物学会. 横浜, 2024. 2. 11.
12. 中谷 穂, 他. 検体回収受け渡しリスト作成の取り組み. 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024. 2. 18.

【講 演】

1. 小林昌弘, 吉村咲子. バーチャルスライドを用いた症例報告. 第 51 回国臨協関信支部学会. Web, 2023. 9. 2.
2. 小林昌弘. 結核対応における抗酸菌検査. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 21.
3. 宮下雅子. 輸血担当技師に必要なこと(認定輸血検査技師試験体験談含む). 臨床検査技師実習技能研修 3(輸血). 東京, 2024. 1. 19.

【その他】

1. 中谷 穂. 腹部領域におけるリニア探触子の有用性. 第 48 回日本超音波検査学会学術集会. hybrid 開催, 大阪, 2023. 6. 10.
2. 中谷 穂. 編集委員会企画: Awareness Sessions (啓発セッション). 第 48 回日本超音波検査学会学術集会. hybrid 開催, 大阪, 2023. 6. 11.
3. 山本 伸晃. 病理検査. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 19.
4. 益田 泰蔵. 一般口演 2 (医療安全・医療の質) 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024. 2. 18.

【学会・研究会発表】

1. 持永悠, 新藤充行, 岩永健作, 小林潤平. CARTO の波形認証機能を活用した複合横隔電位モニタリング方法の検討. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023. 福岡, 2023.11.18.
2. 持永悠, 新藤充行, 岩永健作, 小林潤平. 植込み型ループレコーダーにおけるセンシング不応期および Decay Delay 設定の検討. 第 16 回植込みデバイス関連冬季大会. 広島, 2024.2.9.
3. 持永悠. アブレーションの基礎. 全国国立病院機構臨床工学技士協議会東海北陸支部学術講演会. オンライン, 2024.2.22
4. 平尾健, 眞隆一. ビッカースタッフ型脳幹脳炎に対して単純血漿交換療法を施行した一例. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.21

【その他】

1. 持永悠 (シンポジスト). 循環器領域業務におけるタスクシフトがもたらすもの. 日本医工学治療学会第 39 回学術大会. 川越, 2023.2.28
2. 眞隆一 (座長). パネルディスカッション. 国立病院機構の臨床工学技士の今後 (優秀な人材確保と人材育成). 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023.10.20

【論 文】

1. Nagashima S, Yamamoto M, Inuzuka Y, Irahara M, Miyaji Y, Tadaki H, Ito S, Masuda S, Ito Y, Saito Y, Kobayashi S, Morita H, Yoshioka T, Shimizu H, Arai K, Ohya Y, Saito H, Matsumoto K. Tolerability and safety of a new elimination diet for pediatric eosinophilic gastritis and duodenitis. Allergology International 2023; 72: 306-315.

【学会・研究会発表】

1. 伊藤恵祐, 市村法子, 相川友希, 田部井理紗, 森川恵, 岸本陽子, 宮内真佑子, 伊東祥幸, 田所真紀子, 門松賢. 下痢における粘度調整食品の有用性について. 第 25 回関東信越国立病院管理栄養士協議会学会. 東京, 2023. 6. 17.
2. 伊東祥幸, 田部井理紗, 伊藤恵祐, 森川恵, 宮内真佑子, 田所真紀子, 下田啓文. 周術期栄養管理実施加算の現状と今後の課題. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 20.

【講 演】

1. 田所真紀子. 東京家政学院大学. 総合演習 I. 2023. 6. 21.
2. 田所真紀子. 北海道文教大学. 管理栄養士の業務および役割をもっと理解する会. 2023. 8. 5.
3. 田部井理紗. がん患者さんの食事について. 緩和ケアセミナー. 2023. 9. 7.
4. 田所真紀子. 国立病院機構関東信越グループ. 栄養管理実習技能研修. 2023. 12. 11.
5. 田所真紀子. 東京医療保健大学. 臨床栄養学演習. 2023. 4. 18.

【その他】

1. 田所真紀子. シンポジウム座長. 管理栄養士の未来: 管理栄養士の将来あるべき姿を考える. 国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 21.

院内感染対策室 (ICT/AST)

【論文】

1. Shinjoh M, Furuichi M, Tsuzuki S, Iqbal A, Fukushima N, Soen S, Fukushima H, Kobayashi K, Yamada G, Narabayashi A, Tsunematsu K, Maeda N, Shimoyamada M, Yoshida M, Kuramochi Y, Shibata A, Yamaguchi Y, Yaginuma M, Takahashi T, Ishikane M, Sugaya N; Keio Pediatric Influenza Research Group. Effectiveness of inactivated influenza and COVID-19 vaccines in hospitalized children in 2022/23 season in Japan: The first season of co-circulation of influenza and COVID-19. *Vaccine* 2023; 41: 4777-4781.
2. Higuchi T, Furuichi M, Maeda N, Tsugawa T, Ito K. Effects of probiotics in children with acute gastroenteritis: A systematic review and meta-analysis focusing on probiotics utilized in Japan. *J Infect Chemother* 2024; 30: 337-342.

【著書】

1. 小林昌弘. 結核菌の pyrazinamide 感受性の重要性と結果判定時の注意点について. 東京都医学検査 2023; 51.

【学会・研究会発表】

1. 栗原智宏. シンポジウム熱傷感染管理のストラテジー: 熱傷患者の感染対策 日本熱傷診療ガイドラインの変遷. 第 49 回日本熱傷学会総会・学術集会. 東京, 2023. 5. 25
2. 栗原智宏, 片山充哉, 林智史, 古舘加奈子. 国立病院機構東京医療センターにおける新型コロナウイルス感染症対応. 第 21 回世田谷区医師会医学会. 東京, 2023. 12. 2
3. 栗原智宏. パネルディスカッション: 救急領域 熱傷管理の綺麗なアプローチ: 重症熱傷患者における感染制御. 第 32 回日本熱傷学会関東地方会. 千葉, 2024. 1. 27
4. 前田直則, 森伸晃, 青木弘太郎, 橋本伸弘, 簗生なおみ, 三春晶嗣, 新庄正宜. 2 回再燃した ESBL 産生大腸菌による新生児髄膜炎. 第 55 回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2023. 11. 25.
5. 中瀬大, 尾田正仁, 新美望, 小林昌弘, 森伸晃, 三鴨廣繁, 片山充哉. カルバペネム投与中に耐性が誘導され抗菌薬変更によって治療しえた *Aeromonas veronii* 菌血症の一例. 第 72 回東日本感染症学会. 2023. 10. 25.
6. 湯川堅也, 尾田正仁, 森伸晃. 血液培養から酵母様真菌が分離 その後 *Exophiala dermatitidis* と質量分析で同定された一例. 第 72 回東日本感染症学会. 2023. 10. 25.
7. 須江悠人, 小林昌弘, 湯川堅也, 尾田正仁, 片山充哉, 森伸晃. 免疫機能正常者の入院早期の血液培養から分離された *Candida kefyr* の一例. 第 72 回東日本感染症学会. 2023. 10. 25.
8. 古舘加奈子, 紫外線照射装置を用いた環境整備の取り組みとその効果: COVID-19 対策から耐性菌対策. 第 77 回国立病院総合医学会総会. 広島, 2023. 10. 21.
9. 武内偲乃, 小川千晶, 新保一, 氷渡かおり, 稲葉悠, 渡慶次里佳, 小田実季, 片山充哉, 大塚知信. 腎機能低下患者に対するバンコマイシン至適投与量設計の検討. 第 77 回国立病院総合医学会総会. 広島, 2023. 10. 20.
10. 武内偲乃, 氷渡かおり, 稲葉悠, 小田実季, 筒浦萌子, 栗原智宏. 当院における救急科患者でのバンコマイシン採血ポイントの違いによる腎機能障害出現率の比較. 第 72 回日本感染

- 症学会東日本地方会学術集会. 第 70 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 東京, 2023. 10. 25.
11. 渡慶次里佳, 小川千晶, 新保一, 氷渡かおり, 武内偲乃, 稲葉悠, 小田実季, 片山充哉, 大塚知信. バンコマイシン初回投与設計における適正使用推進に向けた取り組みと薬剤師介入効果. 第 77 回国立病院総合医学会総会. 広島, 2023. 10. 20.
 12. 須江悠人. 免疫機能正常者の入院早期の血液培養から分離された *Candida kefyr* の 1 症例. 第 70 回日本化学療法学会東日本支部総会. 第 72 回日本感染症学会東日本地方会学術集会. 2023. 10. 26
 13. 小林昌弘, 須江悠人, 角田雅治, 遠藤光, 尾田正仁, 片山充哉, 森伸晃. 臨床検体を用いての MRSA、MSSA に対する Xpert MRSA/SA BC の性能評価. 第 35 回日本臨床微生物学会. 2024. 2. 10
 14. 須江悠人, 小林昌弘, 角田雅治, 遠藤光, 尾田正仁, 片山充哉. 当院における *Streptococcus galloyticus* subsp *pasteurianus* 菌血症の臨床背景について. 第 35 回日本臨床微生物学会. 2024. 2. 11

【講演】

1. 栗原智宏. 院内感染対策の実際. 令和 5 年度関東信越グループ院内感染対策研修. web 開催, 2024. 1. 22
2. 片山充哉. NPに必要な抗菌薬の知識. 第1回日本NP学会関東地方会学術集会・総会. 2023. 8. 19.
3. 片山充哉. 日本臨床微生物学会アドバンスドセミナーファシリテーター. 2023. 10. 14.
4. 片山充哉. ポストコロナ時代の AMR. 21 回世田谷区医師会医学会. 東京, 2023. 12. 2.
5. 武内偲乃. 救急科病棟におけるバンコマイシン薬物血中濃度モニタリング運用変更への取り組み. 関信地区国立病院薬剤師会 第 89 回 例会. Web 開催, 2023. 9. 30.
6. 武内偲乃. 臨床検査技師さんに知ってほしい抗菌薬のいろは: 基礎から実践まで. 令和 5 年度臨床検査技師実習技能研修 2(微生物). 東京, 2024. 2. 16.
7. 小林昌弘. バーチャルスライドを用いた症例報告. 第 51 回国臨協関信支部学会. 2023. 9. 2
8. 小林昌弘. 結核対応における抗酸菌検査. 第 77 回国立病院総合医学会. 2023. 10. 21.

【論文】

1. 田村浩美. 2021 年シンポジウム 10 年を振り返り, 未来のビジョンへ今だからこそ語ろう JNP の看護観. 診療看護師(NP)の経験を通して考える私の看護観. 医療 2023; 77: 10-12.

【学会・研究会発表】

1. 山森有夏, 山上文, 迫内晴香, 上田健太郎, 鬼村優一, 弓野大. 自宅に籠りがちな在宅心不全患者の生活の質改善を目指した診療看護師の全人的アプローチ. 第 27 回日本心不全学会学術集会. 横浜, 2023. 10. 7.
2. 中園紗希子. 当院の Acute Pain Service: 外科病棟看護師へのアンケート調査から. 第 9 回日本 NP 学会学術集会. 札幌, 2023. 10. 21.
3. 山森有夏. 高度急性期病院の臨床倫理コンサルテーション活動における診療看護師(NP)の倫理的役割と課題. 第 9 回日本 NP 学会学術集会. 札幌, 2023. 10. 22.
4. 利光恵利子. 脳神経外科での抗てんかん薬調整からみた診療看護師(NP)の役割. 第 9 回日本 NP 学会学術集会. 札幌, 2023. 10. 21.
5. 尾石早織, 高以良仁, 栗原智宏. トルコ地震における診療看護師(NP)の国際緊急援助隊派遣報告. 第 9 回日本 NP 学会学術集会. 札幌, 2023. 10. 22.
6. 岩下和樹, 忠雅之. 日常生活関連と他職種連携における診療看護師(NP)の活動実態調査: 医師との活動の比較に焦点をあてて. 第 9 回日本 NP 学会学術集会. 札幌, 2023. 10. 21.
7. 中村英樹, 森庸介, 加藤奈々子, 櫻井裕教, 吉武美緒, 茂田宏恵, 安村里絵, 吉川保. 挿管チューブを誤って嚥んだことにより陰圧性肺水腫を引き起こした一例. 第 9 回日本 NP 学会学術集会. 札幌, 2023. 10. 21.
8. 川名由美子. 東京医療センターにおける JNP の教育的活動に関する報告と今後の展望. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 20.
9. 田村浩美, 中園紗希子, 尾石早織, 利光理恵子, 川名由美子, 森泉元, 青木瑞智子, 川村知也, 山森有夏, 堀深雪, 中村英樹, 太田慧, 後藤哲哉. 診療看護師による PICC 挿入の現状について. 第 77 回国立病院総合医学会. 呉, 2023. 10. 21.
10. 村野美歩, 高橋智子, 松山友子, ハーネト明香. 仰臥位制限下における後頸部温罨法が心理面および生体に及ぼす影響. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 下関, 2023. 12. 10.
11. Yamamori Y, Tara S, Yamashita H, Kurihara T. Activity report of a general internal medicine nurse practitioner working in Japan with vulnerable elderly hospitalized patients. 1st Asian and Pacific Congress for Nurse Practitioners, Taipei, 2023. 12. 2.
12. 田村浩美, 中村英樹, 太田慧, 栗原智宏. (シンポジスト) 特定看護師の活動と今後の課題について. 第 47 回日本救医学会関東地方会学術集会. 日高, 2024. 2. 17.
13. 田村浩美, 中村英樹, 太田慧, 後藤哲哉. 診療看護師資格取得後の活動の変化と役割について. 日本マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 目黒, 2024. 2. 18.
14. 中村英樹, 田村浩美, 後藤哲哉, 栗原智宏. 地域で暮らすを支えるために特定行為研修終了者が行う PICC を通じて. 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 目黒, 2024. 2. 18.
15. 尾石早織. 国際緊急援助隊医療チーム EMT Type2 における隊員の健康管理. 第 29 回日本災害医学会総会・学術集会. 京都, 2024. 2. 23.

【講 演】

1. 堀深雪. 血液ガスの読み方基本 第1回・第2回. 東京都看護協会. 新宿, 2023. 4. 23.
2. 堀深雪. 診療看護師(NP)教育について(当院麻酔科での NP 導入の実際). 東京医科大学病院 診療部・看護部幹部対象講演会. 新宿, 2023. 5. 31.
3. 利光恵利子. 第3回 NP サミット. 藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科主催, 名古屋, 2023. 5. 13.
4. 青木瑞智子. 東京医療センターにおける栄養管理: NP(診療看護師)の視点から. 栄養が変える ベイシメントジャーニー. 急性期からの早期経口栄養管理を考えるセミナー. ネスレ日本株式会社, 品川, 2023. 5. 16.
5. 堀深雪. 術後疼痛管理チームにおける診療看護師の役割. テルモ株式会社社内講演会. 新宿, 2023. 9. 12.
6. 堀深雪. 診療看護師の麻酔科における活躍のエビデンスから. THCU NP フォーラム 2023. 目黒, 2023. 12. 2.
7. 森泉元. PICC によるタスクシフト事例: 今後の展開について. カーディナルヘルス PICC Webinar 医療従事者対象講演会. カーディナルヘルス株式会社, 2023. 12. 5.
8. 山森有夏. 自分らしくあり続けるためにアドバンスケアプランニング(ACP). 東京医療センターがんサロン(オンライン開催), 東京, 2024. 2. 8.

【その他】

2. 川村知也. NP によるチーム医療特論: 周術期医療の場面におけるチーム医療. 東京医療保健大学大学院1年次生授業. 目黒, 2023. 6. 6.
3. 利光恵利子. NP 論: 診療看護師としての活動①病院におけるクリティカルケア領域の活動の実際(脳神経外科における周術期の患者への関わりと役割の実際、今後の課題と展望) 東京医療保健大学東ヶ丘・立川看護学部4年次生授業. 目黒, 2023. 10. 25.
4. 尾石早織. 国立病院機構診療看護師説明会. 国立病院機構本部主催. 東京, 2024. 3. 18.

【学会発表】

1. 津々見瑞恵. コロナ感染以降の連携から見えてきた課題：活動報告を通して. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2024. 10. 21.
2. 草野愛. 他施設との連携：施設見学におけるアンケート結果から見えた課題. 第 77 回国立病院総合医学会. 広島, 2023. 10. 21
3. 河野佳奈. 介入日数短縮化に向けた取り組み. 医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024. 2. 18
4. 千葉あかり. アウトリーチ型介入の取り組みから見えた課題. 日本医療マネジメント学会第 24 回東京支部学術集会. 東京, 2024. 2. 18

【講演】

1. 小笠原太. 高次脳機能障害の理解を深め共に生きる社会を目指す. 目黒区西部地区多職種研修会. 東京, 2023. 10. 19.
2. 小笠原太. ACP とはいうものの・・・等々力地区他職種連絡会. 東京, 2023. 11. 14.

【論文】

1. Suga A, Mizobuchi K, Inooka T, Yoshitake K, Minematsu M, Tsunoda K, Kuniyoshi K, Kawai Y, Omae Y, Tokunaga K, Hayashi T, Ueno S, Iwata T. A homozygous structural variant of RPGRIP1 is frequently associated with achromatopsia in Japanese patients with IRD. Genetics in Medicine OPEN 2023; March 26, 2024.
2. Pan Y, Iwata T. Molecular genetics of inherited normal tension glaucoma. Indian J Ophthalmol 2024 Feb 23.
3. Pan Y, Iwata T. Role of ARMS2/HTRA1 risk alleles in the pathogenesis of neovascular age-related macular degeneration. Taiwan J Ophthalmol 2024 January 10. Online ahead of print.
4. 潘洋, 須賀晶子, 木村至, 木村肇二郎, 峯岸ゆり子, 中山真央, 吉武和敏, 家島大介, 峰松尚子, 山本めぐみ, 間瀬文彦, 高本光子, 志賀由己浩, 新家眞病, 柏木賢治, 相原一, 中澤徹, 岩田岳. 日眼会誌 2023; 127: 507.
5. Shiga Y, Hashimoto K, Fujita K, Maekawa S, Sato K, Kubo S, Kawase K, Tokumo K, Kiuchi Y, Mori S, Nakamura M, Iwata T, Nishiguchi KM, Nakazawa T. Identification of OPTN (Asn51Thr): a novel pathogenic variant in primary open-angle glaucoma. Genet Med Open. Jan 2024
6. Nakajima A, Kuniyoshi K, Iwahashi C, Mano F, Hayashi T, Kondo H, Mizobuchi K, Matsushita I, Suga A, Yoshitake K, Nakano T, Iwata T, Matsumoto C, Kusaka S. Optical coherence tomography findings of the peripheral retina in patients with congenital X-linked retinoschisis. Front Med (Lausanne). 2023; 10: 1280564.
7. Pan Y, Fu Y, Baird PN, Guymer RH, Das T, Iwata T. Exploring the contribution of ARMS2 and HTRA1 genetic risk factors in age-related macular degeneration. Prog Retin Eye Res 2023; 97: 101159.
8. Raghavendran HRB, Kumaramanickavel G, Iwata T. Editorial: Personalized medicine: Where do we stand regarding bench to bedside translation? Front Med (Lausanne). 2023; 10: 1243896.
9. Matsushita I, Izumi H, Ueno S, Hayashi T, Fujinami K, Tsunoda K, Iwata T, Kiuchi Y, Kondo H. Functional characteristics of diverse PAX6 mutations associated with isolated foveal hypoplasia. Genes (Basel). 2023; 14: 1483.

【著書】

1. 潘洋, 岩田岳. アルギニンメチル基転移酵素 METTL23 変異と正常眼圧緑内障. 医学のあゆみ 2023; 287: 24507-24508.
2. Takeshi Iwata (Eds), Gyan Prakash (Eds). Advances in Vision Research. Volume IV, Springer Nature, 2024.

【学会・研究会発表】

1. Pan Y. Functional analysis of METTL23 c.84+60delAT in normal-tension glaucoma. The 39th Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress. Indonesia, 2024.2.22.
2. Iwata T. Multi-omic studies of inherited eye disease by the Japan Eye Genetics Consortium. ARVO. New Orleans, 2023.4.24.
3. Iwata T. METTL23 mutation alters histone H3R17 methylation in normal-tension glaucoma. ARVO. New Orleans, 2024.4.26.
4. Iwata T. METTL23 mutation alters histone H3R17 methylation in normal-tension glaucoma. ASHG. Washington, 2024.11.4.
5. Iwata T., Ayyagari R, Fu Y, Baird P, DeAngelis M, Williams B. ARVO Special Interest Group (SIG). Virtual, 2024.6.29.

【講演】

1. 岩田 岳. 家族性緑内障の全ゲノム解析と発症機序解明による治療法の探索. 日本緑内障学会. 2024.9.8.
2. Iwata T. Collaborative research of genetic eye diseases through Japan and Global Eye Genetics Consortium. Ophthalmological Society of South Africa. 2024.3.1.